

III 臨床業績

医 局

【内 科】

(血液内科)

【診療概況】 令和5年度

血液内科は井田桃里が常勤医として担当し、外来診療においては週2回(木曜日・金曜日)新潟大学血液内科学教室から出張医のサポートをいただいています。

当科で診療している疾患について少しご紹介します。

急性白血病では、無菌室での強力な化学療法が必要です。若年者の場合は、寛解後に同種造血幹細胞移植が適応となる場合もあり、移植適応症例は、長岡赤十字病院で加療お願いしています。新規治療薬の登場もあり、十分な治療を行えば白血病といえども寛解となることも珍しくない疾患になってきています。

慢性骨髄性白血病はかつて同種造血幹細胞移植以外には治す手立てのない疾患でしたが、今ではグリベックを始めとするチロシンキナーゼ阻害剤により、5年生存率が90%以上という驚異的な成績が示されています。最近ではチロシンキナーゼ阻害剤の長期使用による有害事象が問題となり、経過が良好な場合は薬剤を中止する臨床試験が行われています。

慢性リンパ性白血病の患者さんも少数ながらおり、多くの症例は無治療経過観察の対象です。治療適応となる場合も、治癒を望むことは難しいのですが新規治療薬などにより病勢をコントロールしてQOLを維持することは可能になっています。

悪性リンパ腫の症例はかなり多く、正確な組織診断に基づき、タイプに応じた適切な治療を行っています。B細胞性リンパ腫はリツキシマンの導入により治療成績は向上し、治癒の確率が高くなっています。再発・難治のT細胞性リンパ腫に対する新規治療薬が次々と登場し、これまで治療が難しかった症例にも選択肢が増えました。

多発性骨髄腫も症例は多くいます。数年前から新規治療薬が次々と導入され、病勢のコントロールに寄与していますが、治癒を望むことは今なお難しいのが現状です。治療の選択肢が増え生存期間も延長し、腫瘍性疾患ではありますが慢性疾患としての色合いが濃くなっている分野の一つです。

造血器腫瘍以外では骨髄異形成症候群(MDS)の患者が多いのですが、残念ながらこれといった治療法がなく、輸血で対応せざるを得ません。低リスクの症例の中にはエリスロポエチン製剤の大量投与が有効なことがあります。また、高リスクのMDSに対して azacytidine (ビダーザ) という薬が使われます。文献的には生存期間の延長が示されてはいるものの、画期的というにはほど遠いと言わざるを得ません。

厚生労働省が難病に指定している再生不良性貧血や特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) も、最近では治療成績が向上しています。特に ITP は病態の解明が進み、ステロイドや摘脾の他に、トロンボポエチン受容体作動薬が用いられ、その有効性が確認されています。トロンボポエチン受容体作動薬はもとも血小板を増やす薬として開発されたのですが、再生不良性貧血にも有用であることが示され、臨床応用されています。

最近の化学療法の進歩は著しく、その恩恵を受けている方も大勢いらっしゃいます。十年前と比べると、血液疾患も入院ではなく外来通院で治療を継続できることが多くなりました。柏崎地域は高齢者が多く、若い人と同じような薬物療法ができない場合も多く、ガイドラインも踏まえた上で病気のみでなく「一人の人間としての患者を診る」という姿勢を大事にしたいと思っています。

キャパシティの問題はありますが、基本的には全ての血液疾患の診療が当院で可能です。今後も柏崎・刈羽地域の方々の血液疾患は全て引き受けるという気概を持って、診療にあたりたいと思います。

この1年間に当院で診断した新規血液疾患患者数は、下表の通りです。

	2023年1月～12月
急性骨髄性白血病(AML)	1
急性リンパ性白血病(ALL)	1
慢性骨髄性白血病(CML)	2
慢性リンパ性白血病(CLL)	1
成人 T 細胞白血病/リンパ腫(ATLL)	0
骨髄異形成症候群(MDS)	22
慢性骨髄増殖性疾患(CMPD)(CML 以外)	2
悪性リンパ腫(ML)	12
多発性骨髄腫(MM)	5
再生不良性貧血・赤芽球癆	1
特発性血小板減少性紫斑病(ITP)	1
その他	8
計	56

(内分泌・糖尿病内科)

本年度は大学から石塚啓哉先生（2021年卒）佐藤駿匡先生（2018年卒）に出張に来て頂き 片桐 尚と3人で診療にあたりました。新患は火曜日は佐藤、木曜日は石塚/片桐が担当し、大学から週一回金曜日の午前中に石澤正博先生、月曜日に深井悠未先生に来て頂きました。

総再来数は2042(深井 208 石澤153 石塚 338 佐藤 483 片桐 860 2024 3月末)と 昨年より 44 人の増加となりました。

柏崎市内に糖尿病専門の開業医の先生のない中 当地域の糖尿病医療の中心としての役割を継続して担っています。

外来診療は 2019 年 10 月にリニューアルされた糖尿病センターのもと引き続き 糖尿病外来と栄養指導外来、治療難渋例に対する診察前問診、看護外来を組み合わせ糖尿病患者の療養指導にあたりました。(糖尿病センター参照)

病棟においては、高血糖や合併症をもった糖尿病など緊急性の高い症例を西5F病棟にとり、予定教育入院は東5F病棟で運動療法もやりながらという体制を組み、両病棟で情報交換をしながら急性期を過ぎたケースを西5F から東5F に移しながら教育を継続しました。

佐藤先生はコロナ禍もあり沈滞化していた教育プログラムを見直し 糖尿病治療の根幹である教育システムのパスを作成し 現在動き出しています。

また1型糖尿病治療に対するミニメドを使ったSAP療法の導入、数多く来るようになった学生や研修医の指導等にもあたって頂き当病院や地域の糖尿病医療のレベルアップに貢献して頂きました。

石塚先生は専門1年目として柔軟に 積極的に研修に取り組み 実力をつけてきています。今後新潟県の糖尿病医療の中核を担う人材として期待されます。

甲状腺、内分泌疾患においては バセドウ病の難治例に対して積極的にアイソトープ治療を施行致しました。

原発性アルドステロン症の診断はアルドステロンが新しい測定系となり、 施行錯誤をしながら取り組んでいる状態です。

引き続き地道に糖尿病患者さんの健康維持、合併症予防に力を注ぎ 地域医療に貢献できればと考えています。

以下に臨床統計を示します。

(糖尿病関連) 6月の統計

外来患者のHbA1c	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
5.8%以下	371	312	256	307	337	280
5.9-6.9	668	540	525	498	534	552
7.0-7.9	385	347	357	355	316	316
8.0-8.9	196	216	189	190	197	204
9.0-9.9	85	87	75	80	75	80
10.0-10.9	37	33	34	22	32	34
11.0-11.9	19	12	10	13	6	15
12.0以上	12	7	8	6	6	12
合計(人)	1773	1554	1454	1471	1503	1493
HbA1cの平均	6.99	7.04	7.06	6.97	6.94	7.06

(甲状腺関連)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
甲状腺エコー	482	560	474	500	502	543
甲状腺細胞診	29	54	55	44	56	37
バセドウ病アイソトープ治療	2	3	1	5	5	2

(内分泌関連)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
ACTH負荷副腎静脈sampling	0	1	1	2	2	0

(腎臓内科)

常勤医師は2人です。腎臓内科では、慢性腎臓病（CKD）の原因として関連ある生活習慣への助言や指導、そのコントロールのための介入、また CKD の詳細な病態把握と治療決定のため、組織検査（腎生検術）を行っています。初期の段階から積極的に介入し治療にあたりるとともに、慢性腎臓病の全ステージの管理を行っています。さらに末期腎不全に対して、血液透析（HD）や腹膜透析療法（PD）といった腎代替療法を行っています。このように、慢性腎臓病の初期から末期腎不全の全段階において患者一人ひとりの全経過に関わり診療にあたっています。

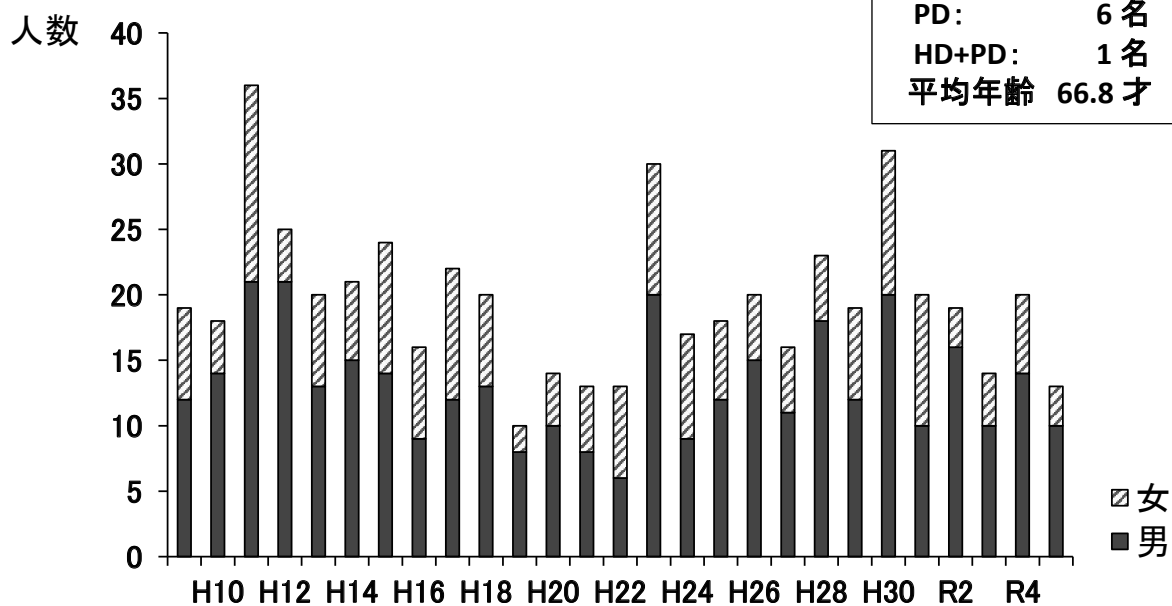
当院では、腎代替療法を受けている患者動向を平成9年から集計しています。導入患者の原因疾患は全国と同様に糖尿病性腎症が最も多い状況です。透析患者の高齢化に伴い日常活動レベルの低下や認知機能の低下が問題になっており、いろいろな身体的問題や介護を含む社会的問題への対応など、院内外の多職種と連携し取り組んでいます。

2018年度以降、透析ベッド数以上に血液透析患者数が増加し、目まぐるしいベッド操作を強いられております。腎代替療法の中でも腹膜透析をより積極的に進めていくこともその対応の一つととらえ取り組んでいます。

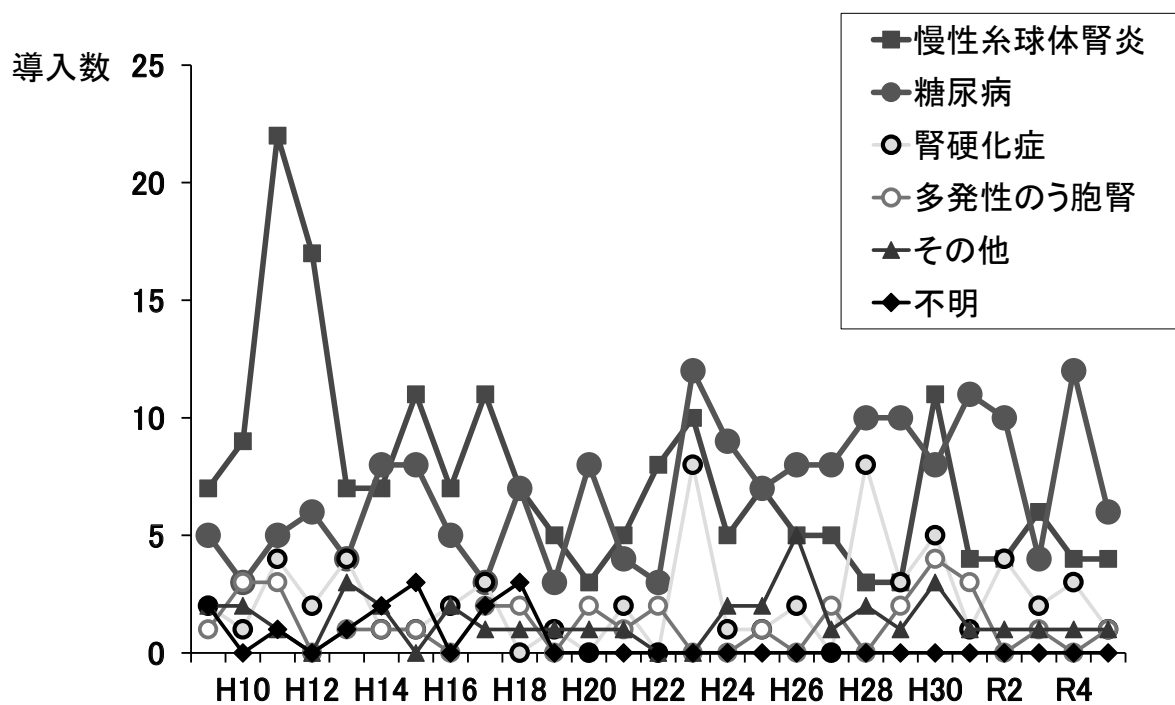
CKD、糖尿病性腎症の重症化予防は重要な課題の一つです。2011年から市民講座『CKD 市民セミナー』を立ち上げ、柏崎市、医師会、薬剤師会、栄養士会等と協力し、CKD や糖尿病性腎症、動脈硬化などについての知識を深め予防に取り組んでもらうための啓蒙活動を行ってまいりました。2020年からこの CKD 市民セミナーをいったん中止し、院内に通院している CKD 患者さんの一人ひとりを対象に、その進行を抑えより質の高い取り組みを手助けする目的で当院透析室や外来看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、メディカルサポートチームなどの多職種による教育に変更し取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症のため一時中断してまいりましたが、2023年から再開し取り組んでいるところです。

CKD に早期から介入しその進行を阻止すべく、また腎代替療法に移行する際にもより質の高いものになるようスタッフ一同取り組んでいます。

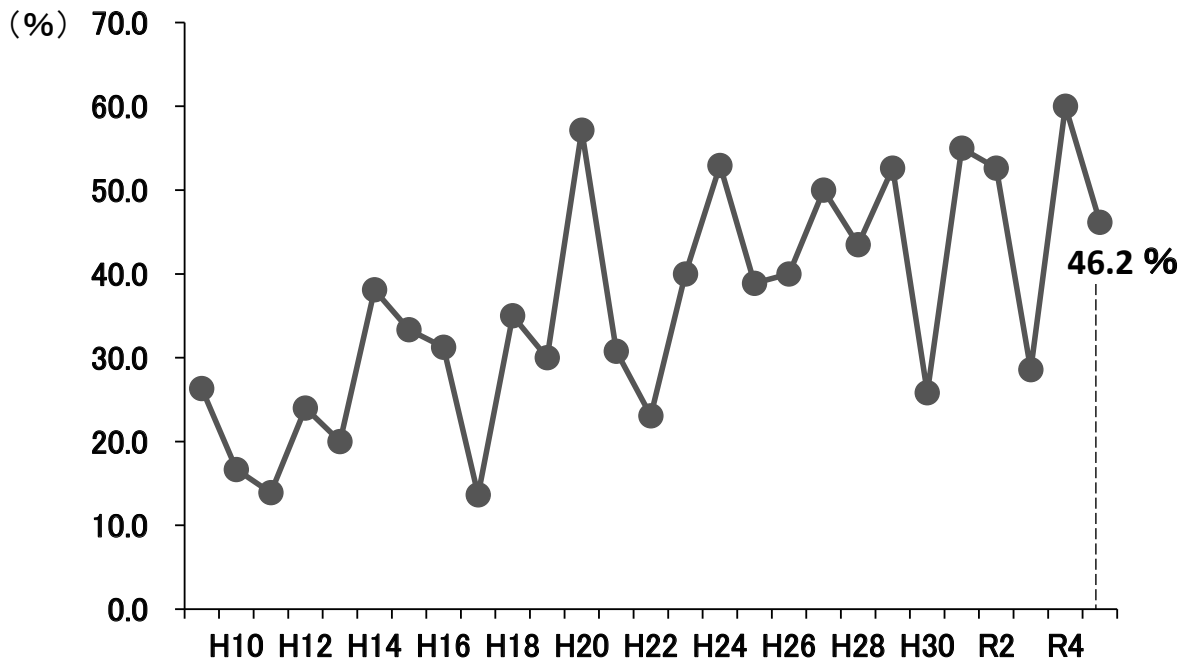
年度別透析導入数 (男女別)



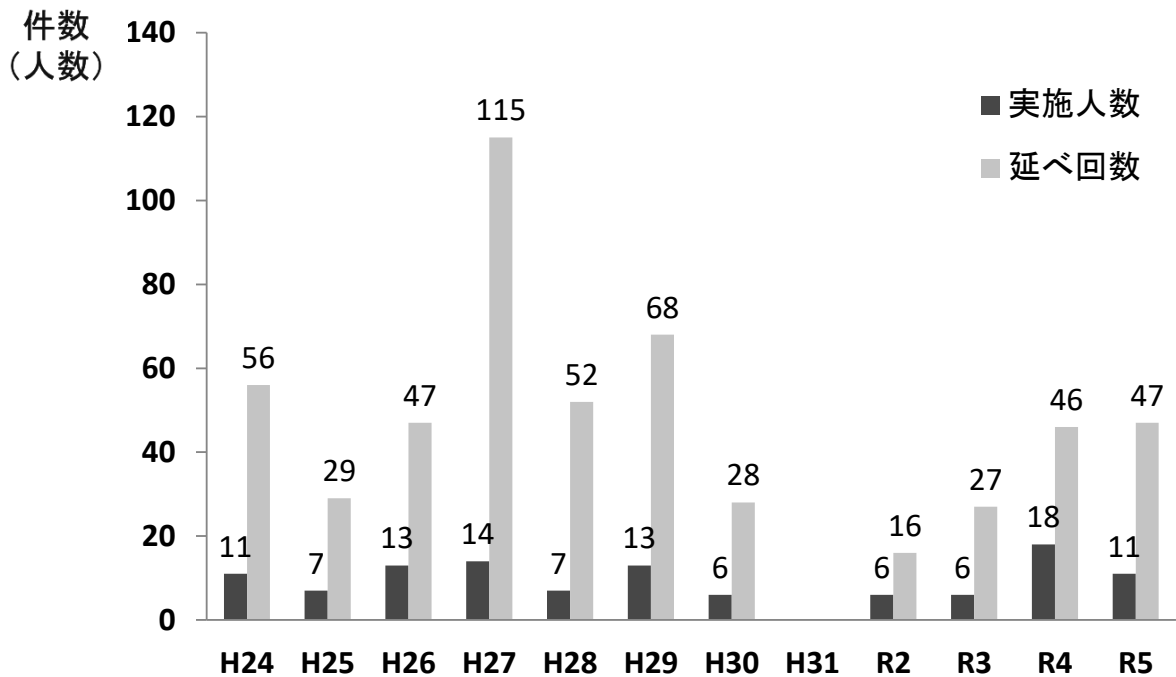
原疾患別導入患者数



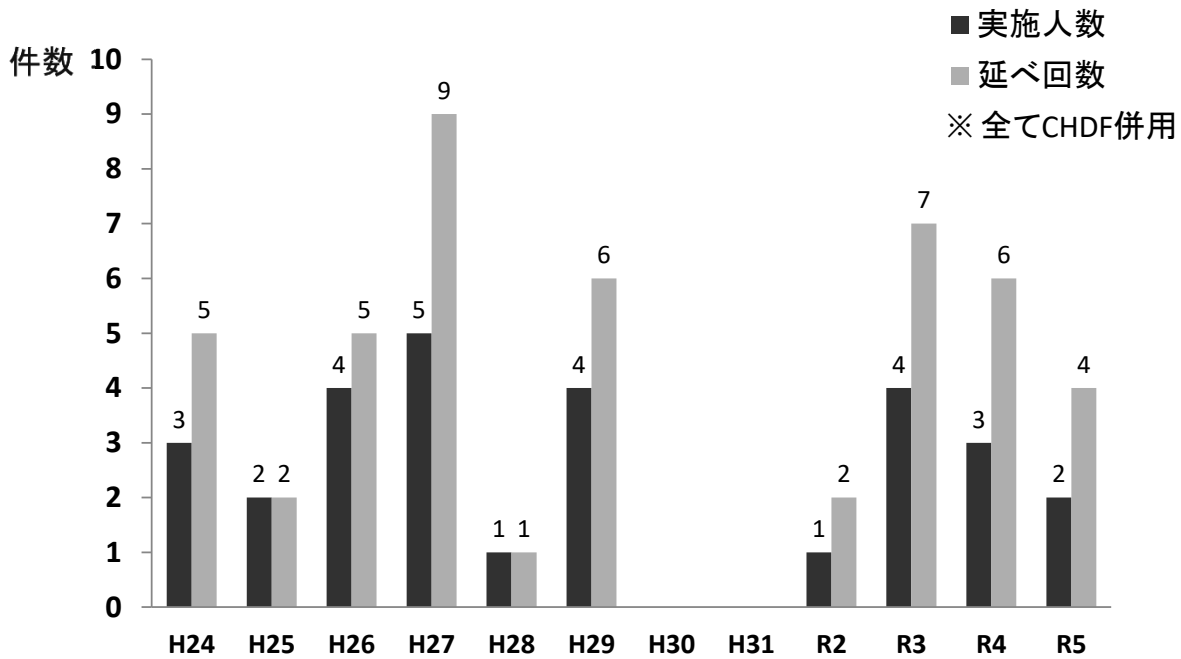
DKD(糖尿病性腎障害)の割合



持続血液透析濾過療法(CHDF)件数

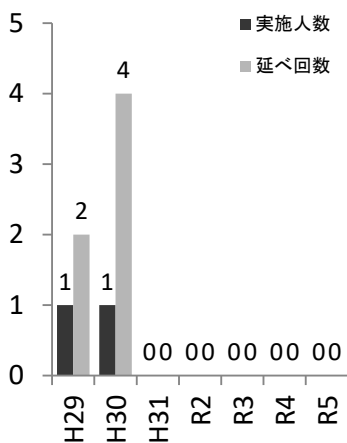


エンドトキシン吸着療法 件数

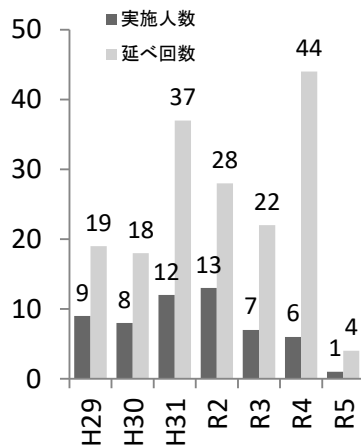


その他の血液浄化法 件数

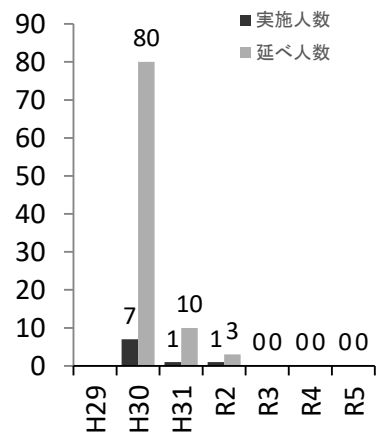
ビリルビン吸着



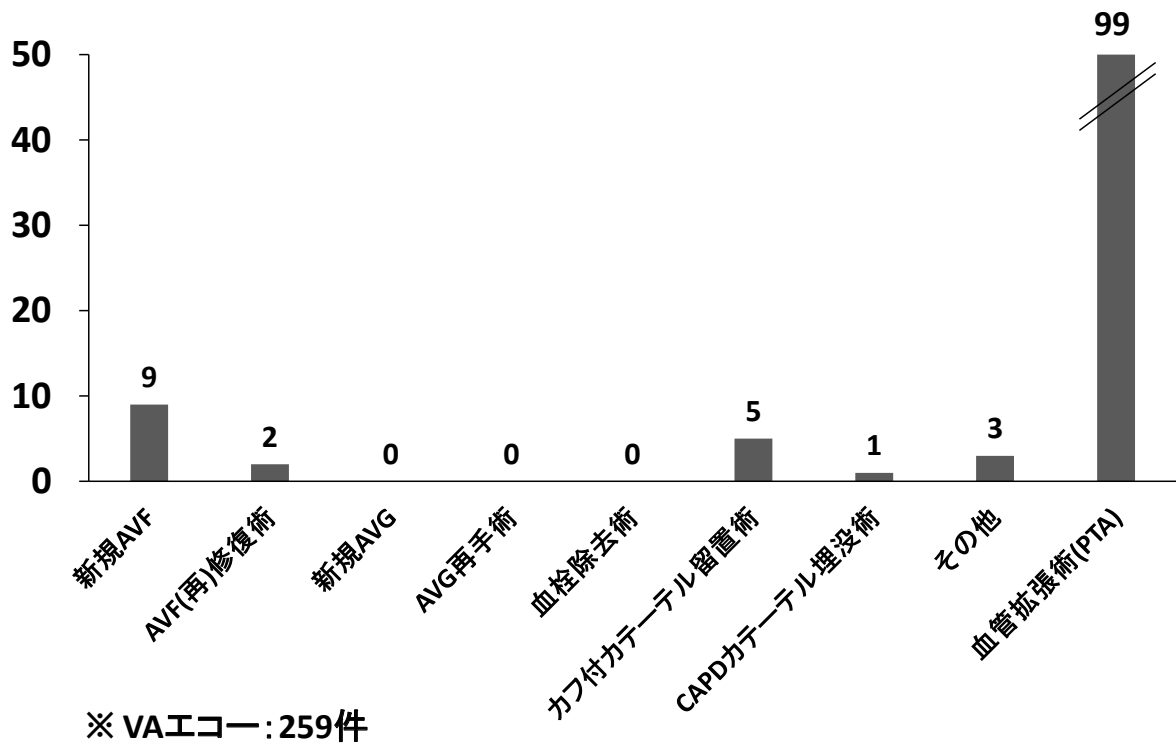
腹水濾過濃縮再静注法



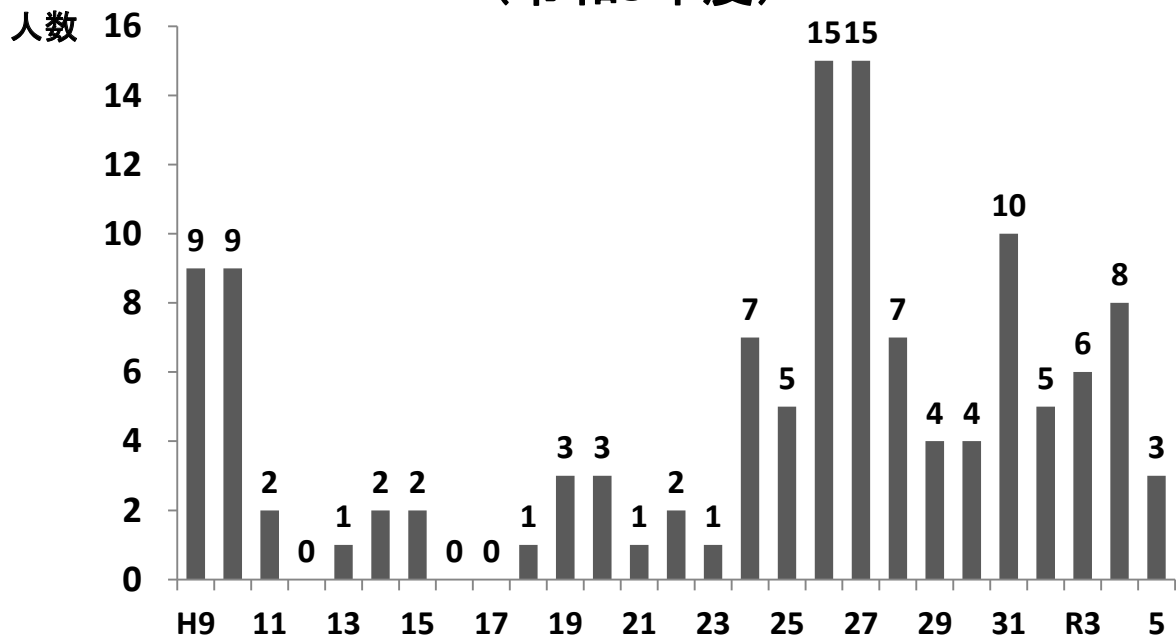
LCAPとGCAPの合計



バスキュラーアクセス関連手術件数 (令和5年度)



エコーガイド下経皮的腎生検数 (令和5年度)



(消化器内科・総合消化器内科内視鏡センター)

スタッフ

丸山 正樹

役職：診療部長・総合消化器内科内視鏡センター長・消化器内科部長

卒業年：平成 11 年

資格：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医・甲信越支部評議員、日本肝臓学会肝臓専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本専門医機構総合診療専門研修特任指導医、日本医師会認定産業医、日本 DMAT 隊員、臨床研修指導医養成講習修了、臨床研修プログラム責任者養成講習修了、JPTEC プロバイダー、新潟大学医学部医学科臨床准教授、医学博士

後藤 諒

役職：消化器内科医長

卒業年：平成 24 年

資格：日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、医学博士

佐藤 毅昂

役職：消化器内科医長

卒業年：平成 27 年

資格：日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本 DAMT 隊員、臨床研修指導医養成講習修了、医学博士

夏井 一輝

役職：消化器内科医長

卒業年：平成 28 年

資格：日本専門医機構認定内科専門医、医学博士

後藤 収

役職：消化器内科医長

卒業年：平成 31 年

診療体制

当科は新潟大学消化器内科学教室の関連施設で、柏崎地域唯一の地域基幹病院消化器内科として消

化器疾患全般の診療を行い、24時間365日、消化器2次救急（部分的に3次救急も含む）に対応しています。2017年4月より5名へ増員となり、診療体制が充実しました。さらに、非常勤医師4名（新潟大学消化器内科、当院OBなど）が、検査内視鏡・腹部血管撮影などを担当し、診療体制の増強に寄与しております。入院は年間約800名、うち緊急入院は80%に上り、検査・治療内視鏡手術・経皮的カテーテル手術も合わせて年間約3700件と、県内でも有数です。当科内での症例検討会、外科との合同検討会、看護師との病棟検討会を定期的に行い、多様な疾患や症例に対し、少しでも診療の質を高められるよう、スタッフ全員で日々努力しています。2020年4月、消化器病診療における各診療部門のより一層の有機的な連携を目指して、総合消化器内科内視鏡センターが設置され3年が経過しました。引き続き、より一層の内視鏡診療の発展と、「医師の働き方改革」として県内最先端の取り組みを行って参ります。

診療方針

1. 消化管（食道、胃、小腸、大腸）

検査内視鏡では拡大機能、Narrow band imaging (NBI) 機能を搭載した内視鏡や経鼻細径内視鏡も使用して早期がんの発見に努め、胃がん、食道がん、大腸がんなどに対する内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) を積極的に行います。消化管出血に対しては緊急内視鏡検査を行い、内視鏡的に止血を試みますが、止血困難な場合は経カテーテル的動脈塞栓術を行うこともあります。

食道胃静脈瘤に対し、内視鏡的静脈瘤硬化療法 (EIS)、内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL) などを行います。腸閉塞に対しては経鼻内視鏡を利用し、減圧チューブを短時間で深部まで進めます。がんによる消化管狭窄に対し、基本的には手術不能症例に金属ステントを留置しますが、大腸がんによる大腸閉塞に対しては、緊急で金属ステントを留置することで緊急手術を回避し、より安全な状態で手術を受けて頂くことも可能です (Bridge to surgery)。

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）に対しては、ガイドラインに準じた治療を行いますが、難治例の場合、抗TNF- α 抗体をはじめとする生物学的製剤も導入しています。小腸疾患が疑われる場合、カプセル内視鏡、バルーン小腸内視鏡を行います。胃粘膜下腫瘍に対しても超音波内視鏡下に生検を行い、消化管間質腫瘍(GIST)の場合は、外科と共同で腹腔鏡内視鏡合同手術 (LECS) を行います。

2. 肝臓

肝臓がんに対し、ラジオ波焼灼療法 (RFA)、肝動脈化学塞栓療法 (TACE) を積極的に行います。肝臓がんの多発例では、最新の診療ガイドラインに従い、分子標的薬治療を行います。

B型慢性肝炎に対し、核酸アナログ製剤、あるいはペグインターフェロンによる治療を行います。C型慢性肝炎に対しては、経口薬による抗ウイルス療法を行います。急性肝不全に対しては、新潟

ALF ネットワークに参加し、新潟大学病院と連携して治療致します。また、県内に先駆け、高性能超音波診断装置(Aplio i800)が導入され、非侵襲的肝硬度の測定も可能です。

3. 胆道(胆嚢、胆管)、膵臓

胆嚢結石などを原因とする急性胆嚢炎に対し、経皮経肝的胆嚢ドレナージ術 (PTGBD)、内視鏡的胆嚢ドレナージ術 (ERGBD) を行います。胆嚢炎を繰り返し、胆嚢摘出術を受けられない場合、PTGBD ルートを用いた内瘻化を行うか、超音波内視鏡下胆嚢ドレナージ術 (EUS-GBD) 下に金属ステントを留置します。総胆管結石、胆管がん、膵がんなどによる閉塞性黄疸、急性胆管炎に対し、内視鏡的逆行性胆管ドレナージ術 (ERBD)、経皮経肝的胆管ドレナージ術 (PTCD) などを行います。

その後、総胆管結石に対しては内視鏡的乳頭バルーン拡張術 (EPBD)、内視鏡的乳頭大径バルーン拡張術 (EPLBD)、内視鏡的乳頭切開術 (EST) を行い、結石を除去します。胆管がん、膵がんなどによって胆管が閉塞又は狭窄している場合には、内視鏡的あるいは経皮的に金属ステントを留置しますが、超音波内視鏡下胆管ドレナージ(EUS-BD)を行うこともあります。

膵腫瘍に対して超音波内視鏡下に精査を行い、可能な限り生検(EUS-FNA)を行っております。重症急性膵炎に対しては最新の診療ガイドラインに従い治療するとともに、新潟大学重症急性膵炎診療ネットワークに参加し高次医療施設やその他の新潟大学関連病院と連携した治療を行います。膵癌の患者さんで、薬物のみでは十分な鎮痛作用が得られない場合、超音波内視鏡下に腹腔神経叢ブロックを行います。

4. 抗がん剤治療(化学療法)

消化器がん(食道・胃・大腸・膵臓・肝臓・胆道がんやその他の消化器悪性腫瘍)の手術不能症例、再発症例に対し、最新のガイドラインに基づいた抗がん剤治療を行います。食道がん、膵がんに対しては放射線治療科と協力し、化学放射線療法を行います。全身状態が安定していれば、外来化学療法センターで抗がん剤治療を行います。緩和的放射線照射療法を含めた、がん性疼痛のコントロールなど、緩和医療にも力を入れています。

診療実績

検査・手術のほとんどは、総合消化器内科内視鏡センターで行われております。

上部消化管（食道・胃・十二指腸）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
上部消化管内視鏡検査（EGD）	2457	2412	2306	2469
内視鏡的粘膜切除術（EMR）	5	6	1	3
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	69	57	44	56
内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）	7	5	7	12
内視鏡的静脈瘤硬化療法（EIS）	9	0	5	0
経鼻イレウス管留置術	22	13	23	18
消化管ステント留置術	8	11	7	15
内視鏡的止血術	40	33	55	45
胃瘻造設術（PEG）	11	11	10	12
カプセル内視鏡検査	9	2	2	1
小腸内視鏡検査（上部）	4	0	1	2

下部消化管（大腸）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
全大腸内視鏡検査（TCS）	543	458	426	447
内視鏡的粘膜切除術（EMR）	275	291	323	326
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	28	9	10	6
内視鏡的止血術	26	16	24	36
経肛門イレウス管留置術	3	4	1	0
大腸ステント留置術	22	18	21	21
小腸内視鏡検査（下部）	3	0	1	1

肝臓・胆道・膵臓

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
腹部エコー検査	329	274	280	237
エコーガイド下経皮肝生検	18	13	7	4
ラジオ波（RFA）	0	0	2	0
経皮経肝の胆管ドレナージ術（PTCD）	17	6	8	8
経皮経肝の胆嚢ドレナージ術（PTGBD）	41	39	58	54
経皮的胆管ステント留置術	0	0	0	0
経皮的膿瘍ドレナージ術（PTAD）	9	7	7	7
胆道鏡検査	0	0	0	0
肝動注化学塞栓療法（TACE）	7	0	5	1
リザーバー挿入	9	3	0	0
膵動注療法	0	0	0	0

ERCP関連

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）	17	9	9	10
内視鏡的胆管ドレナージ術（ERBD・ENBD）	69	82	55	58
内視鏡的結石除去術（EPBD・EST）	71	33	45	72
内視鏡的ステント留置術（膵管・胆道）	44	31	24	26
内視鏡的乳頭切除術	0	0	0	0

その他

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
超音波内視鏡下胆嚢ドレナージ（EUSGBD）	0	0	0	0
超音波内視鏡下胆管ドレナージ（EUSBD）	0	1	0	0
膵壊死に対する内視鏡的ネクロセクトミー	0	0	0	0
EUS-FNA	12	17	25	18
EUS下膵嚢胞ドレナージ	2	0	0	1
EUS下腹腔神経叢ブロック	1	0	0	1
EUS下膵管ドレナージ	0	0	0	0

施設認定

日本内科学会教育関連施設

日本消化器病学会認定施設

日本肝臓学会関連施設

日本消化器内視鏡学会指導連携施設

トピックス

臨床研修医 堀真瑛医師が、2023年6月3日新潟市で開催された第72回 日本消化器病学会甲信越支部例会で症例報告「重症低体温症に急性膵炎を併発した一例」を発表し奨励賞を受賞しました。

2024年1月1日発災の能登半島地震に際し、当科の佐藤毅昂医師を隊長としたDMAT隊1隊を1月4日～7日まで災害派遣しました。

(循環器内科)

循環器内科は新潟大学医学部循環器内科学教室の関連施設として、井田 徹、岩崎 康展、岩崎 壮史の3名で日々の診療にあたっています。当科では虚血性心疾患に対するカテーテルインターベンション、徐脈性不整脈に対する恒久的ペースメーカー植え込み術などの侵襲的手術を常時行っております。柏崎・刈羽地域医療圏 9 万人の循環器系急患に対応すべく、医師およびコメディカル（看護師、放射線技師、生理検査技師、臨床工学師等）の体制を整えています。急性冠症候群など迅速な初期治療が予後に影響をおよぼす領域なので、これからも各方面と協力しながら診療していきたいと思っております。また近年増加しております心不全患者の予後・QOL 改善を目的とした心臓リハビリテーションも取り組んでいます。

	2022年(1月～12月)	2023年(1月～12月)
心臓カテーテル検査	167件	161件
うち緊急PCI	39件	29件
待機的PCI	18件	28件
心臓ペースメーカー手術		
新規	17件	22件
交換	6件	13件

(呼吸器内科)

常勤3名の体制です。

外来は毎週月、金曜日に新患外来、その他月、水、木曜日に再診外来を行っています。主な患者さんは肺気腫、気管支喘息、間質性肺炎、肺炎などを扱っています。肺癌の外来化学療法も行っていましたが当院は呼吸器外科がないため肺癌、気胸に関しましては長岡地区の病院と連携して診療にあたっています。ほかに柏崎市胸部健診の二次検診外来も行っていきます。禁煙外来は行っておりません。入院は30～45名/日です。毎週火、木曜日に気管支鏡検査を行っています。

【外 科】

外科ホームページ (2024年1月 改定)

1) スタッフ

植木 匡

役職：副院長

卒業年：昭和63年

資格：

医学博士

日本外科学会専門医・指導医

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本乳癌学会専門医

日本癌治療認定医

消化器がん治療認定医

検診マンモグラフィー読影認定医

緩和ケア研修会、修了

ジオン注・四段階注射法講習会、受講済み

内視鏡下結紮・縫合手技講習会、受講済み

JOHBOC E-Learning セミナー、受講済み

デジタルマンモグラフィーソフトコピー診断講習会、受講済み

石塚 大

役職：外科部長

卒業年：平成2年

資格：

日本外科学会専門医

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本癌治療認定医

消化器がん治療認定医

検診マンモグラフィー読影認定医、

栄養サポートチーム専門栄養療法士

緩和ケア研修会、修了

多々 孝

役職：外科部長

卒業年：平成5年

資格：

医学博士

日本外科学会専門医

検診マンモグラフィー読影認定医

栄養サポートチーム専門栄養療法士

緩和ケア研修会、修了

橋本喜文
役職：外科医員
卒業年：平成 21 年
資格：
医学博士
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医
緩和ケア研修会、受講済

<非常勤医師>

加納陽介
卒業年：平成 19 年
役職：新潟大学医学部第一外科 助教
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医（胃）
消化器がん外科治療認定医
日本胃癌学会代議員

廣瀬雄己
卒業年：平成 21 年
役職：新潟大学医学部第一外科 助教
日本外科学会専門医
日本消化器病学会専門医・甲信越支部評議員
日本肝胆膵外科学会評議員
日本肝臓学会専門医・東部会評議員
日本胆道学会認定指導医
日本腹部救急医学会認定医・評議員
消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定機構がん治療認定医

2) 施設認定と外科関連看護師の資格

(1) 施設認定

日本外科学会認定施設
日本消化器外科学会認定施設
日本乳癌学会認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
外科専門研修プログラム連携施設

(2) 看護師の資格（外科関連）

横関泰江：がん看護専門看護師

3) 診療内容

当院の外科は一般外科です。腹部と乳腺の手術やがん治療を行っています。腹部手術では適応のある方に腹腔鏡手術を行っています。がん治療では抗がん剤治療を化学療法室にて行い、放射線治療も当院で行います。消化器外科と乳癌専門医の元で標準治療を計画し提供します。また、各種資格を取得した薬剤師や看護師とともに多職種で寄り添うチーム医療により患者さんをサポートします。

特殊外来として乳癌検診陽性者の予約外来、人口肛門の方のためのストーマ外来を開設し、専門性の高い診療を行います。さらに、登録や連携事業に積極的に参加し、医学の発展や学生教育にも協力しています。

(1) がん治療

- ① 放射線治療：がんの再発予防や緩和治療には必須で、柏崎で唯一の施設です。
- ② 化学療法室：がん薬物治療では専門の薬剤師・看護師・栄養士も説明や治療に参加します。

(2) チーム医療（多職種でサポートする医療）

- ① 緩和ケアサポートチーム
- ② 栄養サポートチーム

(3) 特殊外来（予約制）

- ① 乳腺精密検査外来：専門医が常勤し、検診で要精検や症状のある方が対象です。
- ② ストーマ外来：認定看護師が対応します。

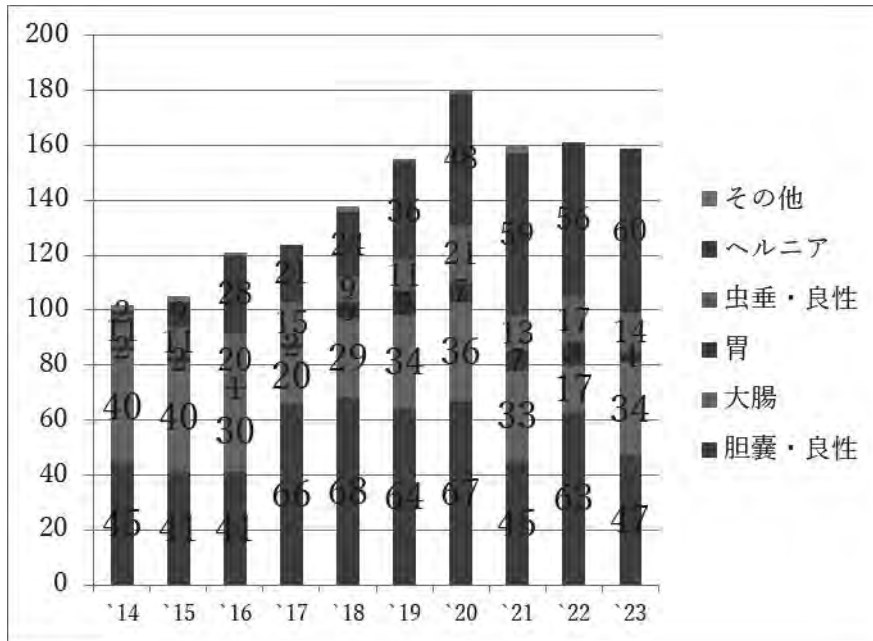
(4) 連携・協力業務

登録や指導において同意書が必要なことがあります。ご協力をお願いします。

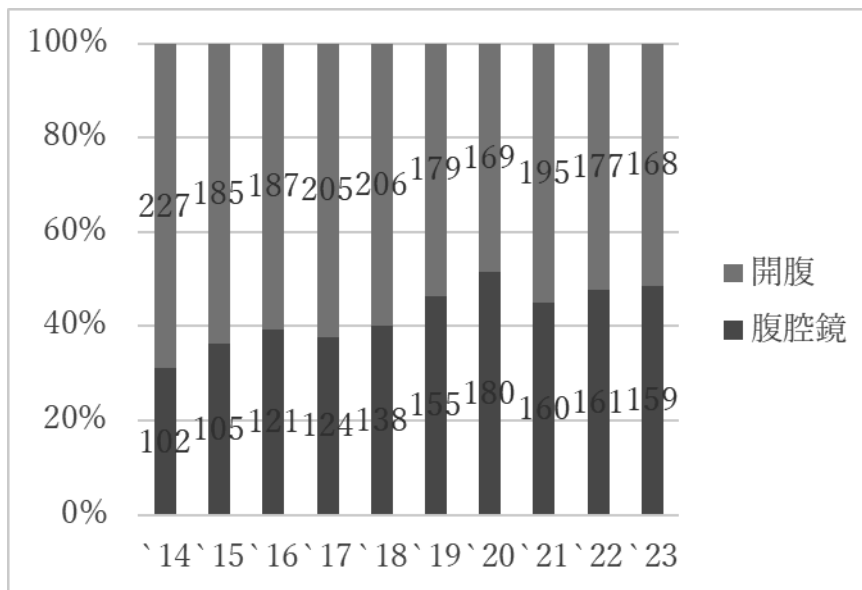
- ① 登録事業：National Clinical Database(NCD)や新潟県がん登録事業など。
- ② 新潟大学医学部臨床実習協力機関：医学生の臨床実習への協力。
- ③ 独立行政法人国立病院機構新潟病院付属看護学校実習協力機関：看護学生の臨床実習への協力。
- ④ 臨床試験：日本の医学発展への協力。
- ⑤ 学術学会や研究会での発表と討論：医療技術の発展と向上。

4) 主な疾患の治療数（最近の10年）

(1) 腹腔鏡手術数



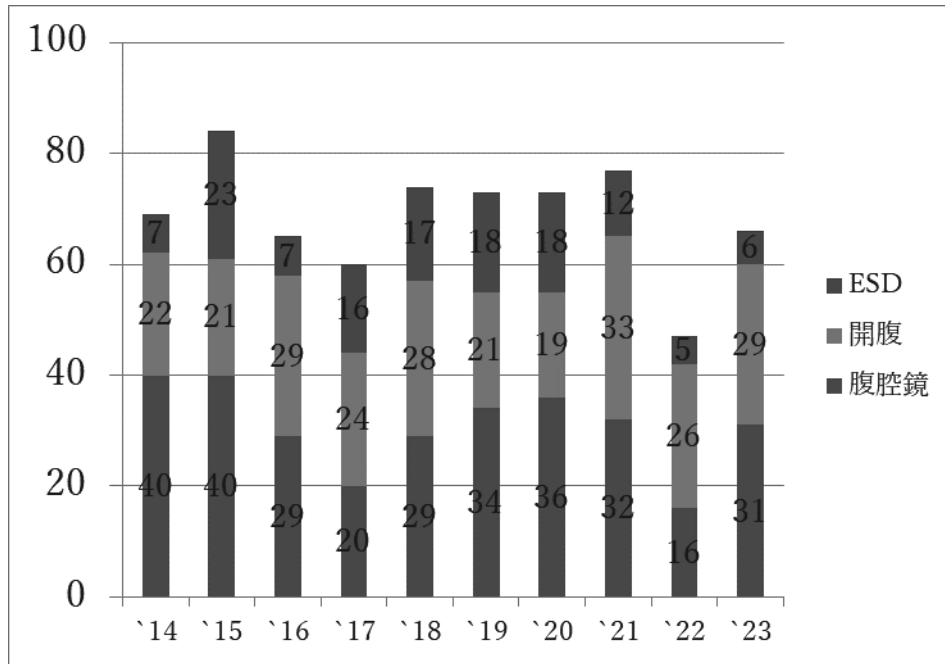
(2) 消化器外科手術に占める腹腔鏡下手術の割合



約半数が腹腔鏡下手術です。

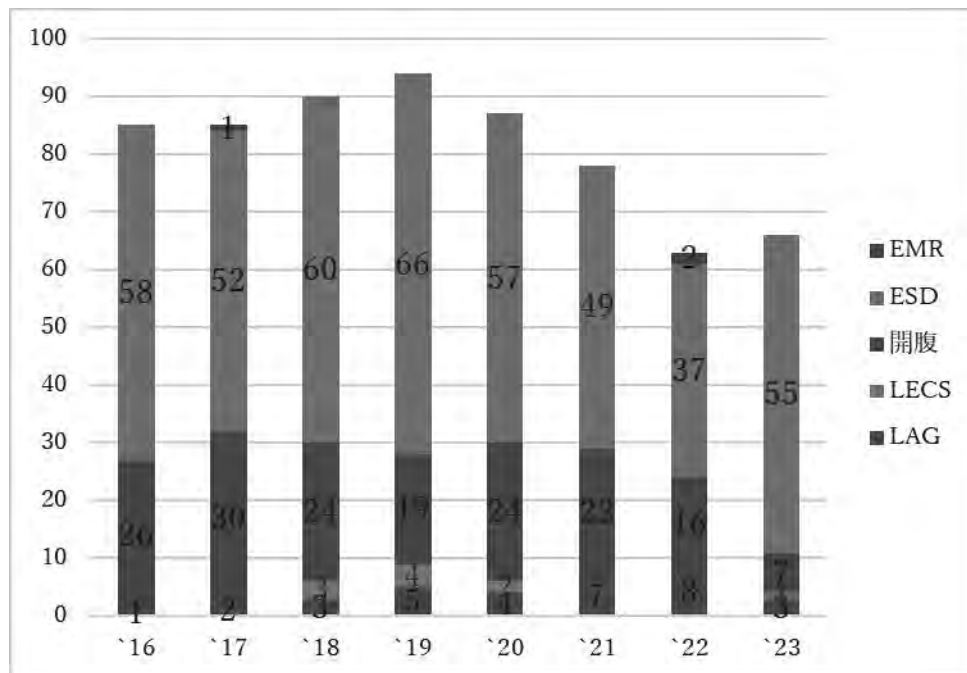
*消化器外科手術は、乳癌、甲状腺、カテーテル留置と抜去などを除いた手術

(3) 大腸腫瘍切除治療数 (外科+内科、EMRを除く)



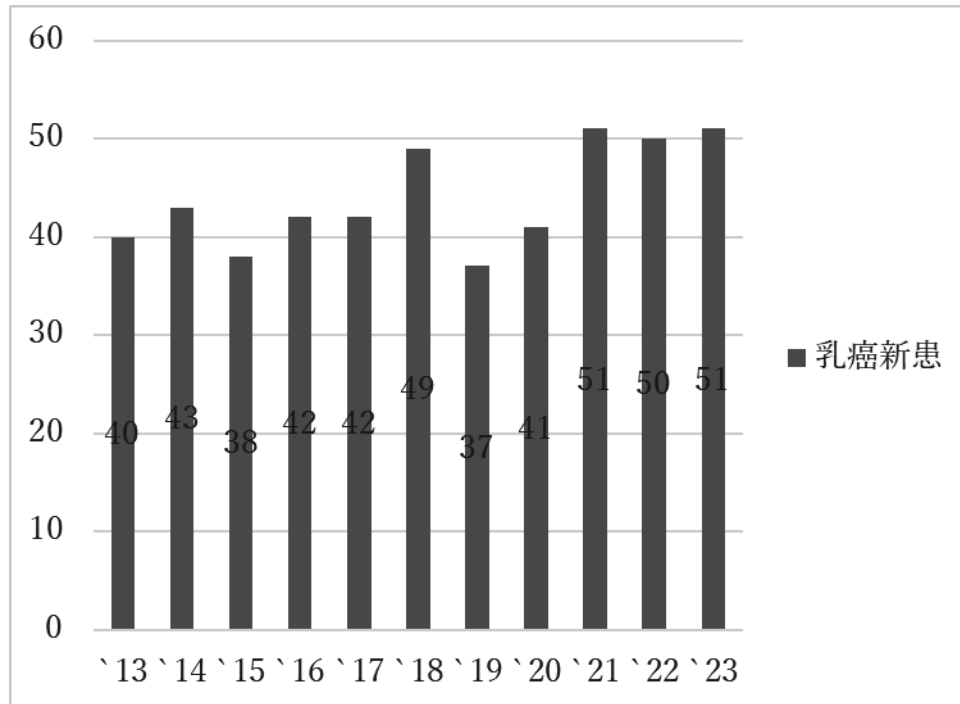
腹腔鏡手術と開腹手術は外科、ESD（内視鏡的粘膜下層剝離術）を内科が行っています。

(4) 胃がん・GIST 切除治療数（外科+内科）



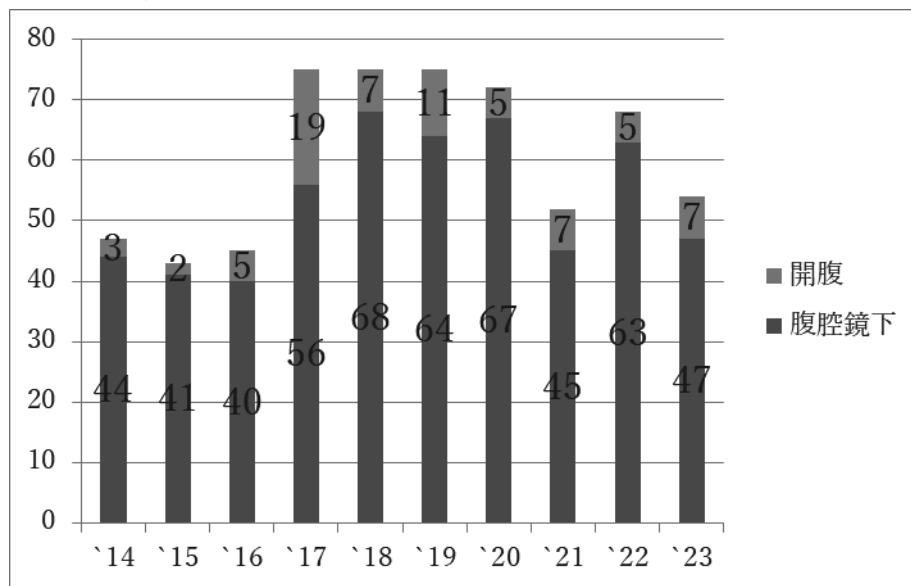
LAG（腹腔鏡手術）と開腹手術を外科、EMRとESD（内視鏡的切除）を内科、LECS（腹腔鏡・内視鏡合同手術）は外科と内科が共同で行います。

(5) 乳がん新規患者数



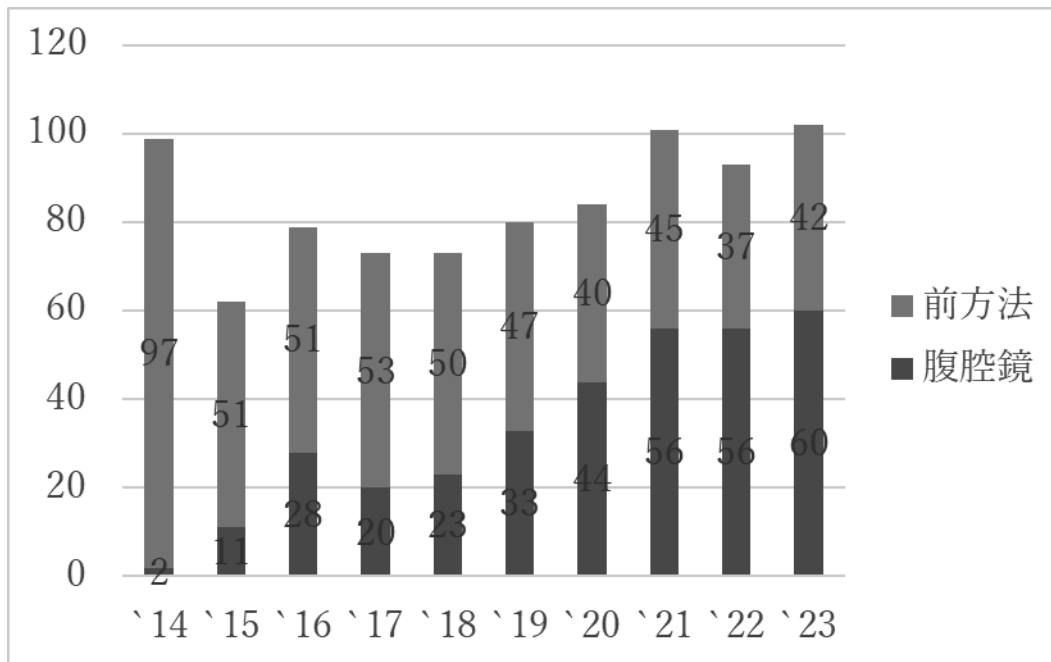
その年に乳がんの診断となった方の数です。

(6) 胆嚢摘出手術数 (良性)



腹腔鏡手術を第一選択としています。

(7) そけい部 (鼠径+大腿) ヘルニア手術数 (いわゆる脱腸)



腹腔鏡手術の方が多くなりました。

6) 学術活動

A) 2023年：計7件

- 1) 第31回日本乳癌学会 +1
- 2) 第85回日本臨床外科学会 +1
- 3) 新潟県厚生連放射線技師会 +1
- 4) 柏崎市刈羽郡医師会消化器病懇話会 +1
- 5) 社内勉強会 +2
- 6) 院内集談会 +1

B) 2000年1月から2023年12月の22年間：総計333件

☆2023年分は(+x)で表記

☆2012年3月までの施設名は【刈羽郡総合病院】

<論文：20>	(数)
日本臨床外科学会雑誌	6
新潟医学会誌	4
日本消化器外科学会雑誌	2
癌と化学療法	2
日本腹部救急医学会雑誌	1
日本外科系連合学会雑誌	1
日本内視鏡外科学会雑誌	1
Progress of medicine	1
静脈経腸栄養ハンドブック	1

外科	1
<口演・ポスター：301>	
(全国)	
日本臨床外科学会総会	30+1
日本乳癌学会総会	16+1
日本消化器外科学会総会	8
日本乳癌学会関東地方会	7
日本内視鏡外科学会	4
日本胃癌学会総会	3
日本大腸肛門病学会総会	1
日本消化器病学会総会	1
日本ヘルニア学会・研究会	2
(新潟県内)	
新潟外科集談会	23
新潟厚生連外科医会	19
新潟乳癌研究会	17
新潟内視鏡外科研究会	13
新潟ヘルニア研究会	9
新潟胃癌治療セミナー	6
新潟腹部救急研究会	4
新潟食道胃癌研究会	3
中越内視鏡外科研究会	2
新潟乳腺エコー研究会	1
新潟胆膵研究会	1
市制 70 周年市民医療フォーラム	1
長岡乳がん市民公開講座 2016	1
日本農村医学会新潟地方会	1
柏崎市薬剤師研修会	3
新潟県厚生連放射線技師会	+1
ピンクリボンホリデー 2017	1
その他のセミナー・講演会	36+3
柏崎市刈羽郡消化器病懇話会	93+1

2023年（令和5年）手術総数（418件）

A 良悪性分類		例数		
	<悪性>	169		
	<良性>	249		
B その他の分類				
a)	緊急手術数	62		
	外来手術数	1		
b)	同時性合併切除数	総計	10	
	*手術総数に含まず			
	以下詳細			
	<原疾患+悪性疾患>	小計	1	
	肝転移	1	肝部分切除術	1
	<原疾患+良性疾患>	小計	9	
	大腸腺腫	1	回盲部切除術	1
	横隔膜ヘルニア	1	修復術	1
	虫垂粘液種	1	腹腔鏡下虫垂切除術	1
	鼠経ヘルニア	1	メッシュプラグ法	1
	胆石症	5	開腹胆嚢切除術	4
			腹腔鏡下胆嚢摘出術	1
C 臓器別手術数				
		例数		例数
1. 甲状腺、副甲状腺（1例）				
<良性>	副甲状腺機能亢進症	1	副甲状腺摘出術	1
2. 乳腺（46例）				
<悪性>	乳癌	38	TM	1
	*両側乳癌 なし		Bp	4
			Bt	7
			Bp+Ax	3
			Bt+Ax	6
			Bp+SN	7
			Bt+SN	10
	乳癌部分切除後	2	Bt	1
			Ax	1
	腋窩リンパ節転移	2	Ax	1
			切除生検	1
<良性>	乳腺嚢胞	3	切除生検	3
	乳腺症	1	切除生検	1
（合併切除：良性1）				
	乳癌+胆石症	1	開腹胆嚢摘出術	1

3. 食道 (0例)

4. 胃 (18例)

< 悪性 >	胃癌	11	遠位胃切除術	4
			胃全摘術	2
			LADG	2
			LAPG	1
			非切除+胃小腸吻合	1
			審査腹腔鏡	1
	残胃癌	1	残胃全摘術	1
	胃GIST	5	LECS	1
			胃部分切除	3
			非切除+胃小腸吻合	1
< 良性 >	胃潰瘍穿孔	1	大網充填術	1
(合併切除：良性5)				
	胃癌+横隔膜ヘルニア	1	修復術	1
	胃癌+胆石症	4	腹腔鏡下胆嚢摘出術	1
			開腹胆嚢摘出術	3

5. 十二指腸 (1例)

< 良性 >	十二指腸潰瘍穿孔	1	穿孔部閉鎖と大網充填術	1
--------	----------	---	-------------	---

6. 小腸 (16例)

< 悪性 >	小腸癌	1	小腸部分切除術	1
	小腸悪性リンパ腫	1	小腸部分切除術	1
	小腸GIST	1	小腸部分切除術	1
< 良性 >	癒着性腸閉塞症	11	癒着剥離術	10
			小腸小腸吻合	1
	絞扼性腸閉塞症	2	癒着剥離術	1
			小腸部分切除術	1

7. 結腸 (58例)

< 悪性 >	結腸癌	45	開腹結腸右半/回盲部切除術	11
			開腹結腸部分切除術	9
			鏡視下結腸右半/回盲部切除術	15
			鏡視下結腸部分切除術	6
			鏡視下結腸前方切除術	3
			非切除+人工肛門造設術	1
			大腸癌局所再発	1
< 良性 >	良性疾患による大腸狭窄	3	腹腔鏡下結腸右半切除	2

		腹腔鏡下結腸部分切除	1
結腸膀胱瘻	1	結腸部分切除術	1
良性疾患による大腸穿孔	3	結腸部分切除術	1
		穿孔部閉鎖術	1
		穿孔部閉鎖術+人工肛門造設術	1
出血性潰瘍性大腸炎	1	結腸全摘術	1
S状結腸軸捻転	2	結腸部分切除術	2
吻合部縫合不全	2	洗浄ドレナージ術	1
		人工肛門造設術	1
(合併切除：良性1, 悪性1)			
結腸癌+肝転移+肝嚢胞	1	肝部分切除術+開窓術	1
結腸癌+大腸腺腫	1	回盲部切除術	1
8. 直腸 (18例)			
<悪性> 直腸癌	15	鏡視下前方切除術	4
		鏡視下低位前方切除術	3
		開腹前方切除術	1
		開腹低位前方切除術	2
		Hartmann手術	2
		非切除+人工肛門造設術	3
<良性> 直腸異物	2	経肛門の摘出術	2
人工肛門状態	1	人工肛門閉鎖術	1
9. 肛門 (6例)			
<良性> 痔核	1	高位結紮切除術	1
直腸脱	3	Gant-Miwa手術	3
肛門周囲膿瘍	2	切開排膿術	2
10. 虫垂 (29例)			
<良性> 偽粘液腫	2	腹腔鏡下虫垂切除術	2
虫垂炎	27	回盲部切除術	2
		開腹虫垂切除術	13
		腹腔鏡下虫垂切除術	12
11. 肝臓 (2例)			
<悪性> 肝癌	3	肝部分切除	2
12. 胆嚢 (57例)			
<悪性> 胆嚢癌	3	拡大胆嚢切除術	2
		胆嚢摘出術+リンパ節切除術	1
<良性> 胆石症	50	腹腔鏡下胆嚢摘出術	43
		腹腔鏡下胆嚢摘出術 (開腹移行)	1
		開腹胆嚢摘出術	6

胆嚢炎	3	腹腔鏡下胆嚢摘出術	2
		開腹胆嚢摘出術	1
胆嚢ポリープ	1	腹腔鏡下胆嚢摘出術	1
(合併切除：良性1)			
胆嚢炎+虫垂偽粘液種	1	腹腔鏡下虫垂切除術	1
13. 胆管 (2例)			
<悪性> 胆管癌	1	s Sp PD- II	1
<良性> 術後腹腔内膿瘍	1	洗浄ドレナージ術	
14. 膵臓 (1例)			
膵癌	1	非切除+胃小腸吻合術	1
15. 脾臓 (0例)			
16. ヘルニア (116例)			
<良性> 単径ヘルニア	93	メッシュプラグ法	34
		TAPP	58
		Bassini+小腸部分切除術	1
大腿ヘルニア	9	McVay+小腸部分切除術	4
		McVay	2
		メッシュプラグ法	1
		TAPP	2
横隔膜ヘルニア	1	修復術 メッシュ法+胃固定術	1
腹壁癒痕ヘルニア	1	Rives-Stoppa法	1
大網ヘルニア	1	修復術	1
手術既往のない大網癒着性ヘルニア	3	癒着剥離術	2
		癒着剥離術+小腸部分切除術	1
閉鎖孔ヘルニア	6	メッシュ修復術	5
		小腸部分切除+子宮広間膜修復術	1
臍ヘルニア	2	修復術	2
(合併切除：良性1)			
臍ヘルニア+鼠経ヘルニア	1	メッシュプラグ法	1
17. その他 (44例)			

<悪性>	進行癌	31	CV port留置/抜去術	31
	全身リンパ節腫脹	8	摘出/切除生検	8
<良性>	慢性腎不全	3	CAPDチューブ留置/抜去術	3
	嚥下障害	1	腸瘻造設術	1
	術後創離開	1	修復術	1

【小児科】

令和5年度は田中岳、村井英四郎の常勤医2名体制で診療を行いました。

一般小児科については、外来、入院とも、気管支喘息、肺炎、胃腸炎といった一般的な疾患から川崎病、熱性けいれん、アレルギー疾患、尿路感染症など多岐にわたって、当院で対応可能な症例の診療をしています。その他、予防接種や乳幼児健診などの保健活動も積極的に行っています。

当院では年間300件ほどの分娩があり（令和2年度より柏崎刈羽地区の分娩可能施設が当院のみとなりました）、正常新生児の診察のほか、早産、低出生体重児や新生児一過性多呼吸、新生児黄疸などの新生児の入院管理も行っています。集中治療管理が必要な重症の新生児はNICUのある長岡赤十字病院、新潟市民病院、新潟大学医歯学総合病院などに搬送しています。

令和5年度 小児科入院診療実績	
分野	人数(人)
呼吸器疾患・感染症(気管支喘息、肺炎など)	224
消化器疾患(胃腸炎など)	22
神経疾患(熱性けいれん、てんかんなど)	16
アレルギー疾患(アナフィラキシーなど)	4
食物経口負荷試験	16
免疫疾患・膠原病(川崎病、IgA血管炎など)	4
腎疾患(尿路感染症など)	2
新生児疾患(新生児一過性多呼吸、新生児黄疸、低出生体重児など)	68
COVID-19、COVID-19感染母体より出生した児	12
その他	6
合計	374

【産婦人科】

令和3年4月より、4人体制で診療に当たっています。令和2年4月より、柏崎市での分娩取り扱い施設が当院のみとなり分娩件数が増加しましたが、少子化の為か、昨年は減少しました。婦人科では、腹腔鏡手術を増やしています。また、昨年より不妊治療に保険が適応され、利用しやすくなりました。当院でもさらなる医療提供の充実を図ってまいります。

分娩件数は令和5年293件でした。市内で妊婦健診をされる開業医の先生と連携して、診療にあたっています。帰省される妊婦さんも多く、紹介受診された際は、どうしても問診や説明に時間かかりますが、情報共有のためご理解ください。帝王切開数は70件（帝切率23.8%）とやや上昇しました。高齢などハイリスク妊婦さんが増えている印象です。令和5年度より、母親学級や分娩室での夫の立会いを再開しています。面会の制限はありますが、妊婦さんの不安をできるだけ解消すべく、スタッフとサポートしてまいりますので、不安やご要望がありましたらご相談ください。

婦人科手術件数は155件でした。ほぼ横ばいではありますが、おなかを切らずに子宮や卵巣を取る腹腔鏡での手術を新潟大学医師の協力のもと、増やしています。腹腔鏡手術は、昨年1年間では18件でしたが、今年の1～3月には12件の手術を行いました。

柏崎地域は高齢の方が多く、悪性腫瘍や骨盤臓器脱の方も多い印象です。悪性腫瘍の症例では専門施設に紹介するだけでなく、初期癌を当院で手術をおこなったり、他院での悪性腫瘍手術後の化学療法を当院が担当したり、また緩和ケアを行う方も多くなりました。ただ、受診した時には、進行がんで診断される方も少なくありません。定期的な婦人科検診が望まれます。

不妊症については、検査や排卵誘発、人工授精までを行っています。検査の段階から、保険診療となり、自治体の補助金も出ています。体外受精を他施設で行う方に対しても、必要な連日の注射を当院で請け負うなど協力体制をとっています。

周産期医療を要する症例では、小児科常勤医、長岡地区の病院などと連携して対応しています。母体救命の研修会にスタッフと参加したり、院内勉強会を開いたりして日々研鑽を積んでいます。

地域に対しては高校生への性教育講演会に協力しています。若年妊娠など、社会的問題を抱える妊婦さんも増えており、定期的に行政との連絡会議も参加しています。

1. 体制：産婦人科常勤医3名、および相田院長 週末に大学からの産直サポートあり

相田 浩（病院長）（平成29年卒業）：平成31年4月1日より 勤務

日本産科婦人科学会専門医、母体保護指定医

加藤政美（昭和49年卒業）：平成28年4月1日より 勤務

日本産科婦人科学会専門医、母体保護指定医

小林弘子（昭和63年卒業）：平成24年4月1日より 勤務

日本産科婦人科学会専門医、母体保護指定医

清水圭太（平成30年卒業）：令和5年4月1日より 勤務

日本産科婦人科学会専門医

齋藤 多佳子（令和2年卒業）：令和4年10月1日より令和5年3月31日まで 勤務

2. 診療内容

1) 外来担当表：令和5年4月1日時点

	月	火	水	木	金
婦人科 9:00～	小林	加藤	小林	清水	相田
妊婦健診 9:30～	加藤	清水	相田・清水	加藤	小林
午後(予約のみ)					
妊婦健診 13:30～ 注2)	産後2週	小林	(手術)	清水	(手術) 産後2週
特殊外来 注1) 14:00～	注1	注1		注1	

注1 特殊外来 コルポスコピー、卵管造影検査など

思春期外来 15:30～(初診時は午前外来受診か電話予約要)

注2) 令和4年4月より、助産師による産後2週間健診が始まりました(予約制)

3. 業績：令和5年4月1日～令和6年3月31日 業績集をご覧ください

4. 臨床統計：平成31年1月1日～令和5年12月31日

	R1		R2		R3		R4		R5	
分娩総数	287		382		380		370		293	
帝王切開分娩	75		84		66		74		70	
(うち緊急)		37		41		23		36		40
頸管縫縮術	3		3		0		4		2	
異所性妊娠手術	2		4		2		1		0	
流産手術	41		27		39		26		23	
(うち中絶手術)		22		10		11		11		11
他の産科手術	1		2		4		1		4	
中期流産		3		10		11		5		6
婦人科手術										
腹式子宮全摘術	31		25		27		26		10	
(うちCIS・頸癌)		3		2		2		8		0
(うち子宮体癌)		1		2		4		3		2
筋腫核出術	2		1		3		3		1	
卵巢癌手術	3		0		0		2		1	
良性卵巢腫瘍	5		14		11		13		12	
他の開腹手術	2		0		0		0		1	

膣式子宮全摘術	6		2		4		1		2	
他の脱手術	3		3		3		0		3	
円錐切除術	3		12		8		4		3	
他の膣・外陰手術	7		1		13		8		9	
子宮鏡手術	0		4		0		1		3	
腹腔鏡手術	1		4		6		7		18	
手術総数	186		186		184		169		155	

【整形外科】

1) 医師の体制

常勤医:津吉秀樹、藤田裕、高橋駿、川崎謙哉(令和5年度前半の体制)

常勤医:津吉秀樹、高野岳人、藤田裕、坂口彰(令和5年度後半の体制)

大学からの助勤:川島寛之(第1火曜)、大橋正幸(金曜)、白野誠(第4月曜)、

2) 病棟

入院患者は、急性期病棟として整形外科病棟の病床50床、産婦人科との混合病棟に約10床を使用しています。他、回復リハビリ病棟、地域包括ケア病棟を使用し、必要に応じて整形外科急性期を過ぎた患者を管理しています。

3) 外来

予約紹介外来。月～金まで1～3診。

4) 手術

例年1,000件程度

5) その他

2022年4月より二次骨折予防のための取り組み(FLS:Fracture Liaison Service)を開始しました。院内外の他職種、多組織連携によって骨粗鬆症の治療、転倒による脆弱性骨折の予防に取り組み、地域内の高齢者の健康寿命延伸を目指しています。

【脳神経外科】

1 人体制で診療を行っています。主に脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、てんかん等の治療を行っています。長岡赤十字病院、新潟大学歯学部総合病院等と連携し、脳神経外科の標準的治療が行えるように努力をしています。

【泌尿器科】

2023年度（令和5年度）の新潟大学泌尿器科医局からの出張医は若杉優樹先生で、副院長・泌尿器科部長の羽入との2人体制でした。

【外来】 平日午前中、外来医師2名で、排尿障害、夜間頻尿、尿路感染症、尿路結石症、泌尿器癌、泌尿器救急など主要な泌尿器科疾患全般を診ています。新患・予約外受診は1日約10人前後、再診は約50人です。多くが60代～90代の高齢者で、加齢での神経疾患や前立腺肥大症による排尿困難・失禁・頻尿、残尿増加による慢性膀胱炎、高度排尿困難での尿道や膀胱瘻のカテーテル留置、老化（細胞の遺伝子変異）による悪性疾患（前立腺癌・膀胱癌）、運動不足・心不全・不眠症などによる夜間頻尿、飲水不足や過食やビタミンD製剤による尿路結石症、不眠などからの免疫低下による膀胱炎・腎盂腎炎、などです。20～50代は飲水不足・過食による尿路結石、不眠からの膀胱炎、性交渉によるクラミジア尿道炎が多いようです。

直接受診、紹介患者、検診2次精査、他科コンサルトなど、全てに対応しています。柏崎地域では泌尿器科医師は2名と極めて少なく、患者数は半端ない状況です。看護師、受付係、医療クラーク、医師は全員、獅子奮迅の毎日です。エコー、尿流測定・残尿測定、軟性尿道膀胱鏡など毎日行います。尿道留置カテーテル、膀胱瘻・腎瘻のカテーテル交換が毎月約100例です。外来患者数は限界状態、手術数も年間330名（延べ手術件数400件）と高止まりです。大学医局からの派遣医師数には限界があり、医師の働き方改革という国家プロジェクトの影響もあり、更に省力化を工夫せざるを得ません。2024年1月より午前から手術する日を設けることにしました。毎週水曜日の再診予約を徐々に減らし、2024年5月から毎週水曜日の外来は完全休診です。急患は電話連絡をいただければ、何とか対応することになっています。

新規の前立腺がん患者は1年間で約50例でした。年齢、ADL、併存疾患、患者の希望などを考慮し、内分泌療法、放射線療法（外照射）などを行います。ロボット支援前立腺摘除術、IMRT、重粒子線治療、内照射の希望があれば他院に紹介しています。がんの緩和ケアは基本的に外来で行い、必要に応じて入院で対応します。在宅看取りも病院に近い患者での対応は家族・訪問看護・医師との協力体制が整えば可能ですので、毎年数例の希望を実現しています。

2020年に勃発した新型コロナは徐々に弱毒化し、2023年に種々の規制が緩和されましたが、基礎疾患のある患者や高齢者では重症化リスクがありますので、発熱者、術前の濃厚接触者である患者などでのコロナ検査はルーチンとなっています。

心房細動や深部静脈血栓症患者での抗凝固薬、脳梗塞や心筋梗塞での抗血小板薬の使用者は非常に多く、手術管理やカテーテル留置管理では、常に気を使わなければなりません。

尿道カテーテル交換では男性尿道損傷が、柏崎地域で毎年数例発生しており、尿路感染や抗凝固管理があると重篤化しますので要注意です。カテーテル管理患者は年々増加しており、医師の労働軽減と外来混雑解消のために、外来看護師と訪問看護師へのタスクシフトに取り掛かりました。カテーテル交換・管理のコツを医療者に広く普及させることが重要で、講習会も検討中です。

【入院】 1年間で約450例が入院しました。手術が8割、尿閉の管理・感染症（腎盂腎炎、前立腺炎など）・がん緩和ケアなどの保存療法が2割。泌尿器科の平均在院日数は約10日です。80歳以上の肥満症、認知症・心疾患・糖尿病・骨粗鬆症などを合併し、多剤内服中で、ADLの低下した患者さんが多いです。転倒予防・せん妄不穏への対応はルーチン化しています。独居・介護力不足のため自宅に退院できない患者さんも多く、慢性期病院・老人施設・地域包括病棟に比較的早く退院するようになりました。

多忙な看護業務を軽減するため医師も協力していますが、更なる改善のために医師・看護師・補助看護師・病棟薬剤師・病棟クラークなどスタッフの充実が課題です。高齢者の医療福祉は需給バランスや本人・家族・医療者・財政の負担を考えて、治療をどこまで行うのか、住民一人ひとりがアドバンスド・ケア・プランニングを進めてゆく必要があると考えています。

【手術】 2023年の手術件数は別表のとおり526件で、去年の423件よりも増加し、コロナ前に戻りました。新型コロナによる制限が解除されたこと、高齢者医療需要が減っていないことが考えられます。体外衝撃波結石破砕術ESWL39件、前立腺針生検術89件、経尿道的前立腺切除術TURP72件、経尿道的膀胱腫瘍切除術TURBT68件、ダブルJカテーテル留置43件、経尿道的尿管結石レーザー破砕術TUL37、膀胱瘻造設術25件、などが多い手術です。若手泌尿器科医師に経験を積んでいただくように指導しながら、多くの手術を安全に行っています。

近年、膀胱瘻造設術の症例が増えています。膀胱瘻はカテーテル交換が容易で痛みが軽く、膿尿・血尿が尿道カテーテル留置に比べて軽度であり、QOLに寄与しています。腎盂尿管癌などの大きな手術は2023年度6件と増え、コロナ前に戻りました。

【2023年11月 電カルのバージョン更新、診察待ち患者の案内システムの開始】 更新バージョンのシステム的な問題も数か月で徐々に解消され、システムに慣れてきました。診察待ち患者の案内システムにスタッフも患者さん・家族も徐々に慣れ、待ち時間ストレスも減少しているようです。

【ほか】 泌尿器科部長・副院長である私も66歳になり、パフォーマンスは益々低下してきております。中堅泌尿器科医の着任は一刻の猶予も許されない状況と思っています。老体に鞭打ち、患者・家族の心身の苦悩と対峙し、私自身も医師労働の苦悩と向き合い、ささやかな満足を得ております。

(2023年3月 副院長・泌尿器科部長 羽入修吾)

2023年 泌尿器科 手術統計

腎の手術・・・30件	
経皮的腎瘻造設術	11
腎尿管全摘	6
腎瘻拡張・カテ交換	4
f-TUL	5
腎部分切除術	2
嚢胞エタノール硬化療法	1
経皮的腎腫瘍針生検術	1
	30

尿管の手術・・・127件	
DJ留置	43
DJ交換	6
DJ抜去	5
TUL(レーザーなど)	37
RP+	10
尿管尿管吻合術	2
尿管切石術	1
回腸導管	1
	105

膀胱の手術・・・128件	
TURBT	68
膀胱瘻造設術	25
膀胱砕石術	16
凝血除去+TUC	15
憩室電気凝固	1
水圧拡張術	1
膀胱部分切除+縫合	1
膀胱全摘	1
	128

尿道の手術・・・6件	
尿道狭窄・切開/ブジー	4
TUR尿道生検	2
	6

前立腺の手術・・・163件	
TRUS-PBx	89
TURP/TUIBN	72
凝血除去+TUC	2
	163

精巣の手術・・・18件	
去勢術	8
精巣摘除術	3
高位精巣摘除術	2
陰嚢水腫根治術	2
精巣捻転固定術	1
停留精巣固定術	1
停留精巣摘除術	1
	18

陰茎の手術・・・10件	
環状切開術	8
背面切開術	2
	10

副腎の手術・・・0件

その他の手術・・・5件	
感染性尿膜管遺残・切開排膿	1
感染性尿膜管遺残・切除+臍疝	1
鼠経ヘルニア根治術(膀胱脱)	1
フルニエ壊疽・切開排膿	1
フルニエ壊疽・デブリードマン	1
	5
ESWL	39

2023年手術統計

腎の手術	30
尿管の手術	127
膀胱の手術	128
尿道の手術	6
前立腺の手術	163
精巣の手術	18
陰茎の手術	10
副腎の手術	0
その他	5
ESWL	39
合計	526

件数の多い術式

TRUS-PBx	89
TURP/TUIBN	72
TURBT	68
ダブルJカテーテル留置	43
ESWL	39
TUL(レーザー)	37
膀胱瘻造設術	25
膀胱砕石術(レーザー)	16
経皮的腎瘻造設術	11
その他	126
	526

悪性腫瘍根治術・鏡視下手術の件数

根治的腎摘除術	0
腎部分切除術(腎癌)	2
腎尿管全摘除術	6
膀胱全摘除術	1
高位精巣摘除術	2
陰茎癌手術	0
	11

【皮膚科】

1. スタッフ

村山 翔太郎 役職：皮膚科医長
所属学会：日本皮膚科学会

2. 診療内容

外来受診患者数は平均して1日50人程、加えて院内入院中の患者さんで皮膚トラブルがあった際は他科医師より御紹介頂き、往診しています。

月曜、火曜、水曜の午後は皮膚生検や金属パッチテストなどの検査、また外来処置室や手術室で皮膚外科の手術を行っています。月2回、褥瘡回診があり、主に入院患者さんを対象に回診、カンファレンスを行っています。

新潟大学医学部皮膚科学教室より週2日、応援医師を派遣して頂いています。

3. 手術症例

- ・ 良性腫瘍の切除術
- ・ II度～III度熱傷や褥瘡のデブリードマン及び植皮術
- ・ 皮膚悪性腫瘍(SCC、BCC、Bowen病等)の切除および皮弁形成術
- ・ 陥入爪手術、ワイヤー法

【眼 科】

1) 体制

新潟大学より非常勤医師 寺島浩子
 佐々木藍季子 5月まで
 櫻澤 慧 6月から

2) 診療内容

	月	火	水	木	金
AM	検査	外来（寺島）	検査	外来（寺島）	外来 (佐々木→櫻澤)
PM	検査	手術（寺島）	検査	手術（寺島）	外来 (佐々木→櫻澤)

3) 診療実績

手術件数 2023年4月～2024年3月

	硝子体注射	白内障	網膜硝子体	外眼部手術	その他
4月	52	35	10	0	0
5月	57	35	11	0	0
6月	53	43	8	0	1
7月	60	43	6	0	0
8月	51	46	4	0	0
9月	56	40	6	0	0
10月	66	55	6	0	0
11月	62	42	4	0	0
12月	64	43	2	1	1
1月	65	45	7	0	0
2月	59	43	9	0	0
3月	53	41	9	0	0
合計	698	511	82	1	2

網膜光凝固術	125
後発白内障切開術	30
蛍光眼底撮影	35

静的量的視野検査	358
動的量的視野検査	99

病診連携 紹介状受診件数 2023年4月～2024年3月

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
37	37	31	34	34	31	35	24	42	34	34	20	393

【放射線科・放射線診断】

放射線診断【診療概況】 令和5年4月～令和6年3月

放射線科専門医（常勤1名および非常勤）がCT、MRI等の画像診断を行っております。フィルムレスにて運用されており、院内の画像検査の他、病診連携の一貫として院外からのCT、MRIの検査依頼を受けております。

コメディカルの放射線の報告も合わせてご覧ください。

【麻酔科】

麻酔科 【診療概況】 令和5年度

手術室

常勤1名に加え新潟大学、虎の門病院、三井記念病院による協力の下、定時手術および夜間・休日の緊急手術に対応しています。

日本麻酔科学会認定施設に柏崎市内で唯一認定されています。また、令和5年度より麻酔科専門研修プログラムに登録し、麻酔科専門医取得が可能な施設となりました。

令和5年度 手術件数

診療科	手術件数
外科	428
整形外科	787
泌尿器科	337
脳神経外科	35
産婦人科	152
眼科	1286
歯科	3
皮膚科	5
内科	30

外来

痛み外来では通常の治療ではなかなか改善しない疼痛のある患者さんを対象として神経ブロックや各種投薬治療などの診療を月曜日の午前中におこなっています。

【歯科・歯科口腔外科】

【診療概況】 令和5年4月～令和6年3月

1. 体制：常勤2名、非常勤2名

新潟大学から毎週水曜日に非常勤の派遣を受けています（口腔外科および歯周病科からそれぞれ隔週での派遣となっています）。

2. 診療内容：歯科・歯科口腔外科

口腔外科疾患の治療および歯科治療全般を行っています。

口腔外科疾患では、埋伏智歯の抜歯のほか、口腔領域の外傷（顎骨の骨折や歯の脱臼、軟組織の裂創など）・炎症（歯性感染症）・顎骨嚢胞・腫瘍・顎関節症・睡眠時無呼吸症候群などの治療を行っています。

この一年間の入院件数は8件で、全身麻酔下での手術が3件、口腔がんの緩和ケアが2件、局所麻酔での外来手術が1件、下顎骨骨折の非観血的整復固定が1件、顎骨の炎症の消炎処置が1件でした。

院内他科に入院されている方への口腔ケア（周術期の口腔ケアを含む）も実施しています。

また、医科主治医・言語聴覚士と連携して、摂食嚥下機能の検査である嚥下造影検査を36名、嚥下内視鏡検査を1名の方に行いました。

放射線科



・業務実績

2023 年度 業務実績 (件数) ①

	一般撮影	マンモ グラフィ	ポータブル	CT	MRI
2023 年 4 月	1815	51	251	899	198
5 月	1928	82	332	955	198
6 月	2109	104	337	957	230
7 月	1780	115	228	899	188
8 月	1897	122	348	1001	219
9 月	1953	117	281	976	222
10 月	1752	136	276	1060	247
11 月	1766	124	271	899	231
12 月	1896	129	316	1017	226
2024 年 1 月	1710	87	344	983	183
2 月	1625	89	327	882	196
3 月	1788	49	330	1011	222
合計	22019	1205	3641	11539	2560

※一般撮影内に歯科撮影を含めます。ポータブルは病棟、オペ室含めます。

2023 年度 業務実績（件数）②

	TV 透視	血管造影	骨塩定量	RI	放射線治療新患
2023 年 4 月	136	13	80	12	2
5 月	155	22	92	13	7
6 月	179	33	94	19	9
7 月	198	31	69	26	6
8 月	178	33	78	28	5
9 月	175	21	97	23	5
10 月	211	32	65	26	7
11 月	190	26	71	21	5
12 月	187	28	64	21	5
2024 年 1 月	148	28	68	33	8
2 月	156	41	63	25	7
3 月	156	27	76	22	6
合計	2069	335	917	269	72

※血管造影は、心臓カテーテル手術、透析シャント PTA、その他内科的処置を含めます。

・心臓カテーテル手術用撮影装置の更新

2023 年 4 月、血管撮影室 2 の新設に伴い、血管撮影室 1 の改修工事を行いました。

血管撮影室 1 は、従来 2 台の血管撮影装置がありましたが、同時に使用することが出来ず、使い勝手が良い配置とは言えませんでした。この改修工事でも更衣室が配置され、操作室・検査室ともに広くなり、新しい心臓カテーテル手術用撮影装置に更新され、とても使い勝手の良い撮影室になりました。

2024 年 5 月、新血管撮影室 1 が運用開始されました。被ばく低減技術、画質向上技術がバージョンアップされたとても良い装置に更新されました。



検査科



〈業務内容〉

検体検査部門として生化学・免疫検査、血液・輸血検査、一般検査、細菌検査、迅速病理検査を実施しています。

そして心電図検査や超音波検査などを行う、生理検査部門の2部門で業務を行っています。

また、採血業務として外来採血を中央採血室で実施しています。

採血業務もある為 検査科は、臨床検査技師 23 名＋看護師 3 名＋採血室受付 1 名で業務を行っています。

〈業務実績〉

検査全体実績 件数・金額 及び 検診の実績を掲載します。

令和 5 年度は、令和 4 年度と比較すると、検査件数が 3%ほど減っていました。新型コロナウイルスが 5 類に分類され検出検査については、PCR 検査件数が減り、抗原定性検査が増えました。検出検査件数全体では、前年度より約半数に減りました。そのため検査全体の金額では、令和 4 年度より 6%ほど減りました。検診については、前年度とさほど変わりなく検査全体金額の 4.5%を占めていました。

今後も新規項目の導入や機器更新を行い正確で迅速な検査データを提供していきます、精度保障指標の一つとして毎年実施しています精度管理調査に、これからも真摯に取り組んでいきます。

検査 (件数・金額)

検査件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	130,859	128,481	141,488	127,361	136,144	135,951	129,558	132,386	135,706	124,196	119,751	145,785	1,587,666
令和5年度	123,260	131,469	137,455	122,817	138,610	129,927	131,584	124,072	136,133	128,542	121,085	136,430	1,561,384

金額(千円)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	51,983	52,482	55,842	53,118	58,212	53,894	50,125	53,257	55,633	49,359	48,755	54,881	637,545
令和5年度	47,903	50,710	51,731	48,530	53,896	48,810	51,490	47,777	52,190	49,907	46,352	49,996	599,296

検診 (件数・金額)

検診件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	638	989	1,377	1,031	1,051	1,067	1,142	1,114	904	598	611	401	10,923
令和5年度	607	990	1,313	1,127	1,071	1,179	1,326	1,081	1,046	653	566	209	11,168

金額(千円)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	1,593	2,227	3,068	2,541	2,585	2,702	2,648	2,679	2,192	1,519	1,596	970	26,326
令和5年度	1,510	2,307	3,002	2,821	2,675	2,892	3,047	2,714	2,652	1,689	1,458	485	27,259

〈チーム医療・各種認定資格〉

多職種の医療職者が連携しながら一人の患者さまの治療にあたるチーム医療 院内感染対策チーム、栄養サポートチーム、輸血業務検討委員会、令和4年度から心臓リハビリテーションのチーム会議に参加しています。

当検査科では、日常検査の経験と学会や研修会での研鑽を重ね、次のような各種認定資格を取得しております。

認定輸血検査技師	1名
心電図検定1級	1名
心血管インターベーション技師	1名
認定認知症領域検査技師	1名
超音波検査士 (循環器・消化器・体表臓器・健診)	3名
血管診療技師	1名
平衡機能技術講習	1名
細胞検査士	1名
二級臨床検査士 (病理)	1名
二級臨床検査士 (血液)	1名
二級臨床検査士 (生化学)	1名
緊急臨床検査士	1名
タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会修了者	11名
検体採取並びに味覚検査及び嗅覚検査の実施に必要な知識及び技能取得講習	23名

看護部

1. 看護部理念

「私たちは、患者さんの立場に立ち 思いやりのある看護を提供します」

基本方針

- 1) 自分で考え、行動できる人材を育成する
- 2) 安全・安心な看護サービスを提供する
- 3) 経営に参画し、病院組織の一員として役割を遂行する

2. 令和5年度看護部目標（別表1）

- 1) 地域住民に選ばれ、事業計画に向けた病床運営を安定して行う
- 2) 専門職として自律した看護実践を通し医療・看護の質を向上する
- 3) 働き続けられる職場づくりをする

3. 看護部運営概要について

少子高齢社会において地域包括ケアシステム推進のために今後さらに外来や地域連携支援部の強化が必要になると考えます。そのため、外来と訪問看護の主任看護師（マネジャー）を各1名増員し、体制の見直しと教育体制の強化を図りました。

また、新たに院内救急救命士を採用しました。新たな職種の採用であり教育体制の構築と協働することの多い看護部にまず、所属することとしました。日当直の救急外来の対応に大きな力を発揮しています。医師・看護職の働き方改革に向けて、院内救急救命士を増員し、タスクシフト・タスクシェアを進めたいと考えます。

2020年に国内で新型コロナウイルス感染症患者が確認されて以降、帰国者接触者外来、発熱外来、入院患者の受入れ、ワクチン接種等の対応を行ってきました。新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画（BCP）に基づいた対応と修正を行いながら、感染対策チームを中心に院内外と協働をはかりながら乗り越えてきました。新型コロナウイルスの5類感染症への移行に伴い、9月末に発熱外来や感染症患者の受入れ病棟を閉鎖しました。同時に今後の患者の動向や疾患の変化を見据え病棟の再編成に対応しました。引き続き、一般病棟で感染症対応を行います。

今年度新たにDCT（認知症ケアチーム）を立ち上げました。認知症看護認定看護師を中心に多職種と認知症看護の実践能力の強化に取り組みました。せん妄患者の看護、身体的拘束解除に向けた取り組みをすすめます。

「行き先が不透明で、将来の予測が困難な状況」にあるVUCA（ブーカ時代）と言われる中、地域のニーズに応えるために、多職種と協働し、医療・看護の質向上のために努めてまいります。

6. 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者

専門・認定看護分野	氏名	認定年度
がん看護専門看護師	横関 泰江	平成 28 年度
皮膚・排泄ケア認定看護師	中村 文枝	平成 20 年度
救急看護認定看護師	春川 一樹	平成 25 年度
感染管理認定看護師	徳原 伸子	平成 26 年度
認定看護管理者	金泉 まゆみ	令和 3 年度
糖尿病看護認定看護師	小林 美和子	令和 4 年度
認知症看護認定看護師	島田 美樹	令和 4 年度
感染管理認定看護師	永井 惇美	令和 5 年度

7. 特定行為研修修了者

氏名	修了年度	修了区分
徳原 伸子	令和元年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・ 感染に係る薬剤投与関連 ・ 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）
小林 美和子	令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・ 血糖コントロールに係る薬剤投与関連
島田 美樹	令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・ 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連
佐藤 絵梨	令和 5 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 術中麻酔管理領域 ・ 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）
永井 惇美	令和 5 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・ 感染に係る薬剤投与関連

資格取得者及び研修修了者を活用し、院内はもちろん地域へも看護の専門性を発揮する機会を拡大していきたいと考えております。

目標・具体的実践内容	具体的実践結果	評価・課題
<p>1. 地域住民に選ばれ、事業計画に向けた病床運営を安定して行う</p> <p>1) 患者に合わせた適切で質の高い看護を提供する</p> <p>① 看護過程の展開、適切なケアを判断し実施</p> <p>② 各カンファレンスを実施し、看護の質向上を図る</p> <p>③ 各部署で質向上のための指標を決め取組む</p> <p>④ 退院後の生活を見据えた退院支援の実施</p> <p>⑤ 患者の回復過程に合わせた有効な病床管理</p> <p>⑥ クラスターの発生による入院制限を防止</p> <p>2. 専門職として自律した看護実践を通し医療・看護の質を向上する</p> <p>1) キャリアラダーを活用し、個人の課題を支援する</p> <p>① キャリアラダー運用開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任看護師・2年目看護師が申請、認定 <p>② 部署のコアメンバーとして、課題解決に向けて行動できる人材を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント研修/前年度受講者のフォローアップ研修 <p>2) 認知症看護実践力を向上する</p> <p>① 多職種と協働し認知症状の悪化を防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DCTの立上げ・認知症ケア加算Iを取得 <p>② 倫理観の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定に関する事例の抽出 ・看護職の倫理綱領が臨床におけるどの場面でその意味を成しているのか考える ・それぞれレポートの作成および発表 <p>3. 働き続けられる職場づくりをする</p> <p>1) タスクシェア・タスクシフトにより、安全に業務を効率化する</p> <p>① 看護介護補助者との協働</p> <p>② 救急救命士との協働</p> <p>③ 勤務体制と業務を見直す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護補助体制充実加算等を維持 ・業務を分解しタスクシェア・シフトを進める ・変則2交代夜勤の導入 ・人材の必要な時間帯への人材の投入 <p>2) 働きやすい職場環境への取り組み</p> <p>① 職員アンケート調査の実施(11月)</p> <p>② 中途採用者支援、支援の仕組みづくり</p>	<p>1-1)</p> <p>前期目標達成部署:4部署 未達成部署:7部署 各部署が目標達成に向けた多くの取り組みを実践した。</p> <p>⑥クラスター発生前期2件/後期1件、入院数への影響減少</p> <p>○病棟編成実施。平均入院患者数:264.3名(2月末現在)4,7,11,12月が少ない。</p> <p>2-1)</p> <p>①遅れたが申請予定者23名中20名の準備が整った。</p> <p>②計画通り研修を行い、研修の目標も達成した。</p> <p>2-2)</p> <p>①1月DCT立上げ、2月活動開始、3月加算算定開始。</p> <p>②各部署にて倫理カンファレンスを実施、倫理事例検討会を実施し、アンケートから学びを得たことを確認した。</p> <p>3-1)</p> <p>①研修の実施と清潔ケアの協働をモデル病棟から業務拡大の準備中。</p> <p>②1年目教育計画完成。協働により救外看護が向上。</p> <p>③2病棟で2か月間、変則2交代夜勤を試用運用実施し、課題を抽出、改善中。</p> <p>3-2)</p> <p>①シフト調整に対し昨年2.35、今年度2.44。満足・不満足群の差が大きい。</p> <p>②「中途採用者支援スケジュール」問題点の把握、中途採用者と懇談会を実施。</p> <p>中途採用者の5年以内離職率9.7%(昨年度17.1%)</p>	<p>1-1) 目標達成部署9部署に到達しなかった。しかし取り組み過程で改善がみられたことは評価できる。継続して課題に取り組む。</p> <p>○平均入院患者300名以上の目標差-36名。患者数の減少時期の患者確保対策と年度末の職員確保により入院患者の増加に対応する。</p> <p>2-1) ①対象者の8割以上(87.0%)が審査待機中である。認定者拡大に向け継続する。</p> <p>2-1) ②次年度はキャリアラダーに沿った企画の検討を行う。</p> <p>2-2) ①認知症看護実践能力の向上のために体制を整備する。</p> <p>2-2) ②長期間かけ考える機会となった。倫理観向上のため継続する。</p> <p>3-1) ①正しく理解し実践するために継続する。</p> <p>3-1) ②協働業務拡大のため2年目以降の体制を構築する。</p> <p>3-1) ③課題を改善し働きやすい勤務体制の拡大に向け継続。</p> <p>3-2) ①目標とした「シフト調整」の平均値は改善したが課題が多く継続が必要である。</p> <p>3-2) ②課題の改善を実施し経緯を注視する。</p>

院内・院外発表

【院外発表】

1. 透析室 吉野 綾子
豪雪事例から見えた災害対策の現状と今後の課題
令和5年11月17日、18日 第26回日本腎不全看護学会学術集会総会 ポスター発表
2. 地域連携支援部 ○鈴木 梢 武田 文子 高桑 美奈子
意思決定が困難な状況下における退院支援
ー患者の意思を推定し尊重した家族への支援過程を振り返ってー
令和5年11月11日(土) 動画配信 厚生連看護部研究発表会

【院内看護研究発表会】

令和6年3月19日(火)

1. 西3階病棟 ○武田すみれ 岸 恵
麻痺が残存した壮年期の患者への社会復帰を見据えた退院支援
～回復期リハビリテーション病棟看護師の関りを振り返って～
2. 手術室 ○本多 絵里香 白倉 早紀 藤田 理佐
事例を通した術前訪問の評価
～不安の軽減につながる術前訪問を目指して～
3. 西5階病棟 ○赤石 吾郎 池田 沙織 中村 さくら
終末期にある患者、家族の気持ちに寄り添う意思決定支援
～延命治療に対する家族の思い～

令和5年度 新人看護師入職時研修プログラム 実績

月日	時間	研修項目	目的	目標	担当	参加者
4/4 (火)	8:30～ 9:00	看護部の紹介	看護部についての理解を深める	1. 看護部の組織について理解できる 2. 看護部理念、目指す看護師について理解できる	看護部長	20名
	9:00～ 10:00	専門職業人としての心構え	専門職業人としての意識を持ち、看護に臨むことができる	1. すべての看護実践は、看護の倫理綱領に基づくことを知る 2. 「看護職員として必要な基本姿勢と態度」「看護実践における管理的側面」で求められる項目を知る 3. 専門職業人として、継続学習の必要性がわかる	副看護部長	20名
	10:10～ 11:10	研修の概要	新人看護師研修の必要性を理解し、今後積極的に参加することができる	1. 新人看護職員研修の概要を知る 2. 新人研修ファイルの活用方法がわかる	教育委員会： 師長主任	20名
	11:20～ 12:00	オリエンテーション	配置部署の特徴を知る 配置部署のスタッフに挨拶ができる 入職者健診の採血を各部署で行う（Tスポット採血も実施する）		看護師長	20名
	13:00～ 13:30	看護必要度	看護必要度を評価する必要性がわかる	1. 当院の看護体制と必要度を知る 2. 必要度の評価項目と評価基準を知る	看護必要度委員会：	20名
	13:30～ 14:00	ナーシングスキル	看護技術におけるナーシングスキルの活用方法について学ぶ	1. ナーシングスキルへのログインが実践できる ナーシングスキルの利用方法が理解できる	基準手順委員会：	20名
	14:30～ 17:00	入職者健診				20名

月日	時間	研修項目	目的	目標	担当	
4/5 (水)	8:30~ 9:30	安全管理	看護職における医療安全対策の必要性を理解することができる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の意義を理解する 2. 人間特性を理解し自分も間違える存在であることを自覚する 3. インシデント報告の必要性を理解する 	医療安全管理者：	20名
	9:30~ 12:00	与薬 (経口)	安全で確実な与薬業務に必要な知識を得ることができる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当院の薬袋と処方箋の確認方法が説明できる 2. 6R に沿って安全な与薬業務の演習ができる 処方から与薬までの業務を理解し、インシデントにつながる業務であることに気づくことができる 	医療安全対策委員会：	20名
	13:00~ 17:00	感染防止	標準予防策について学び、これからの看護実践に必要な感染対策の知識・技術を身につける	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手指衛生の 5moments が理解できる 2. 個人防護具の必要性を知り、正しい着脱方法を体験できる 3. 環境整備の必要性を理解できる 4. 医療廃棄物の分別方法が説明できる 5. 針刺し・切創事故の危険性を知る 6. 感染経路を知り、経路別予防策のポイントを理解する 7. N95 マスクを正しく装着できる 	感染委員会： 感染管理特定認定看護師：徳原看護師	20名

月日	時間	研修項目	目的	目標	担当	
4/6 (木)	8:30～ 12:00	看護記録	看護記録の概要と電子カルテの取り扱い方法が理解できる	1. 看護記録の概念が説明できる 2. 看護記録の必要性が説明できる 3. 電子カルテから必要な情報収集の方法が理解できる	記録委員会：	20名
	13:00～ 17:00	褥瘡予防の基本	褥瘡発生のメカニズムを知り、日々の看護に予防の視点を持ってあたる事ができる	<褥瘡予防の基本> 褥瘡予防の基本がわかり、臨床で実践できる	褥瘡委員会： 皮膚排泄認定看護師：	20名
		体位変換・オムツ交換	基本的な体位変換・オムツ交換の知識、技術を身につけることができる	<体位変換> 臥床患者の体位変換が出来る <おむつ交換> 臥床患者のオムツ交換ができる	中村看護師	20名
4/7 (金)	8:30～ 12:00	シャドー研修	配置部署の業務を知り、リアリティを体感する	1. 病棟の雰囲気を感じ取る 2. 体位変換、オムツ交換を見学する 3. 経口与薬の場面を見学する	プリセプター	20名
	13:00～ 17:00	患者観察の基本	1. 視診・触診・聴診による患者観察の方法を知る 2. 患者の変化する状態(急変)の前駆症状を効果的に発見できる観察方法を習得する	1. 視診と触診により、呼吸数・脈拍数を測定することができる 2. 呼吸音を聴取することができる 3. GCS を用いて、意識レベルを評価することができる 4. 系統立てた患者観察を実践することができる	救急委員会 救急認定看護師 ：春川看護師	20名

月日	時間	研修項目	目的	目標	担当	
4/10 (月)	8:30～ 12:00	皮下・筋肉 注射	ガイドラインに 沿った皮下・筋肉 注射の方法が理 解できる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮下・筋肉注射の目的がわかる 2. 皮下・筋肉注射の注射部位がわか る 3. 皮下・筋肉注射のリスク、身体へ の侵襲がわかる 4. 針刺し事故防止の行動がとれる 5. シミュレーターを使用して皮下・ 筋肉注射が実施できる 6. 薬液の吸い上げができる 	基準・手 順委員 会：	20名
	13:30～ 17:00	シャドー 研修	配属部署で業務 を知り、リアリテ ィを体感する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務の流れを知る 2. 患者の一日の流れを知る 3. カルテからの情報収集を見学する 4. 静脈注射、点滴の準備を見学する 5. 静脈注射、点滴の実施を見学する 	プリセ プター	20名
4/11 (火)	8:30～ 12:00	採血	ガイドラインに 沿った採血方法 を習得する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 採血の目的が理解できる 2. 採血管の種類や採血後の採血管の 取り扱いが理解できる 3. 採血部位が理解できる 4. 採血によるリスク、身体への侵襲 が理解できる 5. 確実な止血の方法が理解できる 6. シミュレーターを使用して採血が 実施出来る 	教育委 員会：	20名
	13:00～ 17:00	静脈注射・ 点滴	ガイドラインに 沿った静脈注射、 点滴の方法を習 得する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 静脈注射、点滴の目的が理解でき る 2. 静脈注射、点滴部位が理解できる 3. 静脈注射、点滴によるリスク、身 体への侵襲が理解できる 4. シミュレーターで静脈注射、点滴 が実施出来る 5. 点滴施行中患者の観察や管理方法 が理解できる 	教育委 員会：	20名

柏崎総合医療センター看護部 教育委員会 新人教育担当

令和5年度 柏崎総合医療センター看護部教育プログラム(実績)

令和6年3月

対象 目指すレベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月
新人研修 ラダーⅠ	3/23名 新人入職研修 4~12/23名 新人入職研修 24/23名 救急看護 28/23名 災害看護	8~19/20名 夜勤前(分教) 13/24名 N/E機器管理 22~31/23名 麻薬管理(分教)	1~30/20名 看護補助者協働(分教) 26~30/23名 医療安全-KYT(分教) 8/20名 振り返り研修① 25/8名 (厚) 新人研修	13/22名 輸血管理 21/23名 感染対策 8/11名 (厚) 新人研修	28/23名 感染対策 21/21名 新人検通研修 7/18名 振返り研修② 28/12名 新人改善研修 2	11~12/20名 看護記録・基礎情報(分教) 25~24/22名 医療安全・事故分析(分教) 20/12名 新人改善研修 2
			7月~11月 2-3年目看護技術習得月間			
ラダーⅡ			28/19名 リーダーシップ研修	4/21名 看護過程の展開 16/18名 事例報告	8/18名 固定チーム・メンバー研修(集合)	
ラダーⅢ				23/3名 (厚) リーダーシップ研修Ⅰ (Zoom)	29/18名 ナラティブ研修 19/4名 (厚) 倫理研修(Zoom)	23/3名 対象Ⅲ~Ⅳ (厚) リーダーシップ研修Ⅱ (Zoom)
ラダーⅣ以上						
プリセプター		26/19名 プリセプター研修	14/15名 実地サポーター研修(分教)			13/16名 プリセプター研修(集合)
実地サポーター						
管理	26 管理指 感染対策研修				28/3名 (厚) 副院長研修 30/36名 医療安全研修①② 31/31名 医療安全研修③	2/4名 (厚) 主任研修
補助員			19/82名 夜勤研修①②③ 29/29名 夜勤研修④⑤			19/38名 感染対策研修①②③ 25/21名 感染対策研修④⑤
全体	9/6部署 対象 65年度看護研究オリエンテーション(分教) 9/15名 (厚) キャリアラダー実践報告会	29/22名 (厚) トピックス研修Ⅱ (Zoom) 15/10名 (厚) キャリアラダー実践報告会	7~11月 対象Ⅰ~Ⅴ 247名 BLS研修 8/1~1/31 入退院支援研修(分教) 受講者:214名 31/37名参加・補講研修 7/18~8/31 看護補助者との協働推進のための研修(ナースングスキルの提議+テスト) 7/31~8/25 136名参加 倫理研修(分教)	18/18名 ALS研修(レベルⅡ以上) 22/26名 トピックス研修①(認知症)	9~12月 看護必要度研修(分教) テスト、ダブルチェック、153名 DVD学習:104名 14/62名 倫理事列発表会①	

対象 目指すレベル	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新人研修 ラダーⅠ	16~20/20名 看護診断①(分教) 21/21名 患者高度コース 18名 院内留学 2-3年目看護技術習得月間	15~17/20名 看護診断②(分教) 11月中 発表18名(分教:部署発表)	14/18名 受け持ち看護師	24/18名 入退院支援研修 9/20名 1年目研修発表会 9/1~28/18名 エンゼルケア(分教)		
ラダーⅡ			1~31/18名 事例報告(分教:部署発表)			
ラダーⅢ	1~31/16名 ナラティブ研修(分教:部署発表) 18/12名 マネジメント研修②	1~31/10名 入退院支援研修(分教:部署発表)		17/10名 マネジメント フォローアップ研修		
ラダーⅣ以上	4/11名 入退院支援研修 (10~11月訪問看護同行実習)	20/12名 マネジメント研修③				
プリセプター						
実地サポーター		15/14名 実地サポーター研修 25/6名 (厚) 師長研修				
管理	2/39名 食事介助①② 6/29名 食事介助③④ 7/9名 (厚) 介護員研修(Zoom)	7/13名 医療安全④ 29/21名 褥瘡予防①②	13/38名 褥瘡のある患者への対応①② 19/31名 褥瘡のある患者への対応③④	10/60名 BLS研修 31/31名 BLS研修	6/18名 褥瘡予防③④ 6/1名 医療安全⑤	6/13/16名 6.13/18名 実地サポーター準備研修 1~24/18名
補助員						
全体	7~11月 247名 対象Ⅰ~Ⅴ BLS研修 9~12月 看護必要度研修(分教) 27/30名 トピックス研修②(臨床病) 5/74名 倫理事列発表会②	3/15名 ALS研修(レベルⅡ以上) 27/25名 認知症研修 23/23名 (厚) 看護研究発表会 11/11	8/24名 研修企画の作り方研修 12月~令和6年2月 看護部各部署勤務者全員 火災撲滅訓練	2/13~3/29 中途採用看護師 18名 看護補助者との協働推進のための研修(ナースングスキルの提議+テスト)	19/32名 24年度看護研究発表会 看護研究発表会	

厚生課主催研修 病院主催研修 師長会主催研修 主任会主催研修 認定看護師主催研修 看護部委員会主催研修 教育委員会主催研修

令和5年度 研修参加状況

看護学会

主催	学会名	月 日	参加者
日本農村医学会	日本農村医学会 新潟地方会第70回例会	4月22日	金泉 まゆみ
日本感染管理ネットワーク	日本感染管理ネットワーク学会学術集会	5月20、21日	徳原 伸子
日本母性看護学会	第25回日本母性看護学会	5月28日	脇 佐弥香
日本創傷オストミー失禁管理学会	第32回日本創傷オストミー失禁管理学会学術集会	7月9日	中村 文枝
日本褥瘡学会	第25回日本褥瘡学会学術集会	9月1、2日	中村 文枝
日本認知症予防学会	第12回日本認知症予防学会学術集会	9月15日	島田 美樹
新潟県看護協会	2023年度新潟県看護協会看護学会	11月30日	池野 美奈子 村松千代子 星野ユリ子
日本糖尿病妊娠学会	第39回日本糖尿病妊娠学会年次学術集会	11月17、18日	小林 美和子
日本腎不全看護学会	第2/6回日本腎不全看護学会学術集会・総会	11月18、19日	吉野 綾子
日本救急看護学会	第25回日本救急看護学会学術集会	11月24、25日	春川 一樹

令和5年度 研修参加状況

短期・長期研修

主 催	研 修 名	月 日	参 加 者
新潟県看護協会	認定看護管理者教育過程 「ファーストレベル」	7/27～10/11	竹田 綾 吉野 綾子
新潟大学大学院保健学研究科保健医療高度専門職教育センター	感染管理認定看護師教育過程 (B過程)	令和4年7月～ 令和5年6月	永井 惇美
株式会社Vitaars	Vitaars第3回特定行為研修 術中麻酔管理領域パッケージ+PICC	令和4年10月4日～ 令和5年6月	佐藤 絵梨
医療安全全国共同行動	医療安全管理者 養成研修	6月～9月 (e-ラーニング+オンライン演習)	綱島 泰子
医療安全全国共同行動	医療安全管理者 養成研修	8月～11月 (e-ラーニング+オンライン演習)	山田 明子
新潟県	新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会	8/2～10/27	山崎 希里

新潟県看護協会研修

研修項目	研修会名	月 日	参加人数
「生活」と保健・医療・福祉をつなぐ質の高い看護の普及に向けた継続教育	新潟県委託事業 認知症対応能力向上研修(3日間) (*認知症ケア加算2の施設基準に該当する研修)	8月22日29日 9月6日	1名
	「外来における在宅療養支援能力向上のための研修」	3月2日	2名
リーダーと連動した継続教育	小論文・レポートの書き方	5月15日	2名
	地域につなぐ外来看護ー求められる専門性	7月24日	2名
	家族をまるごと看護する～家族看護の考え方と家族アセスメント～	8月25日	1名
	施設内研修企画に必要な基礎知識(2日間)	8月9日 9月1日	1名
	看護現場で活かせるフィジカルアセスメント -急性期編	9月4日	2名
	メンタルヘルスクエア(中堅編) ～生き活きと看護を実践するためのストレスマネジメント～	9月13日	1名
	地域包括ケアに求められるカンファレンススキル	9月27日	2名
看護管理者が地域包括ケアシステムを推進するための力量形成に向けた継続教育	地域包括ケアシステム推進に取り組む看護管理者の役割	8月7日	1名
	看護管理入門 看護マネジメント はじめの一步	10月23日	2名
	クレームの無いよりよい組織づくり	11月10日	1名
	身体抑制をしない看護 ～身体抑制ゼロをめざして～	12月2日	2名
	新潟県委託事業 新人看護職員研修における教育担当者研修	12月8日 12月22日	1名
医療安全研修	看護職のための医療安全 ～一人一人が取り組む医療安全～	6月13日	1名
	医療現場の安全力を高めよう ～組織における医療安全活動のすすめかた～	9月12日	1名
	看護記録と法的責任 ～看護記録はどうあるべきか～	9月22日	1名
専門性の高い看護職員育成事業	つながる・ひろがる・たしかめる ～専門性の高い看護～	3月1日	1名

WLB推進事業	WLB推進事業研修 「育児をしながら働くために」	11月22日	1名
訪問看護推進事業	在宅看護(入退院支援)研修会 公開講座	6月15日 10月28日	1名
看護の日事業	「生きるを伝える」	5月12日	3名
看護協会 看護連盟合同	「新たな指針を活用しよう！」 ～看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針の改定～	2月17日	3名
資格認定教育	認定看護管理者教育課程セカンドレベル フォローアップ 実践報告会	12月7日	1名
職能研修	令和5年度新潟県看護協会 看護師職能 I・II 合同集会	6月14日	1名
	令和6年度新潟県看護協会 保健師職能集会	6月14日	1名

新潟県厚生連研修

研修会名	テーマ	月 日	参加者
教育研修Ⅰ	看護倫理:ともに考えよう看護倫理!	8月19日	4名
教育研修Ⅱ	新人研修:自分の価値に気づこう!	6月25日 7月8日	新人看護師 19名
教育研修Ⅲ	リーダーシップ研修Ⅰ 貴方らしいリーダーシップを磨こう!	7月22日	3名
教育研修Ⅳ	リーダーシップ研修Ⅱ スタッフ育成にいかすティーチングとコーチング	9月23日	3名
教育研修Ⅴ	介護員研修 ブラッシュアップで介護のスキルを高めよう	10月7日	3名
看護部研究発表会	ともに学び ともに育つ	11月11日	32名
トピックス研修	看護研究Ⅱ 研究論文の作成 ～研究成果を論文にまとめよう!～	6月29日	動画配信 6月29日 29名視聴
トピックス研修	看護研究Ⅰ「研究の絞り込みと計画書」	令和5年 2月17日 3月1日(録画)	動画配信 2月17日 22名視聴 3月1日 9名視聴
キャリアラダー実践報告会	キャリアラダー実践報告会 ～キャリアラダーの円滑な運用に向けて～	6月15日	10名
主任研修	問題の本質を理解し課題を解決しよう!	9月2日	4名
師長研修	これで大丈夫!!次年度の目標設定 ～組織を正しく分析しよう～	11月25日	6名
看護部長 副部長研修	看護管理者に必要なモチベーションマネジメントの実際	8月26日	金泉 まゆみ 矢嶋 真由美 池野 美奈子
管理監督者 研修 (拡大版)	「厚生連病院の発展・向上に向けた変革 推進プラン」と「第十一次中期経営計画 の概要」	10月31日	看護師長以上 16名

その他の学会・研修

主催	テーマ	月日	参加者
S-QUE研修会 日本マネジメント 学会	‘23「重症度、医療・看護必要度」評価者 及び院内指導者研修	6月1日～8月31日	12名
S-QUE研修会 全日本病院協会	看護補助者の更なる活用のための看護 管理者研修	5月22日	安達 桂子 山田 和恵 林 幸恵
日本医療メディエー ター協会	医療コンフリク・トマネジメントセミナー	5月27、28日 基礎編 導入編	北村 貴子
新潟県医師会	医療コンフリク・トマネジメントセミナー	6月3、4日 基礎編	檜出 芳子
国立研究開発法人 量子科学技術研究 開発機	令和5年度第2回原子力災害医療中核人 材研修	6月6、7日	春川 一樹
上越総合病院	2023年度NST療法士認定制度臨床実地 修練カリキュラム	6月20、21日 7月4、11、19日	布施 美欧
日本看護協会	研修で学びと実践をつなぐ指導者のため の研修	7月12日	阿部 麻衣
日本病院会	感染対策担当者のためのセミナー	7月29日 11月25日 1月20日	小関 浩子 山田 明子
新潟大学歯学総 合病院 肝疾患相談センター	第1回肝炎医療コーディネーター養成研 修	7月20日	横関 泰江 高橋 彩 本田 遥菜 阿部さつき
新潟県立がんセン ター	新潟県立がんセンター新潟病院 ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プ ログラム	8月26日 8月27日	村松 静香

看護学生 実習受け入れ状況

受け入れ学校名	実習科目	人数
独立行政法人 国立病院機構 新潟病院附属看護学校	成人看護学Ⅱ・Ⅲ	40名
	老年看護学Ⅱ	17名
	母性看護学	34名
	老年看護学(新カリキュラム)	9名
	急性期看護学(新カリキュラム)	12名
	終末期看護学実習(新カリキュラム)	12名
	成人看護学(新カリキュラム)	18名
	在宅看護学	10名
長岡崇徳大学 看護学部	母性看護学	11名
	小児看護学	15名
	成人看護学Ⅰ	13名
	統合実習	4名
県立看護大学 看護学部	在宅看護学	4名



令和5年度 看護部長、副看護部長、看護師長



令和5年度 主任看護師



令和5年度 新人職員

薬剤部



【新型コロナ感染症への対応】

・ワクチン

5月8日から新型コロナの感染症法上の扱いがそれまでの「2類相当」から「5類」に変わりました。

ワクチン接種については、2024年3月まで公費負担が継続されました。当院でもワクチン接種は継続し行われました。薬剤部では引き続きワクチンの在庫管理、調製を担当しました。

職員へは5月に6回目417人、10月に7回目315人の接種が行われました。市民へは、成人は5～7月にかけて2,616人、10～12月にかけて2,007人に接種しました。小児(5～11歳)は年度をとおして延べ294人、乳幼児は同様に延べ91人に接種しました。

・治療薬

5類移行後も感染者数は増減を繰り返し推移しました。入院患者の薬物治療は主にレムデシビル(商品名:ベクルリー点滴静注用100mg)が使用され、今年度1年間に104人の入院患者に482バイアルが投与されました。

【医薬品供給の停止・遅延・出荷調整等】

医薬品の供給不足の状況は一向に改善の兆しが見えません。当院においても様々な医薬品が入手困難になり治療や処方、調剤に多大な影響が出ました。特に深刻だった医薬品として、低(無)ガンマグロブリン血症や川崎病の治療に使用するIVIG(献血ヴェノグロブリンIH静注製剤)やホジキンリンパ腫の治療等に不可欠なダカルバジン注用100などがありました。

【薬学生教育】

今年度は【II期】5月22日～8月6日に1名(新潟薬科大学)、【III期】8月21日～11月5日に1名(高崎健康福祉大学)、計2名の実習生を受け入れました。

【病薬連携】

薬剤管理指導の件数増加を目指して薬剤部全体で取り組みました。年度当初は月200件程度の指導件数でしたが、後半は月300件台に伸ばすことが出来ました。来年度は更に効率化に取り組み、より多くの患者の指導に当たりたいと考えています。

【薬事委員会】

	内服剤	外用剤	注射剤	合計
新規採用薬品	24	2	28	54
仮採用薬品	0	0	0	0
院外採用薬品	5	1	1	7
削除薬品	26	6	22	54
後発医薬品への切り替え	8	1	1	10

無菌製剤処理業務

【外来】

外来腫瘍化学療法診療料1(抗悪性腫瘍剤を投与した場合)(700点/件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	89	100	110	104	122	107	114	112	122	91	123	98	1,292

外来化学療法加算1(抗悪性腫瘍剤以外の薬剤を注射した場合)(450点/件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	15	12	16	12	16	14	15	10	18	15	11	15	169

無菌製剤処理料1(180点/件)(閉鎖式接続器具使用)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	9	12	6	6	10	5	5	7	10	10	11	6	97

無菌製剤処理料1(45点/件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	89	95	111	110	126	116	123	120	131	123	122	106	1,372

【入院】

無菌製剤処理料1(180点/件)(閉鎖式接続器具使用)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	3	2	4	1	3	5	3	1	1	0	2	0	25

無菌製剤処理料1(45点/件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	20	15	15	13	24	19	21	21	19	15	13	14	209

無菌製剤処理料2(40点/件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	53	58	44	15	36	76	68	41	117	86	83	92	769

【薬剤管理指導業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
薬剤管理指導料1件数(380点)	112	128	170	164	133	160	211	163	203	161	175	139	1,919
薬剤管理指導料2件数(325点)	84	107	111	118	80	116	165	109	151	159	153	140	1,493
麻薬加算件数(50件)	8	8	10	7	4	1	13	9	4	2	9	1	76
退院指導加算件数(90点)	19	26	22	37	34	48	63	32	68	43	46	42	480

がん患者指導管理業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
がん患者指導管理料3(200点)	3	5	11	4	4	6	5	7	10	5	3	5	68
連携充実加算件数(150点/月)	65	67	71	74	75	72	71	67	70	58	77	66	833

【薬剤情報提供料（10点/件）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
718	792	709	709	699	658	651	684	704	761	632	656	8,373

【外来及び入院薬剤業務】

月別処方箋枚数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来（院内）	1,261	1,500	1,335	1,368	1,287	1,240	1,240	1,274	1,391	1,153	1,193	15,663
入院	3,089	3,181	3,791	3,257	3,334	3,359	3,008	3,471	3,395	3,424	3,523	40,385

【診療科別処方箋枚数】

	内科	小児科	外科	脳外科	産婦人科	耳鼻咽喉科	眼科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	精神科	歯科	放射線科	人工透析	麻酔科	リハビリ	合計
外来（院内）	6,924	1,239	598	247	266	199	127	857	1,066	253	47	102	11	3,693	34	0	15,663
外来（院外）	33,920	2,905	3,025	3,318	3,298	1,323	2,334	5,135	7,414	9,503	13	1,400	0	0	418	0	74,006
入院	18,887	843	2,171	2,634	2,427	59	584	9,313	507	2,784	4	77	8	83	4	0	40,385

【院内医薬品集発行】

年1回改訂版を発行しました。

【長期実務実習生の受け入れ】（11週間）

Ⅱ期（5月22日～8月6日）：1名（新潟薬科大学）

Ⅲ期（8月21日～11月5日）：1名（高崎健康福祉社） 合計2名の学生を受け入れました。

【各種委員会活動】

薬事委員会、衛生委員会、医療安全委員会、化学療法委員会、感染対策委員会、抗菌薬適正使用支援チーム、接遇委員会、システム委員会、診療記録委員会、院内教育委員会、褥瘡委員会、NST委員会、適切なコーディネートに関する委員会、広報戦略会議、腎臓病教室検討会議、心臓リハビリテーションセッション会議、ACP(WG)、DCT等に参加し活動しました。

【発表】

開催日	演者	場所	対象	演題
2023.11.16～11.30	鈴木 知信	柏崎総合医療センター（HPで動画配信）	職員	「せん妄対策と睡眠薬」
2023.12.7	片野 寛子	柏崎総合医療センター	職員	「FLS 薬剤部の取り組みと今後の課題」
2023.12.22～2024.1.12	野島 幸樹	柏崎総合医療センター（HPで動画配信）	職員	「抗菌薬適正使用」
院外講演	演者	会場	対象	演題
2023.11.25	片桐 秀樹	まちなかキャンパス長岡	厚生連新任薬剤師	「臨床でのがん患者への対応について」

栄養科

<主な業務内容>

「安全で美味しい食事の提供」を目標に掲げ、給食管理業務と栄養管理業務を2本柱とし、管理栄養士・調理師が協力して業務に努めています。

給食管理では、物価高騰への継続対応に注力しました。献立サイクルの見直しや栄養機能食品の種類・適応を部門内外協力のもと精査を進め、コスト削減に努めました。別途、産科食の充実にも力を入れ、現在試作を繰り返している段階です。

栄養管理では、オーダーリングシステムの更新にともない栄養管理計画のフォローチャートを見直しました。関連業務の負担軽減に向けたタスクシェア・タスクシフトは、引き続き重点項目として検討していく予定です。また、当院は糖尿病専門医を中心とした外来栄養食事指導の件数が非常に多いことが特徴の一つとなっています。個人指導の他、集団指導も活発化しており、糖尿病や腎臓病といった慢性疾患を中心としつつ、多分野において栄養教育を展開することが出来ました。蓄積された臨床データの取りまとめは昨年度の課題となっていました。今後は学会で発表する予定となっています。

一方、管理栄養士複数名の長期欠員が生じ、栄養サポートチームの活動は十分に行えない状況でした。引き続き業務の効率化と円滑化を進めつつ、ニーズに対応していきたいと考えております。

<人員構成・専門資格>

- ・ 管理栄養士 3名

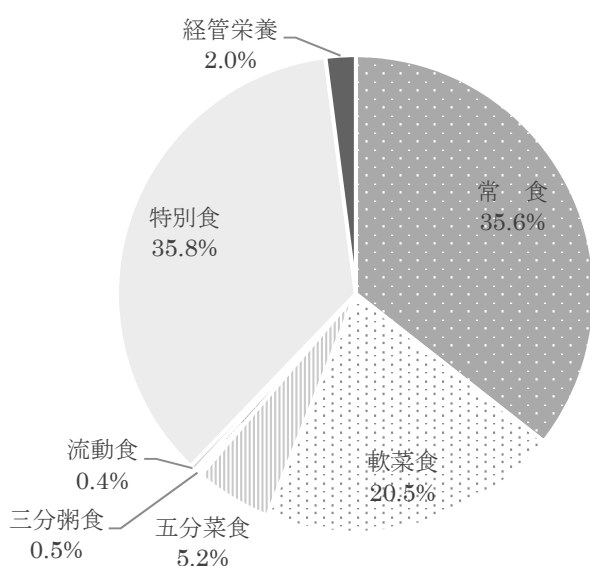
(栄養サポートチーム専任資格、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、他)

- ・ 調理師 11名
- ・ 調理補助 1名

<業務実績>

(1) 給食提供数の内訳

<令和5年度 提供食数 201,209食>

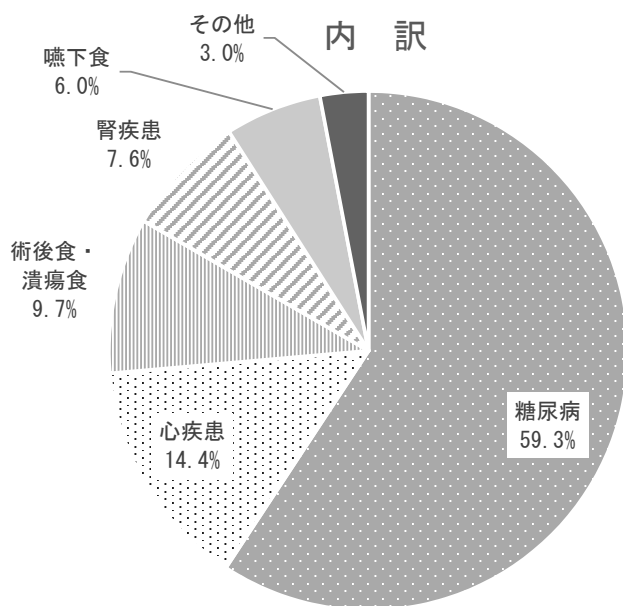


【主な行事食】

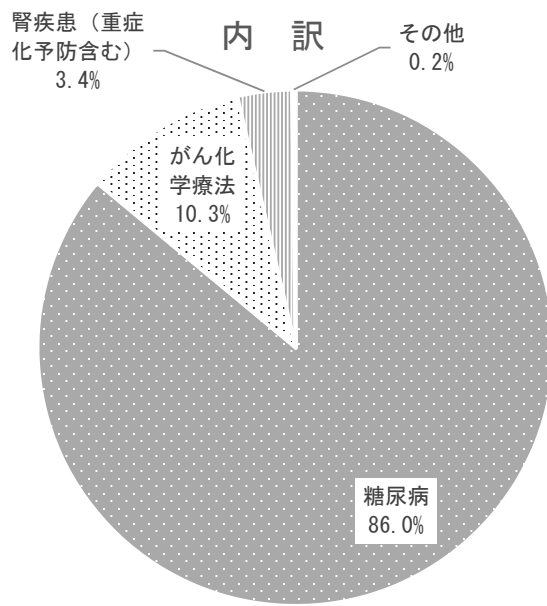
- ・ こどもの日 (5月)
- ・ えんま市 (6月)
- ・ 七夕 (7月)
- ・ 十五夜 (9月)
- ・ 全国厚生連統一メニュー
- ・ クリスマス (12月)
- ・ お正月 (1月)
- ・ ひな祭り (3月)

(2) 栄養指導件数報告

<令和5年度 入院 432件>



<令和5年度 外来 1818件>



<今後の課題>

令和6年度の診療報酬・介護報酬の改定では、栄養部門の業務拡大が大幅に行われます。社会的責任と期待を重く受け止めながら、院内外の連携も視野に入れたシームレスな栄養管理の体制作りを検討していきたいと考えております。

以上

リハビリテーション科

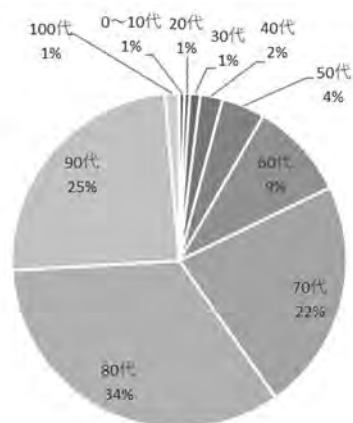
【人員体制】

2023 年度人員においては、技師長の交代、PT2 名の転出、PT3 名の転入、昨年度からの育休者 2 名あり、体制としては PT19 名・OT10 名・ST4 名・事務員 1 名の 34 名でのスタートでした。年度途中で OT1 名の退職者があり、2 か月間は 33 名体制となりましたが、中途採用で OT1 名補充となり、下期以降は 34 名体制を維持できました。

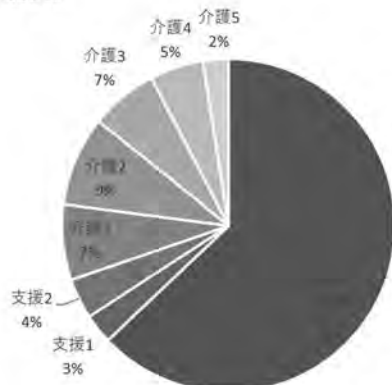
【疾患別リハビリテーション実績】

疾患別リハビリテーションの処方件数は 2,172 件で 2022 年度より 45 件増加、処方された方の 59.7%が 80 歳以上、処方時の要介護被保険者が 37.1%で、疾患別リハビリテーション処方された患者では虚弱高齢者が多い状況でした。疾患別リハビリテーション処方の内、脳血管疾患等リハビリテーションは 7.8%、廃用症候群リハビリテーションは 49.3%、運動器リハビリテーションは 33.8%、心大血管リハビリテーションは 9.0%、呼吸器リハビリテーションは 0.1%、2022 年度と比較すると脳血管疾患等リハビリテーションと運動器リハビリテーションで処方割合が低下し、廃用症候群リハビリテーションと心大血管リハビリテーションで処方割合の増加が認められました。

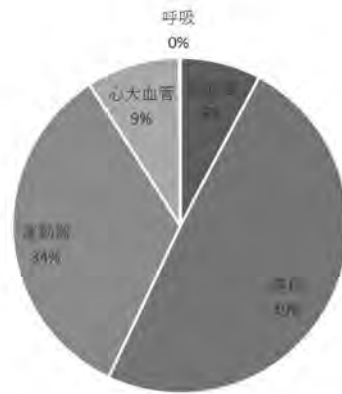
処方割合（年代）



処方割合（介護度）

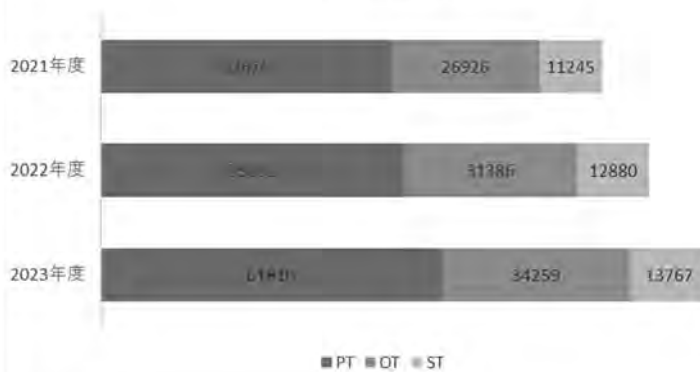


処方割合（疾患）

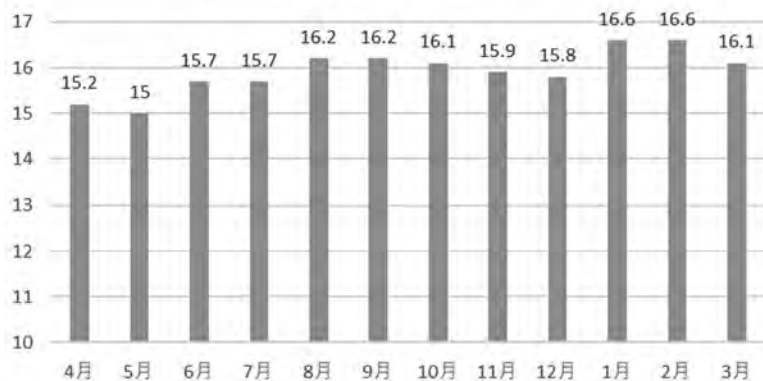


疾患別リハビリテーションの実施単位数はPT61,810単位、OT34,259単位、ST13,767単位で、2022年度と比較すると全体では10,536単位の増加となりました。療法士1人当たりの1日の疾患別リハビリテーション実施単位数は平均で15.9単位、2022年度より2.1単位増加しました。また、患者1人当たり1人の療法士による疾患別リハビリテーション実施単位数は平均1.63単位でした。効率の良いリハビリテーションを実施でき提供単位数の増加に繋がったと思われます。

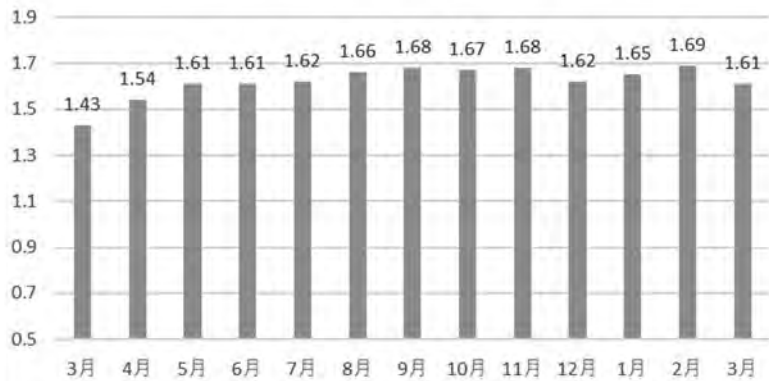
年間単位数



療法士1人当たり1日平均単位数

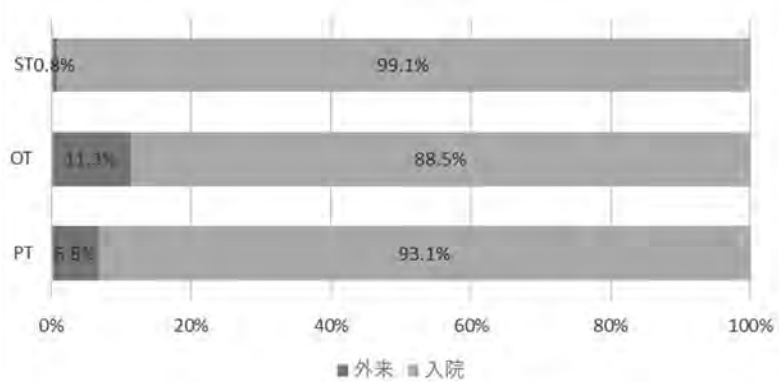


患者1人当たり実施単位数



疾患別リハビリテーションの内、外来患者の割合がPT6.8%、OT11.3%、ST0.8%、OTで外来患者の割合が多い状況でした。また、発症・受傷後30日以内の患者のリハビリテーション実施割合が50.7%でした。

外来割合



急性期リハビリ実施率



【院外 講師派遣実績】

期日	依頼団体	内容	派遣者	
			職	氏名
6月24日	刈羽村社会福祉協議会	【講演】 ボランティア育成講座 フレイル予防	理学療法士	小林諭
10月17日	JAえちご中越ふれあい 地域の茶の間	【講演】 フレイル予防	理学療法士	小林諭
10月19日	刈羽村役場福祉保健課	【講演・測定】 通いの場におけるフレイル予防	理学療法士	小林諭
			理学療法士	村山智幸
10月24日	JAえちご中越ふれあい 地域の茶の間	【講演】 フレイル予防	理学療法士	小林諭
2月15日	刈羽村役場福祉保健課	【講演・測定】 通いの場におけるフレイル予防	理学療法士	小林諭
			理学療法士	村山智幸
3月1日	JAえちご中越柏崎女 性部西山支部	【講演】 フレイル予防	理学療法士	小林諭
3月26日	柏崎市福祉保健部 介護高齢課	【講演】 自立支援研修 自立を促す環境	作業療法士	築井智康
			理学療法士	山本奈津美

【院外 派遣実績】

期日	内容	場所	派遣者	
			職	氏名
6月14日～19日	水球男子日本代表第3次国内合宿 トレーナー派遣	柏崎市	理学療法士	高橋利一
7月27日～8月8日	FISUユニバーシティゲーム水球男子日本代表 トレーナー派遣	中国	理学療法士	高橋利一
8月30日・9月1日	車椅子ラグビーローポインターズ交流大会 運営スタッフ派遣	魚沼市	理学療法士	涌井俊裕
10月12日～15日	水球日本選手権 ウォーターポロクラブ柏崎 トレーナー派遣	神奈川県	理学療法士	高橋利一
1月4日～19日	水球男子日本代表第1次国外遠征 トレーナー派遣	オーストラリア	理学療法士	高橋利一
6月～12月	第1～4回刈羽村地域ケア個別会議 助言者派遣	刈羽村	理学療法士	小林諭

【実習受け入れ実績】

実習期間	学校名	指導者	
		職	氏名
6月 10週間	新潟医療福祉大学	理学療法士	高野雄貴
3月 3週間	晴陵リハビリテーション学院	理学療法士	山本奈津美

臨床工学科

臨床工学科には2023年現在、臨床工学技士9名が所属しており、医療機器に関する安全確保と有効性維持の担い手として、また操作を含めた臨床への技術と知識の提供を通じてチーム医療に貢献すべく活動しております。

「臨床工学技士」は高度化する医療機器の専門家として1987年に制定された、医学と工学の知識を兼ね備える国家資格で、医療機器の点検・操作および関連教育を主たる職掌としております。具体的には医師の指示の下、代謝・循環・呼吸療法に関する生命維持管理装置の着脱・設定・操作を行い、また各機器について使用中を含めた定期的な点検を行っております。

病院に配置が義務付けられている“医療機器安全管理責任者”も当院では当科技士が任命されており、病院医療安全の一角を担っています。

【代表的な業務内容】

<血液浄化療法業務>

血液透析

透析監視装置の操作・保守・点検

透析液作製装置、水処理装置の保守・点検

透析液水質管理（生菌測定・エンドトキシン測定・ETRF交換・残留塩素測定・軟水試験）

特殊血液浄化療法

持続的血液透析濾過（CHDF）

血漿交換療法（PE）

顆粒球除去療法（GCAP）

腹水濾過濃縮再静注法（CART）

β₂ミクログロブリン吸着療法

LDL吸着療法

エンドトキシン吸着療法 等

透析患者のバスキュラーアクセス（VA）管理

VAエコー検査

経皮的血管拡張術（PTA）の補助業務

病棟透析

COVID-19流行時の対応として、専用病棟にて透析治療が行えるように病院設備、透析機器を整備し実際に治療を行っていましたが、専用病棟の終息に伴い現在は運用停止しています。今後は感染患者以外の病棟透析治療にも対応できるよう、運用を検討しています。

＝特殊浄化療法 R5年度実績＝

持続的血液透析濾過（CHDF） 11症例（47回）

腹水濾過濃縮静注法（CART） 7症例（7回）

エンドトキシン吸着療法 2症例（4回、CHDF併用1回）

＝バスキュラーアクセス管理＝

VAエコー検査 259件

経皮的血管拡張術（PTA）の補助業務 99件

<心臓カテーテル関連業務>

毎週 月曜日午後、木曜日午前・午後
心臓カテーテル検査（CAG）、経皮的冠動脈インターベンション（PCI） 等

=心臓カテーテル関連業務 R5 年度実績=

CAG 113 件
PCI 61 件（うち緊急 28 件）
その他 3 件（下大静脈フィルター設置 等）

<ペースメーカー業務>

一時ペーシング
植込み時の立ち会い、退院前チェック
ペースメーカー外来 毎月 第 2・3・4 週金曜日午前
その他臨時チェック、プログラム変更 等

<呼吸療法業務>

人工呼吸器の管理、使用毎に次回使用時に備えて呼吸回路の取り付けと使用后点検
医師の指示による動作条件の設定・操作。不具合時の対応

<手術室業務>

麻酔器、生体情報モニターの日常点検
電気メスの定期点検
内視鏡手術装置の日常点検および手術立会い、トラブル対応

<医療機器管理業務>

院内では多種多様な医療機器を用いて治療を行っており、各機器についてそれぞれ使用時に備え常に点検・整備を行っております。

現在取り扱っている医療機器の種類と台数

- 人工呼吸器 23 台
 - 成人用人工呼吸器 12 台
 - 新生児・小児用人工呼吸器 2 台
 - 搬送用人工呼吸器 2 台
 - マスク換気対応人工呼吸器 7 台
- 保育器 9 台
 - 閉鎖式保育器 6 台
 - 開放式保育器 3 台
 - 移動式保育器 1 台
- 麻酔器 6 台
- 除細動器 4 台
- 自動体外式除細動器（AED）10 台
- 大動脈バルーンポンピング 1 台

- ベッドサイドモニター 64 台
- 送信機 73 台
- 透析関連装置
 - 透析監視装置 50 台
 - 個人用透析監視装置 3 台
 - RO 水精製装置 1 台
 - 透析液 A 溶解装置 2 台
 - 透析液 B 溶解装置 2 台
 - 多人数用透析液供給装置 2 台
 - 個人用 RO 装置 1 台
- 持続的血液浄化装置 1 台
- 輸液ポンプ 69 台
- シリンジポンプ 75 台
- 経腸ポンプ 1 台

<医療機器取り扱い研修会 院内講師>

透析、輸液・シリンジポンプ、呼吸器、除細動器など院内研修会の講師を務めています。

新規導入時は必ず実施し、既存の医療機器についても安全教育や病棟からの要請により随時行っており、また毎年定期的に行われている新人看護師研修の講師も務めています。

文責：主任臨床工学技士 小林 雄一

病歴室

現在病歴室は、診療情報管理士2名、事務員1名で業務を行っています。

◇主な業務内容◇

1. 入院診療録（入院カルテ）の管理

病歴室に集められた診療録を、整備・点検し、決められた編綴順にそろえて製本しています。診療録に必要な入院総括（退院サマリ）や手術記録が作成されていないときは、医師に作成の依頼をします。その他、各種伝票で不足のものがある場合は、各部署から取り寄せ、製本しています。診療録は、病歴システムによってアライバイ管理し、必要に応じて貸し出しを行います。

2. 入院診療情報の管理

入院総括とカルテ内の診療情報（病名・処置・検査・手術等）を ICD-10、ICD-9-CM、手術コード（医科点数表の区分番号）に基づいてコード化（コーディング）し、病歴システムへ登録を行います。

これらを使用し、細かく決められたコーディングルールに従って、入院患者ひとりひとりの診療情報をコーディングしています。

※ICD-10……WHO が設定した疾病に関する国際統計分類で、病名をアルファベットと数字4桁で表したもの。

※ICD-9-CM…アメリカで使用されている医療行為分類を日本病院会が和訳し、処置や手術を数字4桁で表したもの。

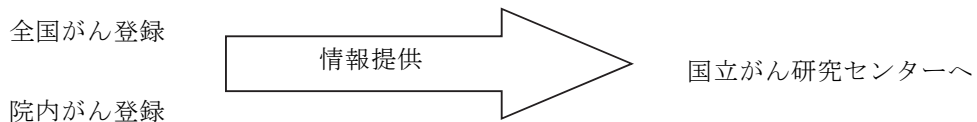
※手術コード…診療報酬点数表の診療行為のうち手術の領域にふられたもので、手術行為をアルファベット K と数字で表したもの。

3. 医療統計の作成

コーディングし、病歴システムに登録した患者情報を集計し、統計の作成を行います。それに伴い、研究支援および経営分析支援としての業務も行っています。

4. がん登録の実施

がんと診断されたすべての患者（入院・外来）について、診断・治療・予後に関する情報を集め、整理・保管し、集計しています。



また、登録に関するルールの一斉化や今後の動向についての情報共有などを目的とした『実務者研修』や『がん登録部会』への参加も積極的に行っています。

2016年症例からがん登録が法制化され、**全国がん登録**になりました。

5. 月次処理

- ・未サマリの診療録のリスト出力と主治医への催促
- ・未返却診療録のリスト出力と各部署への催促
- ・エラー情報のリスト出力と修正
- ・入力状況集計表の出力

6. 年度処理

- ・病院業績集作成のための各種統計表の出力

7. その他

- ・各種調査、統計依頼に対する報告
- ・診療録管理委員会
- ・適切なコーディングに関する委員会（D P C委員会）

健診センター

健診センターは現在、保健師1名、看護師2名、事務員6名で業務を行っています。

主な業務内容として、人間ドック及び事業所の定期健診、特殊健診、行政より依頼の風疹抗体検査及び予防接種、特定健診やがん検診、県より依頼の塵肺健診等の各種健診業務を実施しています。

また、病院スタッフの健康管理業務として、年に2回の定期健診やストレスチェック等を行っています。

その他冬季期間中は、院内や院外施設にてインフルエンザ予防接種を行っています。

保健予防活動実績 (人)

	特定健診	保健指導	特殊健診	事業所健診	人間ドック
令和3年	130	20	50	210	1,589
令和4年	145	19	51	166	1,620
令和5年	150	20	51	145	1,684

特殊健診：塵肺健診等

JA 柏崎地区等、農団健保の保健予防活動実績 (人)

	巡回健診	ミニドック	農団ドック	婦・家(ド)	組合員(ド)	予防接種
令和3年	100	17	247	51	198	275
令和4年	88	16	237	64	188	238
令和5年	75	15	242	56	195	190

婦…婦人ドックのこと。農団職員で35～39歳の女性が対象。

家…家族ドックのこと。農団職員の扶養家族が対象。

予防接種…JA柏崎地区3施設（柏崎地区センター・東部田尻支店・小国支店）を回ってのインフルエンザ接種数。

健診センターでは人間ドック、健康診断を受診された方で精密検査が必要な方へ精密検査依頼書兼結果報告書、診察依頼兼結果報告書を人間ドックや健康診断の結果と一緒に送りし、その後の受診干渉等行っています。

精検受診率

	肺がん	胃がん	大腸がん	前立腺がん	子宮がん	乳がん
令和3年	78.3%	85.4%	65.6%	57.1%	85.5%	97.8%
令和4年	85.2%	77.1%	64.4%	76.9%	80.4%	90.6%
令和5年	91.2%	75.0%	65.9%	88.0%	87.5%	96.8%

令和5年度分は令和6年4月30日までの集計数

医療クラーク室



クラーク委員会委員長丸山医師・小林医事課長・クラーク

医療クラークの正式名称は「医師事務作業補助者」です。当院では「クラーク」と呼ばれています。

2010年、当院に医療クラーク室が設置され初期スタッフ4名でスタートし、診断書等の作成補助から着手しました。その後、徐々に業務の拡大・タスクシフティング・増員を行い、現在25名で、外来診察サポート・病棟サポート・全国規模の症例データベース登録・書類作成代行、一部の診療科では医師の隣で診察内容を代行入力する業務等と、幅広く活動しています。

2022年度に参加したF L Sチーム（骨折リエゾンサービス）では、第11回日本脆弱性骨折ネットワークにクラークの演題が採択され発表を行い、自分たちが行っている業務を発信するなどスキルアップに努めています。

[業務内容]

◇外来診察サポート

血液内科	腎臓内科	内分泌糖尿病内科	消化器内科
呼吸器内科	循環器内科	神経内科	内科新患
小児科	外科	脳神経外科	産婦人科
耳鼻咽喉科	眼科	整形外科	泌尿器科
睡眠外来	人工透析室	内視鏡室	

◇病棟サポート

外科病棟	整形外科病棟
------	--------

◇症例データベース

腎臓内科	透析医学会統計調査	透析患者データ	アガルンダーゼベータ 一般仕様成績調査
消化器内科	内視鏡統計	エコーアングリオ統計	P T C D系処置件数
	E S D集計	E M R集計	病理一覧
外科	N C D	手術台帳	
脳神経外科	J N D		
整形外科	J O A N R	F F N	F L S
	T K A調査	要介護度一覧	手術簿
泌尿器科	N C D		

◇書類作成

上記外来診察サポート診療科に加え、皮膚科・歯科の書類作成を行っています。

[クラーク研修、学術集会参加]

開催形式	日付	研修名 主催	テーマ (抜粋)
外部ZOOM	09月23日	第9回新潟市医療クラーク勉強会	消化管出血のいろは 腎臓病診療の実際について
クラーク内	10月02日	クラークミーティング	受援力について
院内	11月15日	院内集団会	外科 演題発表 外科クラークの業務
クラーク内	12月04日	クラークミーティング	略語について
クラーク内	01月15日	クラークミーティング	循環器内科疾患について 心カテ
外部ZOOM	01月20日	第9回新潟市医療クラーク勉強会	眼科でよく出会う疾患 ヒヤリハットについて
クラーク内	02月05日	クラークミーティング	小児科疾患について 川崎病
東京都 東京大学内 伊藤謝恩ホール	03月01日 ～02日	第11回日本脆弱性骨折ネットワーク 学術集会	整形外科 演題発表 脆弱性骨折に対する当院の取り組みについて成果と今後の課題 医師事務作業補助者の関りから

[書類作成実績] 2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)

※その他書類には以下6項目以外の書類、各診療科独自の書類、症例登録の書類、外来カルテ要約を含みます。

	生命保険 証明書	主治医 意見書	自賠責 診断書	傷病手当金 請求書	医療要否 意見書	退院サマリ	その他 書類 ※	科別 計
内科/血液内科	22	6	0	1	1	0	29	59
内科/腎臓内科	67	58	0	12	12	66	555	770
内科/ 内分泌・糖尿病内科	16	72	1	17	117	3	301	527
内科/消化器内科	223	33	0	48	16	32	146	498
内科/呼吸器内科	30	45	0	7	13	22	165	282
内科/循環器内科	42	62	1	9	30	0	853	997
内科/総合診療	1	0	0	2	0	0	42	45
神経内科	0	24	0	0	6	0	39	69
小児科	0	0	0	0	0	0	6,056	6,056
外科	201	23	5	45	17	492	6,651	7,434
脳神経外科	79	114	24	33	23	0	345	618
産婦人科	109	1	0	34	8	282	341	775
耳鼻咽喉科	1	0	0	8	1	0	543	553
眼科	70	4	7	16	8	383	2,505	2,993
整形外科	312	244	277	85	32	789	7,022	8,761
皮膚科	0	0	0	0	0	0	24	24
泌尿器科	136	34	0	9	44	0	381	604
睡眠外来	0	0	0	0	0	12	75	87
歯科	5	0	0	1	0	0	0	6
書類別 計	1,314	720	315	327	328	2,081	26,073	31,158

[年度別書類実績]

※内科には、血液内科・腎臓内科・内分泌、糖尿病内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科、総合診療を含みます。

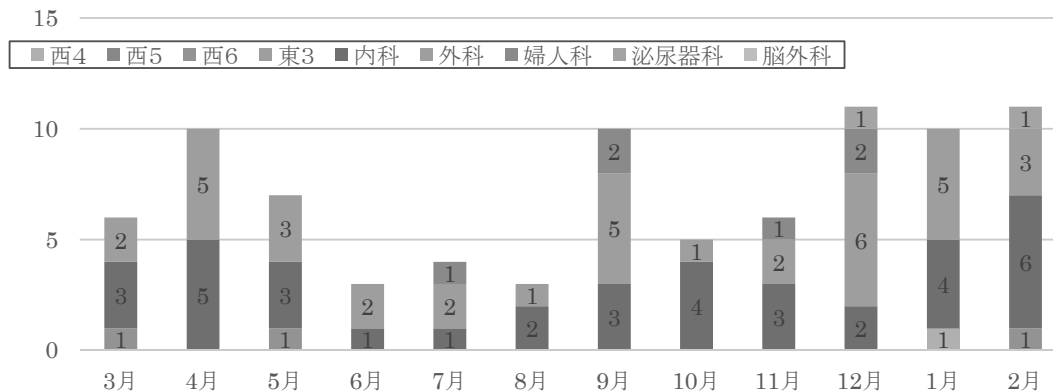
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	科別 計
内科 ※	1,385	1,353	1,296	1,956	2,421	5,088	3,377	2,737	2,422	3,247	25,282
小児科	60	44	40	30	57	169	254	12	60	6,056	6,782
外科	347	350	488	819	985	983	906	1,970	2,267	7,434	16,549
脳神経外科	427	410	437	426	337	412	322	593	603	618	4,585
産婦人科	126	144	154	213	204	176	201	403	928	775	3,324
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	5	88	553	646
眼科	186	161	166	170	165	202	1,306	2,769	3,087	2,993	11,205
整形外科	1,330	1,404	1,559	3,927	5,286	6,160	6,974	6,227	7,866	8,761	49,494
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	17	24	41
泌尿器科	228	275	328	325	287	308	366	727	913	604	4,361
睡眠外来	0	0	0	0	0	0	22	113	114	87	336
歯科	5	1	6	2	5	2	5	7	3	6	42
書類別 計	4,094	4,142	4,474	7,868	9,747	13,500	13,733	15,563	18,368	31,158	122,647



化学療法センター

化学療法センター 2023 年度稼働状況

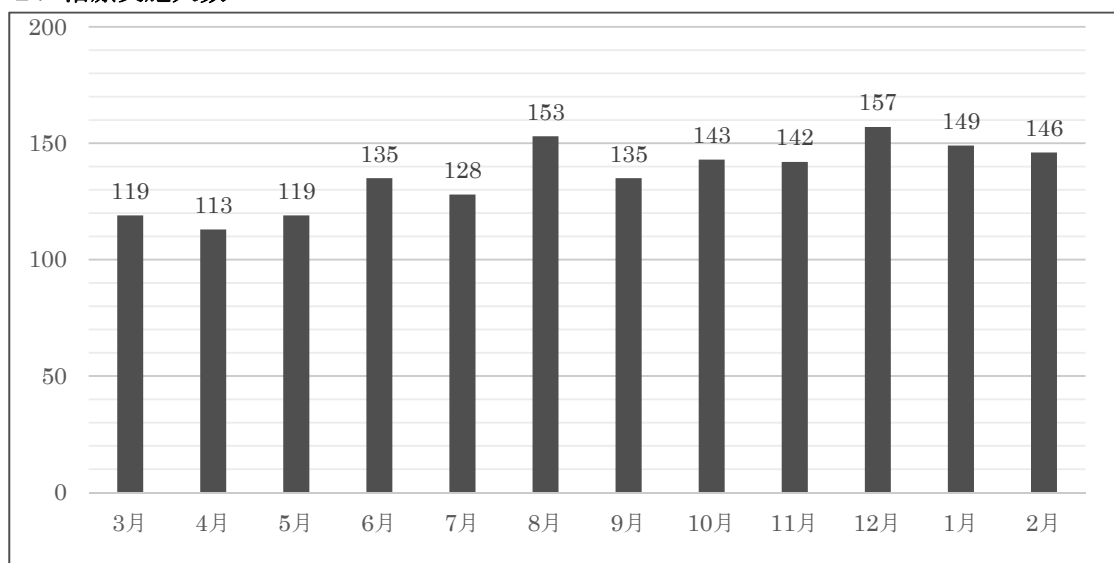
1. 2023 年度オリエンテーション件数



実施月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
西4											1		1
西5													
西6	1		1									1	3
東3													
内科	3	5	3	1	1	2	3	4	3	2	4	6	37
外科	2	5	3	2	2	1	5	1	2	6	5	3	37
婦人科					1		2		1	2			6
泌尿器科										1		1	2
脳外科													
	6	10	7	3	4	3	10	5	6	11	10	11	86

新規で治療を開始する方、外来治療へ移行する方を対象に患者および家族に対し、
化学療法センターでオリエンテーションを実施しています。

2. 治療実施人数



地域連携支援部

地域連携支援部は保健・医療・高齢者福祉事業の積極的な推進を目指し、院内外の関係機関との連携強化に努めています。「患者サポート室」「訪問看護ステーション柏崎」「柏崎総合医療センター居宅介護支援事業所」及び柏崎市からの委託による「柏崎市中地域包括支援センター」を加え4部門で構成され、各専門職が多機関・多職種との連携を図っています。また、令和4年4月より入院支援センターが「患者サポート室」の業務の一部となり、幅広く療養者への支援を担っています。

【主な業務】

1. 地域連携活動 : 関係機関との顔の見える関係作り、連携の構築・維持
2. 近隣開業医やケアマネ、施設職員との勉強会及び意見交換会の開催
3. 地域連携に関するデータ分析：紹介・逆紹介、地域連携に関するデータの蓄積
4. 院内受入体制の整備：患者受け入れに関する協力依頼・紹介、逆紹介の管理
5. 広報活動の充実 : 病診だよりの発行
6. 定期的な院内連携会議の実施：地域連携支援部定例会議（年4回）
7. 地域に出て行く活動：JAや行政を含めた地域連携の構築
8. その他、地域連携強化に関する業務

コロナ禍を経て、これまで書面またはオンライン開催を余儀なくされていた情報交換会や、各種連携会議、学習会等が対面でできる機会が増えてきました。各担当者の方々と顔を合わせた意見交換に改めて有意義さを感じ、今後への取り組みにも力が入りました。超高齢社会を背景に、意思決定支援・医療同意・身寄りなし問題など大きな課題に対し、引き続き多機関多職種で連携を強化して取り組んでいきます。

メディコラ学習会では、第1回目はハイブリット方式、第2回目は対面で開催しました。リピーターをはじめ、地域の多機関多職種の皆さまよりご参加いただきました。連携・情報発信を通して地域に貢献できる学習会として、継続して企画してまいります。

広報誌「つながる+（プラス）」には、より強固なつながり（連携）を築いていきたいという思いが込められています。院内のトピックスを掲載し、地域に発信してまいります。院外の関係機関をはじめとする地域の皆さまに幅広くお目通しいただきたいと考えています。

地域の皆様の声に耳を傾け、地域の総合病院としての役割を発揮できるよう、更なる連携の構築・強化を目指してまいります。



【 介護・福祉施設との情報交換会 】

- 令和 5 年 12 月 13 日 養護老人ホームとの情報交換会
令和 6 年 1 月 17 日 救護施設との情報交換会
令和 6 年 2 月 9 日 有料老人ホームとの情報交換会
(看護部入退院支援委員会協同)
令和 6 年 2 月 28 日 特別養護老人ホームとの情報交換会

【 メディコラ学習会 】

- ・令和 5 年 9 月 20 日 (水) 17:30~19:00
テーマ 「柏崎総合医療センター 糖尿病外来の取り組みを知ろう！」
講師 柏崎総合医療センター
代謝内分泌内科 佐藤駿匡医師
糖尿病看護認定特定看護師 小林美和子看護師
内科外来 石丸善行看護師
参加者 130 名 (院内職員 28 名を含む) 38 事業者



- ・令和 6 年 3 月 12 日 (火) 17:30~19:00
テーマ 「身寄りなしの方への支援を考えよう
～柏崎総合医療センターの身寄りなし患者の実態から～」
講師 柏崎市福祉保健部 介護高齢課 寺尾怜史保健師
柏崎総合医療センター 大倉利江子医療ソーシャルワーカー
参加者 86 名 (院内職員 33 名を含む) 39 事業者



【訪問看護ステーション柏崎】

訪問看護は病気や障害を持った人が住み慣れた地域（居宅）で、その人らしい療養生活を実現できるよう、多職種と連携を図って、安全・安心な看護の提供が求められています。国が推進している地域包括ケアシステムの構築において、訪問看護は在宅医療の中核を担うことを期待されています。

病院での治療を終え、住み慣れた地域（居宅）で療養生活を希望する等のニーズに応じた医療を提供するために、当訪問看護では、関係機関との連携を強化し、切れ目のない質の高いケアの提供に努めています。感染症対策も継続しながら、訪問看護サービスが安定的に供給できる体制を整備しています。冬季の地震では、療養者さんの安否確認を行い、通常の訪問業務を務めることができました。

訪問看護ステーションは看護師5名体制で業務を行い、開設以来 24 時間 365 日対応体制を維持しています。その中で、療養者さんの病院では見せないような笑顔を見せてくれるのは、在宅看護ならではのやりがいのひとつになっています。専門性を活かし、実際の在宅療養において医療と介護を結ぶ役割を果たしていけるようこれからも努めていきます。

➤ 令和 5（2023）年度訪問看護実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均人数
利用者実人数	68	67	65	66	63	65	63	63	66	61	61	67	64.5
介護保険対象者	56	58	58	58	58	58	57	57	59	55	55	62	57.6
医療保険対象者	12	9	7	8	5	7	6	6	7	6	6	5	7
利用者延べ人数	253	251	270	264	285	270	269	261	282	253	250	277	265.4

➤ 訪問看護加算届

- ・ 介護保険）緊急時訪問看護加算
特別管理加算
看護体制強化加
サービス提供体制強化加算
ターミナルケア加算
- ・ 医療保険）24 時間対応体制加算
特別管理加算
ターミナルケア療養費



➤ 実習受け入れ

- ・ (独) 国立病院機構新潟病院付属看護学校
- ・ 新潟県立看護大学
- ・ 新潟大学医学部
- ・ 東京医科大学医学部
- ・ 柏崎市消防署救命救急士

【柏崎総合医療センター居宅介護支援事業所】

令和5年度後期より、ケアマネジャー3名体制で柏崎地域のご利用者のケアプラン作成を担ってきました。柏崎市内総人口が減少傾向にある中、年々高齢化が進み、高齢者の単独世帯や高齢夫婦世帯数がともに増加が続いています。高齢者のいる世帯の割合は、50%を超え全国と比較して10ポイント高い状況です。

地域社会や家族関係も多様化している中、ご利用者が住み慣れた地域で安心して、いつまでも健やかな生活を続けられるよう、医療・介護・福祉などすべての面で連携や協力が必要となる事が考えられます。病院併設の居宅介護支援事業所という特色を最大限に活かし、関連職種、機関との連携や情報共有を図り、高齢者自身が自立支援を行えるように働きかけ、更なる質の高いケアプランの作成を目指し努めていきます。

◆令和5年度 居宅介護支援事業所実績

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
要支援1	6	7	6	6	6	6	5	3	4	5	5	5	64	5.3
要支援2	18	18	19	17	24	31	31	31	31	31	30	5	310	25.8
要介護1	21	19	19	20	21	23	23	27	29	28	31	29	290	24.2
要介護2	26	25	25	25	24	23	25	26	26	22	18	19	284	23.7
要介護3	9	10	9	8	7	8	9	11	11	12	13	15	122	10.2
要介護4	4	3	5	5	5	5	5	4	5	5	5	5	56	4.7
要介護5	2	2	2	3	4	3	3	3	3	2	2	2	31	2.6
利用者実績数	86	84	85	84	91	99	101	105	109	105	104	104	1157	96.4



【患者サポート室（医療相談室）】

患者サポート室の医療相談部門は医療ソーシャルワーカーと入退院支援看護師で構成しています。医療ソーシャルワーカー（社会福祉士、以下MSW）は前年度に比べ一名減の5名体制で業務を行いました。

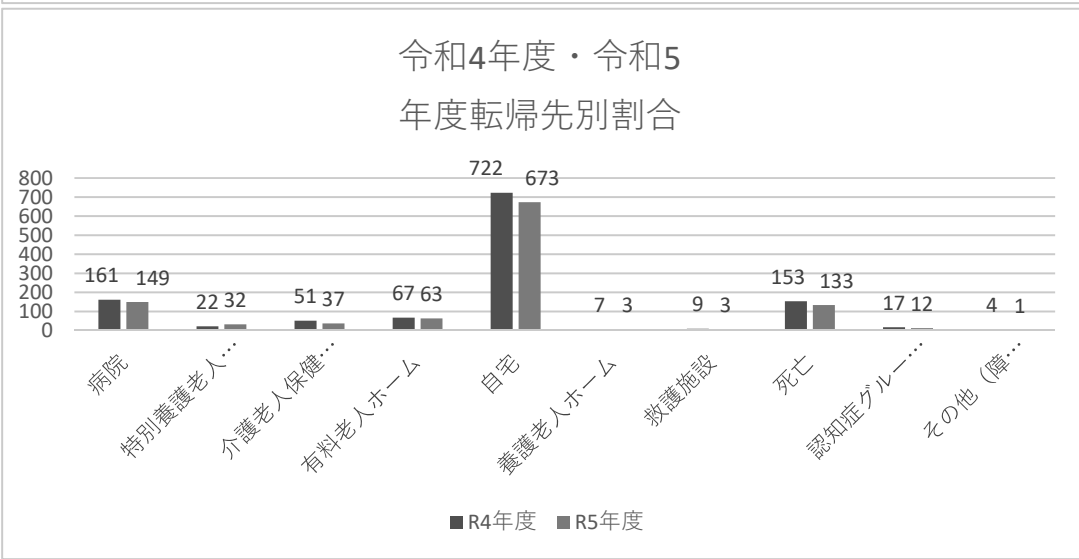
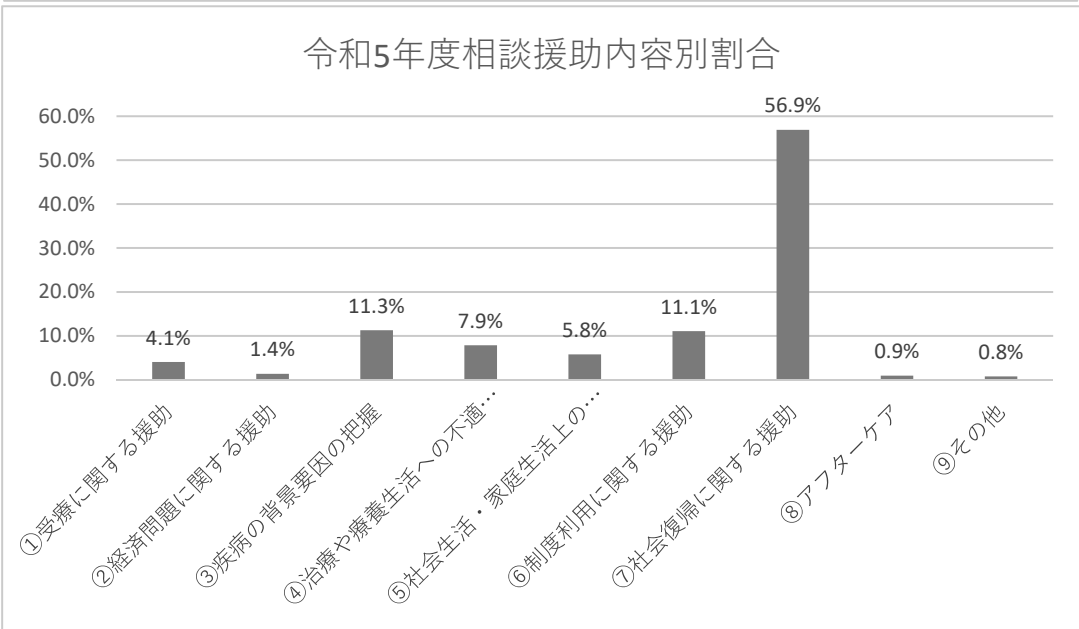
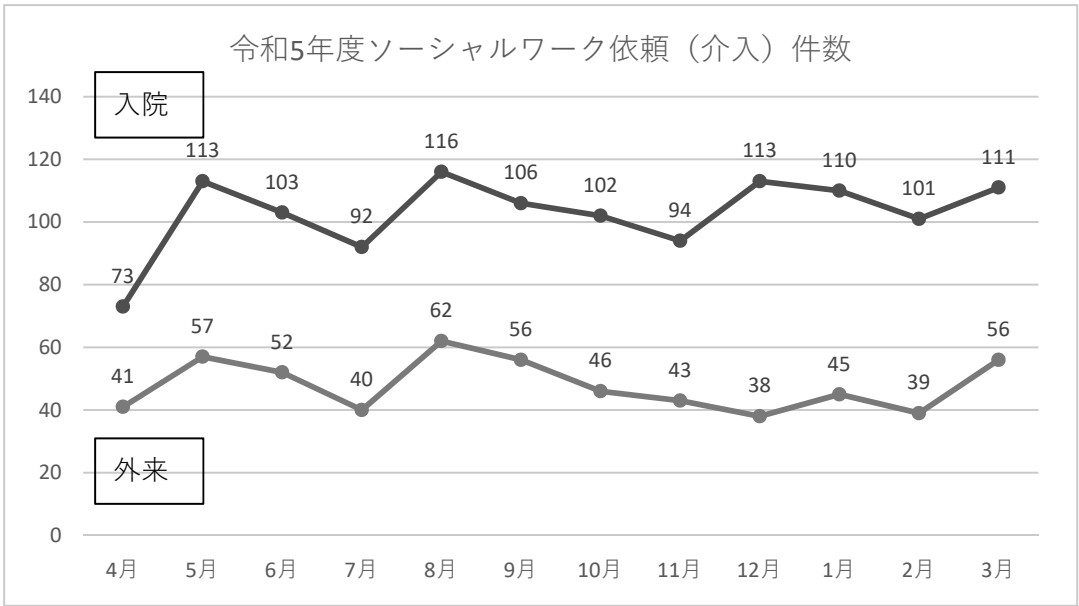
入院と外来患者合わせてソーシャルワーク依頼・相談は昨年度1,700件でしたが、令和5年度は1,800件近く対応しました。MSW1名につき、ひと月の中で対応する件数は前年度に比べ50件程度多い実績となりました。

外来の相談数は年々増えており、約600件（前年度比プラス150件）でした。この外来相談数は、当院外来部門や透析部門からの依頼・相談と地域の関係機関（ケアマネジャー・地域包括支援センター・行政機関・開業医の先生や他院のMSW等）からの相談・問い合わせを含んでいます。院内多部署、関係機関の相談窓口・連携窓口として認知され、その役割を担っています。入院患者のソーシャルワーク依頼・相談は約1,200件で、ケースのほとんどは「退院に関する援助」となっています。院内外多職種・多機関との連絡調整はもとより、院内多職種での退院支援カンファレンスや、地域包括支援センター・ケアマネジャーとの退院前カンファレンスなど、数多くのカンファレンスに参加・場の設定をし連携を深めました。細やかな連絡調整、対面でのカンファレンスなど質の高い支援に繋がっています。

また今年度はソーシャルワーク科として、1年を通じて身寄りなし研究を行いました。2020年～2022年の身寄りなし患者の実態把握を行い、身寄りなし患者・親族と疎遠になっている患者に多くの課題が潜在していることがわかりました。施設との意見交換会やメディコラ学習会で発表し、本テーマについて多くの方々と意見交換することができました。

これからも相談や支援の積み重ねや科としての取り組みを通じ、この地域連携やネットワークの構築・強化をし、病院や地域に貢献していきたいと思えます。





【病診連携室】

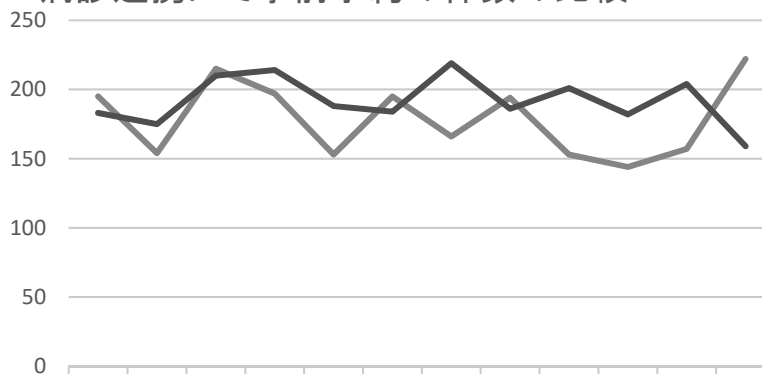
患者サポート室：病診連携は、事務員 2 名体制で業務を担っています。

かかりつけ医の先生との連携を密にし、患者さんが安心して柏崎総合医療センターでの医療を受けていただけるよう、連絡窓口として円滑な業務の遂行に努めています。初診予約（紹介のみ）・診療における手続きの医事課への依頼・高額医療機器共同利用（CT・MRI など）検査依頼の中継ぎ業務・当院受診の患者さんの受診報告及び入院報告・他医療機関への受診、転院、セカンドオピニオン・PET-CT 検査の際の予約手続きなどの業務を行っております。

また、年 3 回「つながる+（プラス）」を発行し、関係医療機関へもお送りさせていただいています。

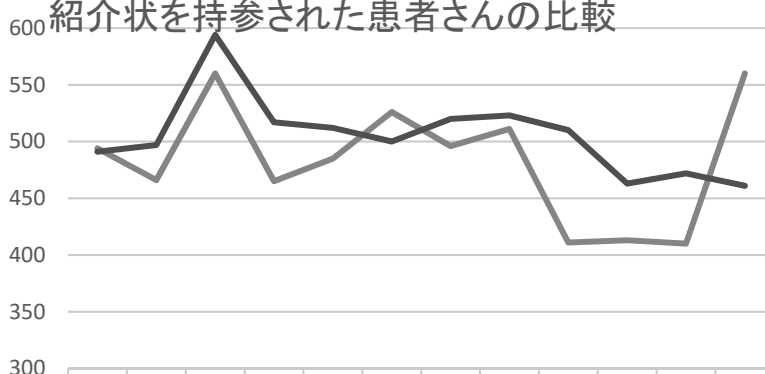
病診連携とは、文字通り「病院」と「地域の医療機関」が連携することです。患者さん及び各関係機関から信頼されるよう、そして病診連携のさらなる促進にスタッフ一同努めていきます。

病診連携にて事前予約の件数の比較



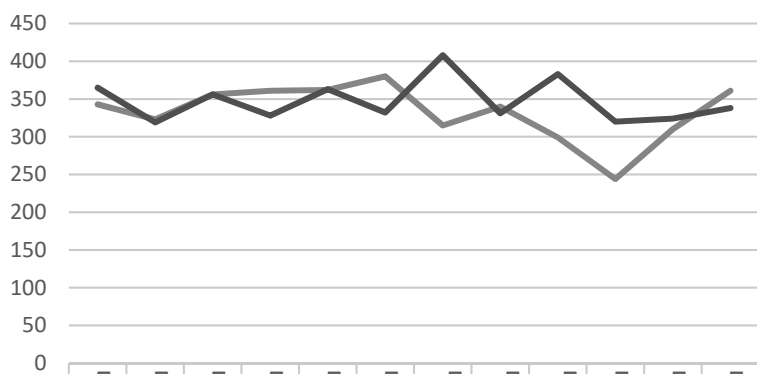
R4年度	195	154	215	197	153	195	166	194	153	144	157	222
R5年度	183	175	210	214	188	184	219	186	201	182	204	159

紹介状を持参された患者さんの比較



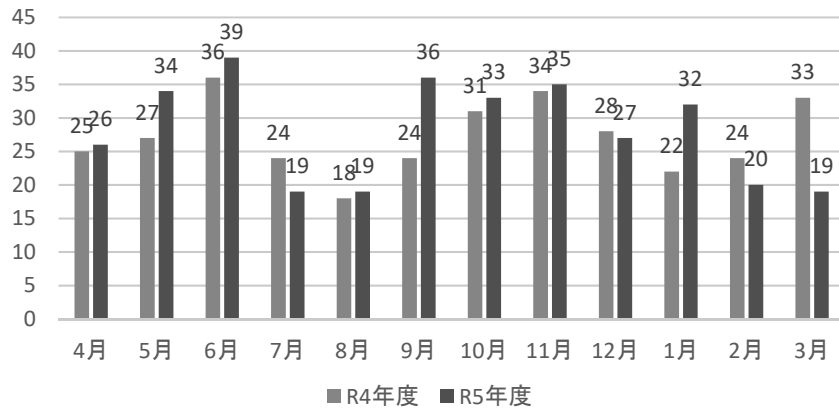
R4年度	494	466	560	465	485	526	496	511	411	413	410	560
R5年度	491	497	594	517	512	500	520	523	510	463	472	461

逆紹介患者の比較

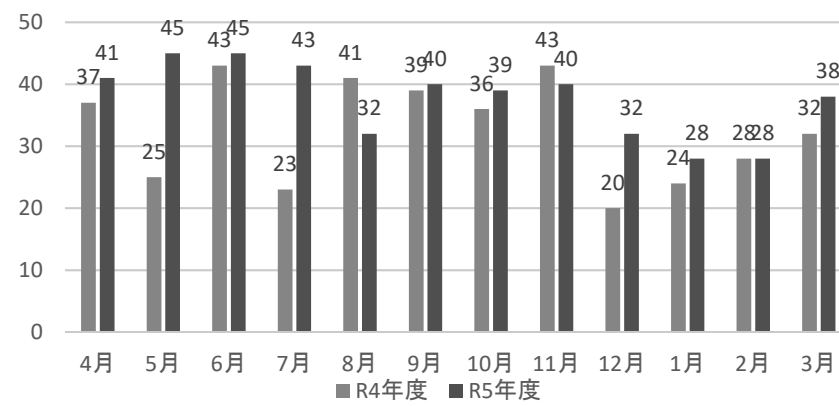


R4年度	343	323	356	361	362	380	315	340	299	244	310	361
R5年度	365	319	356	328	363	332	408	331	383	320	324	338

CT 共同利用件数



MRI 共同利用件数

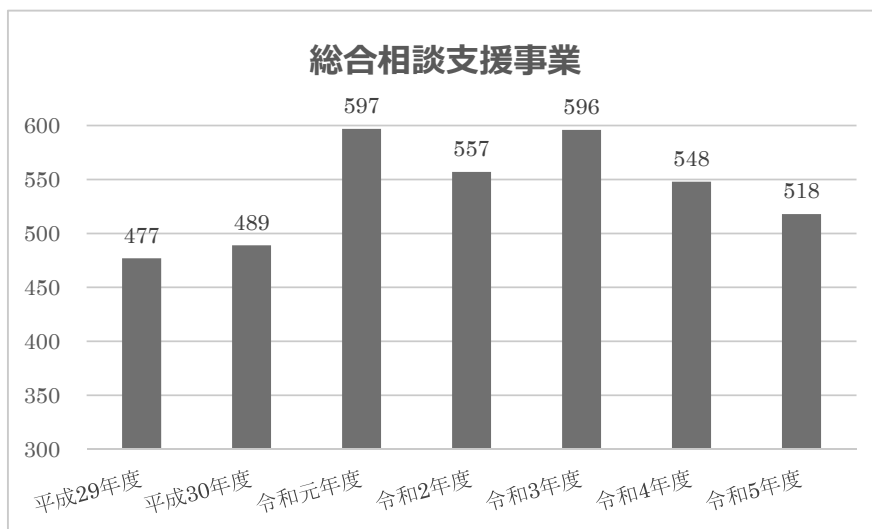
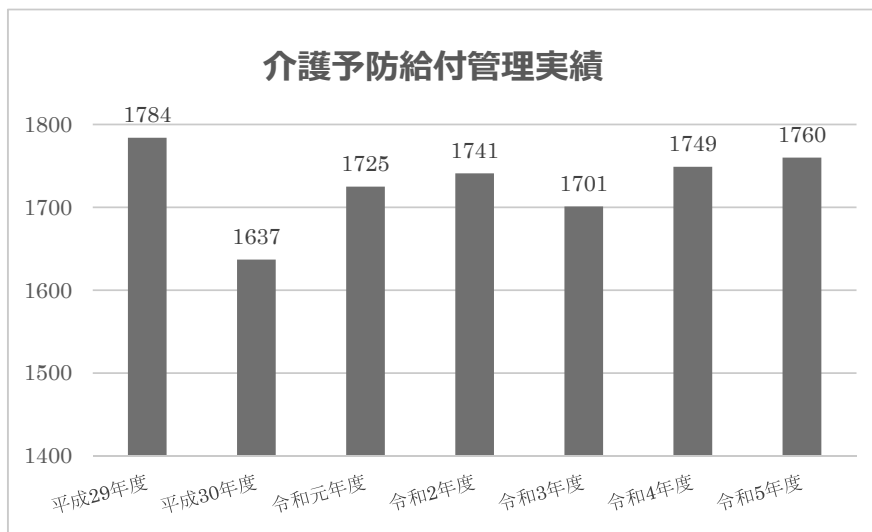


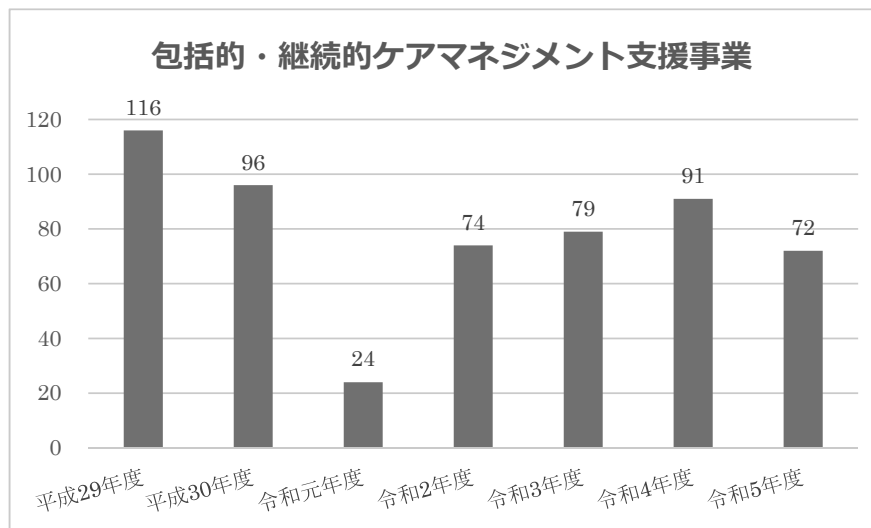
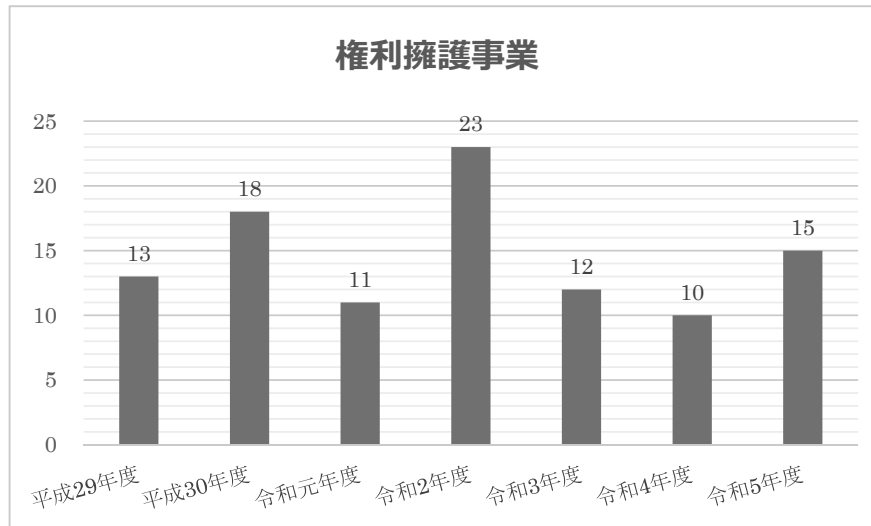
【柏崎市中地域包括支援センター】

地域包括支援センターは、平成18年の介護保険改正に伴い「地域包括ケア」の考え方を基本方針として、現在、市内7か所に設置されており、それぞれ柏崎市より各法人へ業務委託されています。

柏崎総合医療センターへ委託された「中地域包括支援センター」は、市内松美に事務所を構え、比角・田尻・北鯖石地区を担当しています。職員は、主任介護支援専門員・保健師（看護師）・社会福祉士の三職種と、介護予防プランナー、事務員が配置され、現在は6名体制で支援を行っています。

①総合相談支援 ②権利擁護 ③包括的・継続的ケアマネジメント ④介護予防ケアマネジメントといった4つの委託事業及び、法人として運営している「介護予防支援事業所」として担当地域内の要支援認定を受けた方々に対して、介護予防サービスのマネジメントも行っています。





<まとめ>

中地域包括支援センターが担当している比角・田尻・北鯖石の3地区を合わせた高齢者人口が6,000人を超える状況となっています。地域での活動を多く持ち、困りごとを抱えている高齢者への支援を通し、皆様と一緒にお互いが「支え合える関係」を根付かせ、花を咲かすことが出来るような活動を行いたいと考えております。

2023年度 診療科別・月別・性別 統計(入院)

診療科	対象	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数	死亡	剖検数	
呼吸器	男	24	25	25	24	21	22	24	29	26	25	19	37	303	37	0	
	女	13	19	14	12	12	16	14	8	13	13	10	10	10	164	16	0
	総計	37	44	39	36	43	40	38	37	39	39	29	47	47	467	53	0
循環器	男	10	14	33	29	25	23	26	19	31	22	35	39	306	29	0	
	女	11	16	22	14	26	19	15	11	33	20	17	20	224	24	0	
	総計	21	30	55	43	51	42	41	30	64	42	52	59	530	53	0	
消化器	男	39	47	38	31	38	40	41	35	44	50	39	45	487	53	0	
	女	29	24	29	32	31	41	29	29	26	24	27	28	349	49	0	
	総計	68	71	67	63	69	81	70	64	70	74	66	73	836	102	0	
腎臓	男	11	17	13	26	20	12	20	9	23	20	18	19	208	30	0	
	女	5	7	14	11	10	6	12	6	7	11	10	14	113	16	0	
	総計	16	24	27	37	30	18	32	15	13	31	28	33	321	46	0	
糖尿病	男	9	14	8	22	14	11	8	10	17	6	11	18	148	8	0	
	女	6	10	17	10	17	15	18	14	14	16	21	13	174	14	0	
	総計	15	24	25	32	31	26	26	24	33	27	24	35	322	22	0	
血液	男	5	4	2	6	2	7	5	6	3	5	5	3	53	6	0	
	女	3	1	2	1	2	3	2	0	0	1	3	1	19	4	0	
	総計	8	6	3	7	4	10	7	6	3	6	8	4	72	10	0	
総診	男	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	1	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	
	総計	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	5	1	0	
小児科	男	18	22	18	23	16	9	22	14	19	15	11	18	205	0	0	
	女	16	20	24	15	12	10	22	7	13	11	9	14	173	0	0	
	総計	34	42	42	38	28	19	44	21	32	26	20	32	378	0	0	
外科	男	24	24	27	24	25	25	25	29	31	21	22	28	305	10	0	
	女	18	25	14	18	15	21	20	19	16	16	11	19	212	3	0	
	総計	42	49	41	42	40	46	45	48	47	37	33	47	517	13	0	
脳外科	男	8	10	10	5	11	5	6	6	6	11	6	3	90	6	0	
	女	11	7	3	7	8	5	5	2	9	6	5	1	69	9	0	
	総計	19	17	13	12	19	10	11	8	20	12	8	10	159	15	0	
産婦人科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	50	34	45	37	39	31	40	47	33	39	34	28	457	4	0	
	総計	50	34	45	37	39	31	40	47	33	39	34	28	457	4	0	
眼科	男	19	10	14	21	18	20	16	14	15	8	15	13	183	0	0	
	女	15	19	22	15	11	18	16	20	14	20	13	27	208	0	0	
	総計	34	29	36	36	29	38	32	34	29	28	28	40	391	0	0	
整形外科	男	31	23	23	28	21	19	20	25	27	34	26	30	307	0	0	
	女	26	36	38	40	42	39	37	43	54	30	38	46	469	2	0	
	総計	57	59	61	68	63	58	57	68	81	64	64	76	776	2	0	
皮膚科	男	0	0	0	1	2	4	0	2	2	2	1	0	17	0	0	
	女	1	1	1	1	4	0	3	3	1	1	1	3	20	1	0	
	総計	1	1	1	2	6	4	3	5	3	3	3	3	37	1	0	
泌尿器科	男	22	14	18	22	27	24	22	21	20	30	30	26	276	20	0	
	女	8	7	5	12	6	7	4	3	5	4	8	5	74	6	0	
	総計	30	21	23	34	33	31	26	24	25	34	38	31	350	26	0	
菌科	男	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	2	0	5	1	0	
	女	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	
	総計	0	2	0	0	0	1	1	1	1	0	2	0	7	1	0	
新生児	男	12	3	13	9	6	7	10	15	8	8	7	3	101	0	0	
	女	14	12	9	8	10	9	5	4	7	10	5	102	0	0		
	総計	26	15	22	18	14	17	19	20	12	15	17	8	203	0	0	
睡眠	男	0	0	0	2	1	3	1	0	0	1	0	0	8	0	0	
	女	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	
	総計	1	0	0	2	2	4	1	0	1	1	0	0	11	0	0	
ナイトベッド	男	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	5	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	0	0	
	総計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	1	1	8	0	0	
総数	男	232	227	246	274	247	236	247	235	278	254	243	291	3010	201	0	
	女	227	237	258	235	254	242	246	218	245	225	210	238	2835	148	0	
	総計	459	464	504	509	501	478	493	453	523	479	453	529	5845	349	0	

2023年度 診療科別・年齢階層別・性別 統計(入院)

診療科	対象	年齢階層																	総数	平均年齢			
		0~0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳			80~84歳	85~89歳	90歳~
呼吸器	男	0	0	0	0	0	2	2	1	3	3	5	7	12	11	25	48	47	55	34	46	303	75.5
	女	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	2	6	3	3	8	12	28	28	34	58	164	82
	総計	0	0	0	0	0	2	2	3	4	5	7	13	18	14	33	60	75	83	68	104	467	77.8
循環器	男	0	0	0	0	0	1	1	0	2	3	3	12	14	19	30	57	36	39	44	45	506	75.5
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	19	24	30	57	75	224	83.4
	総計	0	0	0	0	0	1	1	0	2	3	3	12	14	19	37	76	60	69	101	120	530	78.8
消化器	男	0	0	0	0	0	2	2	1	2	3	6	13	15	23	37	76	71	74	60	36	487	72.5
	女	0	0	0	0	0	0	0	3	9	14	14	27	29	45	92	92	81	74	60	36	449	74.5
	総計	0	0	0	0	0	2	2	4	12	22	20	40	44	72	129	168	152	148	120	72	936	73.5
腎臓	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
糖尿病	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総診	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科	男	66	109	27	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	205
	女	51	89	26	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	173
	総計	117	198	53	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	378
外科	男	0	0	2	1	1	2	1	3	0	5	7	18	17	19	39	52	67	48	18	5	305	69.8
	女	0	0	0	1	3	2	5	2	5	11	9	15	16	26	38	26	38	26	18	16	212	67.9
	総計	0	0	2	2	4	4	6	7	10	16	16	33	33	45	78	105	105	74	36	21	517	69
脳外科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	26	108	143	102	21	12	4	5	2	5	9	3	6	0	0	2	457
	総計	0	0	0	0	0	26	108	143	102	21	12	4	5	2	5	9	3	6	0	0	2	457
眼科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	男	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新生児	男	101	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	101	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
睡眠	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ナイトヘッド	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総数	男	167	101	31	22	17	18	15	42	50	75	108	145	178	277	487	420	363	280	384	421	3010	64.2
	女	153	89	30	15	21	39	124	152	118	146	55	74	58	105	132	258	267	298	380	421	2835	62.6
	総計	320	190	61	37	38	56	142	167	160	96	130	182	203	283	409	725	687	661	664	634	5845	63.4

2023年度 診療科別・在院日数別・性別 統計(入院)

診療科	対象	在院日数別												総数	平均日数	
		1~7日	8~15日	15~31日	31~60日	61~90日	91~180日	181日~1年	1年~							
呼吸器	男	86	78	73	46	16	4	0	0	0	0	0	0	0	303	21.2
	女	45	46	37	33	3	0	0	0	0	0	0	0	0	164	18.9
	総計	131	124	110	79	19	4	0	0	0	0	0	0	0	467	20.4
循環器	男	117	78	69	33	6	3	0	0	0	0	0	0	0	306	15.6
	女	47	56	74	37	5	4	0	0	0	0	0	0	0	224	22
	総計	164	134	143	70	11	7	0	0	0	0	0	0	0	530	18.3
消化器	男	194	149	86	44	8	6	0	0	0	0	0	0	0	487	15.1
	女	129	93	69	43	9	6	0	0	0	0	0	0	0	349	17.6
	総計	323	242	155	87	17	12	0	0	0	0	0	0	0	836	16.1
腎臓	男	83	43	39	32	8	3	0	0	0	0	0	0	0	208	18.6
	女	33	24	29	16	9	5	0	0	0	0	0	0	0	113	22.8
	総計	116	67	68	48	17	8	0	0	0	0	0	0	0	321	20
糖尿病	男	24	40	55	20	8	2	0	0	0	0	0	0	0	148	22.5
	女	42	40	56	28	8	2	0	0	0	0	0	0	0	174	21.1
	総計	66	80	111	48	14	4	0	0	0	0	0	0	0	322	21.7
血液	男	29	18	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	53	8.5
	女	7	8	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	19	14.8
	総計	36	26	5	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	72	10.2
総診	男	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5.3
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	10.5
	総計	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	7.4
小児科	男	173	31	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	205	5.2
	女	144	28	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	173	5.4
	総計	317	59	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	378	5.3
外科	男	165	84	8	14	0	2	0	0	0	0	0	0	0	305	10.9
	女	102	70	27	10	2	2	0	0	0	0	0	0	0	212	11.2
	総計	267	154	65	24	4	4	0	0	0	0	0	0	0	517	11.1
脳外科	男	19	19	13	11	6	16	4	1	1	4	1	1	90	56.9	
	女	14	11	12	6	6	16	4	1	1	4	1	1	69	60	
	総計	33	30	25	17	12	33	8	2	2	8	2	2	159	58.2	
産婦人科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	201	217	11	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	457	9
	総計	201	217	11	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	457	9
眼科	男	178	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	183	4.1
	女	203	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	206	4.2
	総計	381	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	389	4.1
整形外科	男	94	53	70	59	25	6	0	0	0	0	0	0	0	307	23.9
	女	89	62	136	109	55	18	0	0	0	0	0	0	0	469	31.5
	総計	183	115	206	168	80	24	0	0	0	0	0	0	0	776	28.5
皮膚科	男	10	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	8.2
	女	4	11	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	11.7
	総計	14	15	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	10.1
泌尿器科	男	155	58	48	12	3	0	0	0	0	0	0	0	0	276	10.6
	女	41	18	11	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	74	10.6
	総計	196	76	59	16	3	0	0	0	0	0	0	0	0	350	10.6
歯科	男	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	19.2
	女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8.5
	総計	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	16.4
新生児	男	54	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	101	7.8
	女	45	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102	7.8
	総計	99	104	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	203	7.8
睡眠	男	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	2
	女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2
	総計	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	2
ナイトベッド	男	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1.6
	女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1.7
	総計	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1.6
総数	男	1389	709	493	273	42	4	1	3010	15.9						
	女	1154	744	486	300	97	49	5	2835	17.6						
	総計	2553	1453	985	573	180	91	9	5845	16.7						

2023年度 国際疾病分類 大分類別・診療科別・性別 統計(入院)

コード	国際疾病分類	対象	呼吸器	循環器	消化器	腎臓	糖尿病	血液	総診	皮膚科	泌尿器科	産科	睡眠	ナイト ヘルプ	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	整形外科	新生児	総数	
A00~B99	I 感染症及び寄生虫症	男 6 女 5 合計 11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60
C00~D48	II 新生物	男 39 女 11 合計 50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97
D50~D89	III 血液及び造血系の疾患 並びに免疫機構の障害	男 1 女 2 合計 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69
E00~E89	IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	男 13 女 6 合計 19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	177
F00~F99	V 精神及び行動の障害	男 11 女 1 合計 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	439
G00~G89	VI 神経系の疾患	男 3 女 4 合計 7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
H00~H59	VII 眼及び付属器の疾患	男 0 女 0 合計 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44
H60~H85	VIII 耳及び乳突突起の疾患	男 2 女 1 合計 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68
I00~I99	IX 循環器系の疾患	男 11 女 13 合計 24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	112
J00~J99	X 呼吸器系の疾患	男 148 女 62 合計 210	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	299
K00~K93	XI 消化器系の疾患	男 2 女 5 合計 7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	758
L00~L99	XII 皮膚及び皮下組織の疾患	男 10 女 1 合計 11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
M00~M89	XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	男 2 女 3 合計 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
N00~N89	XIV 腎尿路生殖腺系の疾患	男 7 女 15 合計 22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	125
O00~O89	XV 妊娠、分娩及び産褥	男 0 女 0 合計 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	212
P00~P86	XVI 周産期に発生した病態	男 0 女 0 合計 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	241
Q00~Q89	XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	男 1 女 1 合計 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	158
R00~R89	XVIII 症状、徴候及び異常 臨牀診断、異常検査所見 で他に分類されないもの	男 0 女 0 合計 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	212
S00~T98	XIX 損傷、中毒及びその 他の外因の影響	男 3 女 9 合計 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	409
U00~U89	XX II 特殊目的用コード	男 5 女 18 合計 23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	377
Z00~Z99	XX I 健康状態に影響を 及ぼす要因及び 保健サービスの利用	男 46 女 3 合計 49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42
	総数	男 303 女 164 合計 467	836	487	449	208	113	174	193	224	348	113	322	72	530	836	321	322	72	530	836	321	5845

2023年度 国際疾病分類 大分類別・年齢階層別・性別 統計(入院)

コード	国際疾病分類	対象	0~0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳~	総数	平均年齢	
A00~B99	I 感染症及び寄生虫症	男	6	13	4	2	2	2	1	0	2	1	3	2	3	2	0	4	4	4	3	4	60	35.2	
		女	3	11	4	0	4	0	1	0	1	0	0	2	1	1	1	1	1	1	1	5	57	50.3	
		総計	9	24	8	2	3	2	3	1	3	1	3	3	4	3	1	5	5	5	5	9	57	50.3	
C00~D48	II 新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	1	3	1	20	34	106	83	82	47	28	438	74.8	
		女	0	0	0	0	0	0	0	4	6	8	6	13	11	39	46	46	39	38	41	39	238	72.4	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	5	7	11	19	16	20	82	152	152	124	120	88	66	738	73.6	
D50~D89	III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	70.5	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E00~E90	IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	男	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	25	66.6
		女	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	25	66.6
		総計	0	0	2	2	0	0	0	2	1	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	50	66.6
F00~F99	V 精神及び行動の障害	男	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G00~G99	VI 神経系の疾患	男	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	2	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H00~H59	VII 眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H60~H85	VIII 耳及び乳様突起の疾患	男	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	4	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
I00~I99	IX 循環器系の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
J00~J99	X 呼吸器系の疾患	男	9	70	14	10	2	2	1	0	1	2	4	10	14	2	8	11	14	29	46	40	47	57	
		女	62	17	5	1	0	0	0	0	1	2	1	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	18	132	31	15	3	2	1	1	2	3	6	16	18	3	8	11	15	29	46	40	47	57	
K00~K93	XI 消化器系の疾患	男	2	0	0	1	3	6	3	6	3	9	11	17	29	31	44	69	53	56	38	16	40		
		女	0	0	0	1	3	2	1	5	8	11	17	29	23	31	44	69	53	56	38	16	40		
		総計	2	0	0	2	6	8	4	11	13	20	34	46	52	62	85	138	112	112	76	32	80		
L00~L99	XII 皮膚及び皮下組織の疾患	男	0	0	0	1	3	6	7	3	14	16	27	42	43	53	58	90	82	97	76	61	69		
		女	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		総計	0	0	0	2	3	6	8	14	16	27	42	43	53	58	90	82	97	76	61	69	69		
M00~M99	XIII 筋骨系及び結合組織の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
N00~N99	XIV 腎原性生腫瘍系の疾患	男	1	1	1	1	1	2	2	3	6	8	11	7	1	3	9	11	15	22	26	37	167		
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		総計	1	1	1	1	1	2	2	3	6	8	11	7	1	3	9	11	15	22	26	37	167		
O00~O99	XV 妊娠、分娩及び産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
P00~P96	XVI 周産期に発生した病態	男	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		総計	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
Q00~Q99	XVII 先天形態、変形及び染色体異常	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		総計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
R00~R99	XVIII 症状、徴候及び異常臨床検査・身体検査所見(他に分類されないもの)	男	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		総計	6	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
S00~T98	XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	0	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	0	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		総計	0	6	6	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
U00~U99	XX II 特殊目的コード	男	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		総計	6	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
Z00~Z99	XX I 健康状態に影響を及ぼす要因及び健康評価コードの利用	男	104	6	2	2	3	2	2	3	5	3	4	9	15	12	2	3	9	8	14	24	27		
		女	103	4	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		総計	207	10	3	6	3	2	2	3	5	3	4	9	15	12	2	3	9	8	14	24	27		
		男	207	10	3	6	3	2	2	3	5	3	4	9	15	12	2	3	9	8	14	24	27		
		女	152	90	0	22	17	12	18	13	16	12	40	76	124	106	106	127	152	160	133	103	103		
		総計	328</																						

2023年度 国際疾病分類 大分類別・在院日数別・性別・性別 統計(入院)

コード	国際疾病分類	対象	1~7日	8~15日	15~31日	31~60日	61~90日	91~180日	181日~1年	1年~	総数	平均日数
A00~B99	I 感染症及び寄生虫症	男	34	16	7	3	0	0	0	0	60	9.6
		女	30	13	7	7	1	0	0	0	57	13.2
C00~D48	II 新生物	男	64	29	13	10	11	0	0	0	117	11.4
		女	194	123	84	40	12	6	0	0	459	15.7
D50~D89	III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	男	119	92	48	28	9	3	0	0	299	15.9
		女	313	215	132	68	21	9	0	0	758	15.8
E00~E90	IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	男	6	3	3	2	0	0	0	0	14	12.6
		女	4	5	3	4	0	0	0	0	11	16.5
F00~F99	V 精神及び行動の障害	男	10	5	6	4	3	1	0	0	23	15.2
		女	11	12	11	6	3	1	0	0	44	22.9
G00~G99	VI 神経系の疾患	男	19	15	18	12	3	1	0	0	68	21.6
		女	30	27	29	18	6	2	0	0	112	22.1
H00~H59	VII 眼及び付属器の疾患	男	2	2	2	4	1	0	0	0	11	35.5
		女	8	5	4	5	1	0	0	0	23	22.7
H60~H95	VIII 耳及び乳突突起の疾患	男	10	3	3	2	1	0	0	0	16	14.9
		女	22	7	4	5	1	0	0	0	39	13.6
I00~I99	IX 循環器系の疾患	男	176	5	0	0	0	0	0	0	181	4.1
		女	200	3	0	0	0	0	0	0	203	4.2
J00~J99	X 呼吸器系の疾患	男	376	8	0	0	0	0	0	0	384	4.2
		女	15	6	0	0	0	0	0	0	21	6
K00~K93	XI 消化器系の疾患	男	17	6	1	0	0	0	0	0	24	6.3
		女	32	12	1	0	0	0	0	0	45	6.1
L00~L99	XII 皮膚及び皮下組織の疾患	男	107	76	63	34	13	19	4	1	317	27.4
		女	53	48	61	10	20	4	0	0	233	32.9
M00~M99	XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	男	160	124	124	71	23	39	8	0	560	23.9
		女	136	76	62	53	13	4	0	0	369	19.9
N00~N99	XIV 腎泌尿生殖器系の疾患	男	169	37	52	37	3	4	0	0	238	15.6
		女	245	113	84	90	21	4	0	0	607	18.2
O00~O99	XV 妊娠、分娩及び産褥	男	285	120	55	26	2	2	0	0	410	11.6
		女	123	84	44	24	4	3	0	0	282	14.2
P00~P96	XVI 周産期に発生した病態	男	328	204	99	50	6	5	0	0	692	12.7
		女	8	3	6	6	0	0	0	0	17	10.5
Q00~Q99	XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	男	5	9	5	2	0	0	0	0	21	13.5
		女	13	12	11	2	3	0	0	0	38	12.2
R00~R99	XVIII 症状、徴候及び異常臨床検査所見で他に分類されないもの	男	15	25	27	14	4	2	0	0	87	23
		女	9	18	69	20	8	1	0	0	125	26.2
S00~T98	XIX 損傷、中毒及びその他の外国の影響	男	24	43	96	34	12	3	0	0	212	24.9
		女	112	54	58	13	3	1	0	0	241	13
U00~U89	XX 特殊目的用コード	男	53	53	43	13	3	2	0	0	167	16.4
		女	165	107	101	26	6	3	0	0	408	14.4
Z00~Z99	XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	164	187	19	7	0	0	0	0	377	8.5
総数		男	25	17	0	0	0	0	0	0	42	6.3
		女	16	18	0	0	0	0	0	0	34	7.6
総計		男	41	35	0	0	0	0	0	0	76	6.9
		女	2	3	1	0	0	0	0	0	6	8.9
R00~R99	XXII 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	男	1	4	1	1	0	0	0	0	3	14.3
		女	2	0	1	0	0	0	0	0	3	10.7
S00~T98	XXIII 症状、徴候及び異常臨床検査所見で他に分類されないもの	男	5	0	0	0	0	0	0	0	5	4.4
		女	7	0	1	0	0	0	0	0	8	6.9
U00~U89	XXIV 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	男	152	52	56	53	21	5	0	0	339	19.3
		女	89	57	85	89	52	17	0	0	399	32.3
Z00~Z99	総数	男	241	109	141	152	73	22	0	0	738	26.3
		女	29	13	10	9	2	0	0	0	63	15
総計		男	20	14	8	4	1	0	0	0	47	13.1
		女	49	27	18	13	3	0	0	0	110	14.2
総計		男	156	99	30	13	4	1	0	0	303	10.7
		女	102	81	21	4	3	2	1	0	214	11.8
総計		男	258	180	51	17	7	3	1	0	517	11.2
		女	1399	709	499	273	83	42	4	0	2010	15.6
総計		男	1154	744	488	300	97	46	5	0	2895	17.6
		女	2553	1453	983	573	180	91	9	1	3643	16.7

2023年度 手術分類 大分類別・診療科別・性別 統計(入院)

コード	国際疾病分類	対象	呼吸器	循環器	消化器	腎臓	糖尿病	血液	総診	皮膚科	泌尿器科	歯科	睡眠	ナイト ヘッド	小児科	外科	脳外科	産婦人科	眼科	整形外科	新生児	総数			
01~05	I 神経系への手術	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	34		
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	
06~07	II 内分泌への手術	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
08~16	III 眼への手術	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	184	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	184	
18~20	IV 耳への手術	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
21~29	V 鼻、口および咽喉への手術	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
30~34	VI 呼吸器系への手術	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
35~39	VII 心血管系への手術	男	0	0	6	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	34	
		女	0	0	2	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	1	0	0	0	0	0	25	
		総計	0	0	8	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	1	0	0	0	0	0	59	
40~41	VIII 血液系及びリンパ系への手術	男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	7	
42~54	IX 消化器系への手術	男	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	209	0	0	0	0	0	0	213	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110	0	0	0	0	0	0	110	
		総計	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	319	0	0	0	0	0	0	323	
55~59	X 尿路系への手術	男	0	0	0	0	1	0	0	0	0	133	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	133	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	183	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	183	
60~64	XI 男性器への手術	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	
65~71	XII 女性器への手術	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
72~75	XIII 産科的処置	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
76~84	XIV 筋骨格系への手術	男	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	193	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	305	
		総計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	498
85~86	XV 外皮組織への手術	男	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	8	
		総計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	37	0	0	0	0	0	0	19	
87~99	XVI 多方面の診断的治療的処置	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総数		男	0	0	0	6	21	1	1	0	1	223	2	0	0	0	226	20	0	0	0	0	0	0	184
		女	0	0	0	3	12	0	0	0	0	59	1	0	0	0	159	7	138	205	327	0	0	911	
		総計	0	0	9	33	1	1	1	0	1	282	3	0	0	0	385	27	138	389	545	0	0	1814	